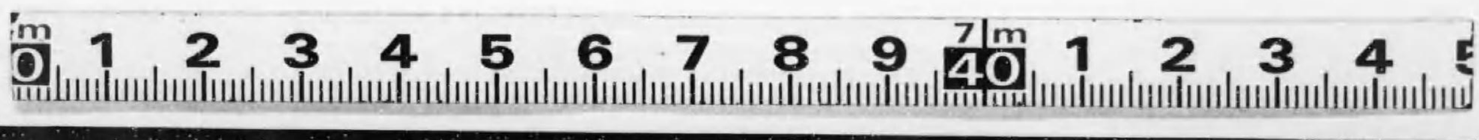
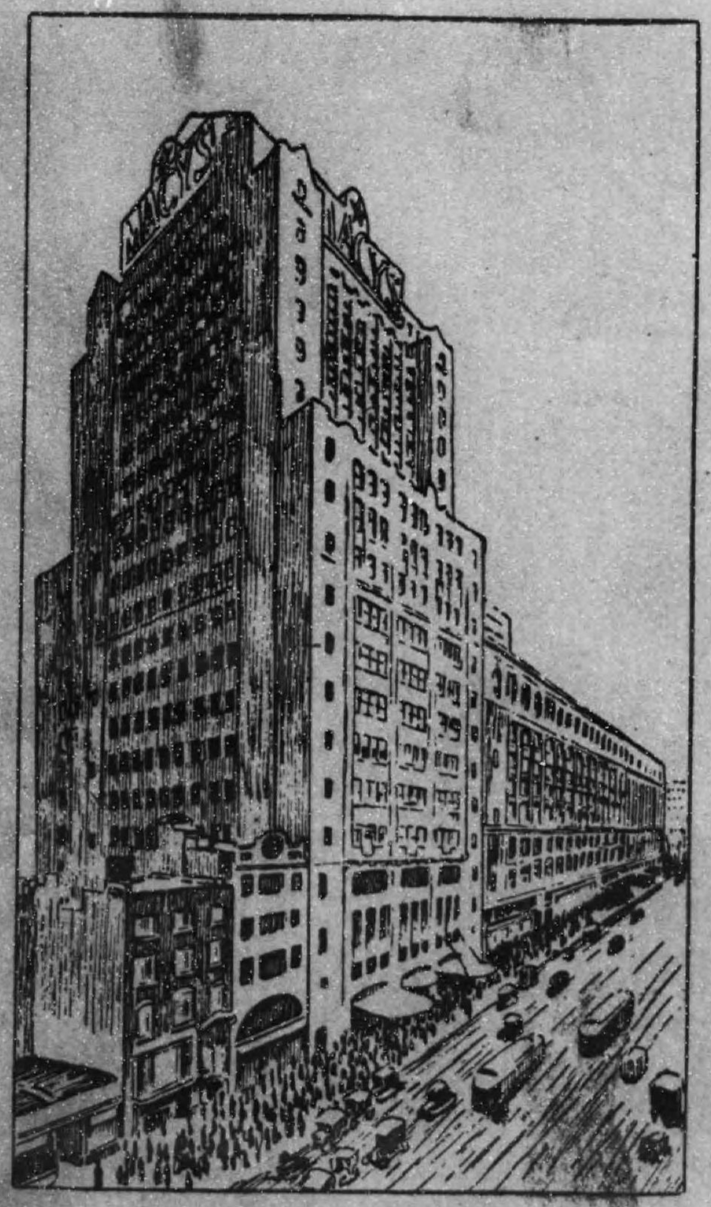
528
211



歐米百貨店事情



石渡泰三郎著

528-211

歐米百貨店事情

大正
14. 2. 2
内交

PORT SAÏD. — Une pointe dans le désert.

自序

一九二二年秋社命を帶びて歐米百貨店視察の爲め渡歐し、翌一九二三年盛夏米國を經て歸朝するまで、約八ヶ月間に見聞せる旅行記を纏めたるもの、元來一年にも滿たざる短時日に於ける見聞を以て歐米の事情を説くは、恰かも小間使が初めて帝劇を覗いて「羽左衛門はよかつたわネー」といふの類かも知れない。

遮莫此見聞記が百貨店研究者並に歐米未見の讀者諸賢にとりて多少とも參考とならば著者の望外の仕合である。

本書收むるところ「外遊八ヶ月」及「歐米百貨店廻り」の二編は共に大阪時事新報夕刊に「外遊見聞餘錄」は白木屋大阪支店發行の「サー

歐米百貨店事情

内容

歐米百貨店巡り

倫敦百貨店の特色……（一）
ハロッヅ百貨店……（八）
セルフリッヂ、バーカー……（一四）
倫敦百貨店の店員講習……（一八）
巴里の百貨店……（二三）
瑞西の百貨店……（二七）
伊太利の百貨店……（三〇）
伯林の百貨店……（三五）

チライト」に「百貨店とは斯んなもの」は週刊朝日に載録せるものである。

特に大時が其貴重なる紙面を割愛せられたるは同紙の編輯長同窓の先輩上杉彌一郎君の厚意に負ふ所多し併せて茲に謝意を表す。

大正十三年十二月末日

白木屋呉服店大阪支店事務室にて

石渡泰三郎

紐育の百貨店……（四八）
市俄古の百貨店……（五五）
費府の百貨店……（六〇）
ボストンの百貨店……（六四）
歐米の贅澤屋……（六八）

外遊八ケ月

獨逸……（七三）
伯林挿話……（八一）
佛蘭西……（八七）
伊太利……（一二五）
英吉利……（一三六）

亞米利加……（一五三）
英佛殖民地の一瞥……（二〇二）
歐洲百貨店女子店員の接客振り……（二〇六）
百貨店とはこんなもの……（二〇九）

外遊見聞餘錄

佛領殖民地河内市街視察記……（二二五）
佛領西貢……（二二八）
無名の戰士が墓……（二三一）
フォードの奇策……（二三二）
香港より……（二三五）
獨逸ミュンヘンより……（二三七）

英國の新聞と國民……（一四〇）
外遊の仕度……（一四四）
歐米百貨店事情内容（終）

歐米百貨店事情

石渡泰三郎著

歐米百貨店廻り

倫敦百貨店の特色

から別段之を改造して米國式の新樣式に全然變形もしようこもせず、一般顧客たる英國人も太して之を不便こも亦古くさいこも感じない爲めであらう。依然こして昔のまゝに順次棟を增したに過ぎないから店内の聯絡こいふやうなものは少しもない。

一部屋一部屋に仕切られたまゝである、一面には又此市の建築條令で七階八階の高層な建築物を許さないのこ、或は倫敦の市中の家屋が大概百年から二百年こいふ年數を經たまゝ今日に及んで居つて、其建物の高さも大抵四階乃至五階ぐらゐを一般限度こして居るが爲めに、別に人々が新建築を要求しない爲めでもあらうか、何れにしても百貨店こしての店内の模樣は實に不便こ云はなければならない、然し他方から考へて英國人には此不便のやうな所が、性急な日本人から見れば悠長な事だが、英國人に對しては尊敬を拂ふ氣分に取れるかも知れない。何か御入用で？　こ輕く聞かれるこころを「ホワット、デパーメント、ヅ、ユー、ウオント？サー」最後にサーの敬語付でモーニングを着た店員にしかつめらしく云ひかけられるこ一寸たぢ〳〵つこして返事に困る位である、誠に格式ばつたこいふ風はたしかに見受けら

れる、現に私が「ハロッヅ」の祕書に會つた際にも第一に本店は亞米利加式の百貨店こは趣を全然異にして居るこ斷つて居つたほどであつた。

倫敦の百貨店は恰度ホテルの客間か乃至ホールに入つたやうな感じがしてドツしりこ落ち付いた氣分がする、英國流の堅固な建物、黑味がかつた栗色の室内模樣及家具の配色等、此色ならでは此英國式丈夫向の建物に調和せざるべしこ思はれる。店内は殆ご一部屋毎に仕切られて、仕切戸を下せば若し假に火災の場合でも至極安全だらうこ思はれるほご區劃便利に仕切られて居る、日本で若し斯う云ふ内部模樣の建方をしたならば恐らく顧客の不平は尠くあるまいこ思ふ、要するに大きな建物内に小賣店を集めて區切をした形ちで買物を落ちついた氣分でするのこ、品物の選擇をしたりするのに誠に便利のやうであるが、一目全般を見てデパートを探すのに骨が折れるこここ、土地不案内店内未知の旅行者なごにこつては頗る不便な感はある、然し商品の保管なごには定めしデパート、デパートの限界が明かで都合が宜いここであらう。

尤も巴里や日本の如く「ヴイジター」の尠いことは比較にならない、百貨店の樣式から云へば日本や巴里の方が遙に進歩して居ることゝ云へるだらうが、英國は英吉利人の國民性に合した建築樣式に別段不自由も不便も感じないものゝ想像出來る。

現に亞米利加人たる「セルフリッヂ」氏に依つて經營されて居る「セルフリッヂ百貨店」が新築の建物は、多少亞米利加式に傾いて居ることゝ云つても尙且つ餘程店内の模樣などは倫敦式で亞米利加のそれとは非常な相違があつて英國流に少しく亞米利加の樣式を加味したに過ぎない。

倫敦の百貨店が佛蘭西や日本の如く、遊山氣分が尠くて悠々とした氣分で買物をする大名式なことは前に述べた、全く「ハロッヅ」などで千圓以上四五千圓もしさうな彫刻入の凡てのケース類から家具什器内部裝飾の費用は莫大なものであらう、隨つて店内は上品高雅な氣分は味ひ得る、店員も「ハロッヅ」などになると「何か手前でお役に立つならば」などゝ馬鹿叮嚀に出られるゝ少し恐縮せざるを得ない。之を要するに倫敦の百貨店は凡て莊重に落ち

付いた氣分が特徴と謂ひ得られやう。

百貨店の地下室を大概食料品賣場（フードマーケット）と銘打つて頗る大仕掛に種々の食料品を販賣して居るのや、鳥肉類の販賣の大規模なるには聊か驚かせられる、百貨店の中に銀行が出張して爲替其他の銀行事務を取扱ひ、郵便局が出張して三等郵便局の事務を取扱ふなども英國ならではと思はれた、「セルフリッヂ」にも「ハロッヅ」にも手紙を書く室があり食堂がありハロッヅにはライブラリーが書籍賣場以外に設けられてある巴里の百貨店の如く劇場の座席申込取扱所は勿論トーマスクツク旅行社の出張事務所も大々的だ。昇降機の運轉士に女子を採用して居るのも巴里も倫敦も同一であつて之も歐洲大戰の產物であらう。

日本の百貨店の食堂大繁昌は日本だけの特徴で、之は適當な食事を取る料理店の日本に發達しない結果である、歐米共に各百貨店は悉く相當建築物に應じた面積の食堂を經營して居るが日本のやうに食事時に非常に混雜するやうなことはない、寧ろ却ていつも空いて居るくらゐで、而も食堂内に男子の姿を見る事が全く稀だ、食堂に一人男子が食事をして居るなど

は誠に氣がつまるやうな心持ちがする、もう一つ日本の百貨店なぞと違つて倫敦でも巴里でも百貨店の食堂で葡萄酒を賣つてくれることである、女給仕が献立表の註文を聞きにくる序に、ワインはどかお飲み物はどか尋ねる、壜入の葡萄酒を拔いて立派な食卓で食事をするところは一寸貴族的な感じがある。

さて「ハロッヅ」「セルフリッヂ」「バーカー」「ホワイトレー」などを筆頭にヂッケンス、アンド、ジョーンス、マーシヤルロバート、リバチー、デペンハム、アンド、フリーボッデー、レトー、ロビンソンダーリー、アンド、トム其他四五の大商店があるが、「ハロッヅ」「セルフリッヂ」其他二三を除くと大體に於て皆、織物及婦人用品のストアといふことが適當すると思ふ、販賣商品も婦人服裝類が多く先づ日本の呉服屋に相當する。

倫敦と云はず歐米でも百貨店が絶えず賣出しをやつてゐる、冬季賣出し、初賣出し、白布賣出し、特別賣出し、藏拂賣出し、なぞ盛んに新聞廣告欄を賑して居るが、日本と同じやうにお客は矢張り九分通り婦人で、一般家庭の主婦が此の賣出しを待つてゐる、名前こそ種々

異つてゐるが此賣出しは要するに日本の藏ざらへに相當し、季節の殘品や格安品を仕入た場合に賣出すので、今頃はホワイトセールと稱して多くリンネ、ハンカチ類の如き白色の物を賣るのであるが、さりとて白いものに限つた譯でもないやうである、服裝具は勿論家具類でも矢張り通常の値段を消して特價の正札を附けてある、然しこれは日本と事情を異にして平常少くとも最低値をつけて充分利益率を見てあるから此時期に特賣をやつて普通値の半額ぐらゐに賣つても別段損失はないのである、勿論中には顧客の注意を喚起する爲めに特種に一二非常に安いものもあらうが大體全割引商品に就ては顧客の方で安いといふ前提は持つて居つて中産階級以下の主婦などは此賣出しを待つて買物をする。

ショーウ井ンドの陳列に就てはセルフリッヂが一番新しい行方で進歩してゐるがそれでも太した陳列とは思はれない、倫敦へ亞米利加流の陳列法を採用して居るので他店と比較して非常に目新しい感じがするといふ丈である。

ハロッヅ百貨店

「ハロッヅ」と云へば倫敦に於ける老舗で又一番大きい百貨店である、一寸日本に之と比較すべき百貨店はない。本館から別館へ地下を拔けて倉庫に使用されてゐる部分は地上十二三軒も建物が並んで建つて居づて地上は公道になつて居る、地下室に入つて見ると地下室が三階に分れて地上四階の賣場面積に充實する商品の約半分ぐらゐは貯藏して居るであらう、之は支那陶器、あれは何と區分して商品のストックが充滿して居る、通信販賣專門のストック場あり、包裝室あり凡ての商品が判然と區分されて實に驚くばかり大規模にやつて居つて寧ろ本店店頭よりも後方準備の方が完全して居るくらゐに思はれた。ベーカリーへでも入つたやうにパン燒釜を彼れ是れ十個位据付けてパンを燒いて居る、聞くところによれば毎日夜業をして出來上つたパンを毎朝ハロッヅの得意先へ配達するさうだ、値段はこいふと市價よりも少し安く賣るのであるさうな、其パン燒の隣室では生菓子を製造して居るし、紅茶をパッ

キングしてゐる所から珈琲を生から火を入れて之を引き碎いて詰めて居る所、砂糖を山と積んで砂糖會社の工場乾燥室へ入つたやうな所ではぎん〳〵パッキングして配送準備をしてゐる所あり家具の荷造場などは船會社の倉庫へ入つたやうな光景だ、輸出部へ行くと印度の孟買だとか英領加奈陀行の積出準備品が整つて殆ど大きな工場へ入つて見物してゐるやうな有樣である、と云ふほど大規模でやつてゐる、配送場の所は内庭になつた建物と建物の間へ自動車馬車が約四五十臺も入る餘地があつて、係員が夫々帳面になつた一枚一枚へ（約一尺四五寸四方の大きさの野紙へ一枚がザッと五十軒分ぐらゐ書けさうな）配送先を記入して、自動車に積み込んで居るが、一日十萬個の發送品を出すといふことであつた。

前に述べた得意先へパンの配達までするのは矢張り得意先を惹きつけて置く目的であつて此店の祕書の話では七割五分までは保持して行くことが出來るといふことである、其得意先の中で之を月末仕拂と週末仕拂との二種に分けてあるといふことである、そして豫めハロッヅ店内の銀行に預金させて置くらしい、日本では到底行はれぬことだが、豫め「ハロッヅ」

で信用調査をして貴君には何磅までの信用貸を致しますこいふ限度を決めるこ客もそれを承知で「ハロッヅ」の得意客こなる、倫敦では「ハロッヅ」なぞの得意こなることが一種の名譽に心得て居る英人もあるこいふここである、尤も英人は親爺が飲んだ藥を息子が又其同じ藥を買ひに行つて新藥の出たのも知らないが、獨逸人ならばまづ息子の代になつて最初新藥はないかこ聞く、さて新藥でなければ同じ前の舊藥を買つて歸るこ、獨逸人が笑つたこいふ話があるが、是こ同じやうに得意になるのも骨も折れやうが、一回得意名簿に載るこさう無暗に日本のやうに不信用のここを爲す人もないさうである、こゝらに英吉利式のこころも窺はれるこ思ふ。

「セルフリッヂ」なぞも顧客に百磅を預金させて直ぐ之に五ポンドの利息を附し顧客の支拂金額に當るこいふここも聞いたが眞僞は確めなかつた。

「ハロッヅ」の現在使用人數が五千五百人其中女店員が三千人居るこいふここである、庶務人事係の處へ朝詰め掛けてくる男女就職志望者が凡そ七百名ぐらゐあるさうだ、此の店で

は今人を欲すれば幾人でも得られるが然し良い人を得るのはむづかしいこ教養所長が云つて居つた、志望者の中には良い人で店へ雇へば將來爲にはなるが其の人を雇ひ入れて訓練を施す間其の生活費を出してやらなければならない。かう云ふ人に限つて又生活費を其の見習中自辯する丈けの餘裕は持たぬ、さりこて店こしては其れ丈けの經費は出し兼ねるこ云ふのである、通常六週間の教養をして其の本人のむきさうな各デパートへ配屬させるのであるが大概見習期間中一週間十五志を與へるさうである、セールスガールは普通で一週一磅位、よい方で二磅の給料を仕拂ふ、但コンミッションのシステムを採つて居る。

使用人の健康保險は政府の法律に依つて規定されたこころに依れば會社こ使用人こ半々の割合で年額現在十五萬圓(約一万五千磅)をハロッヅ商店が出して居るこいふ事である。店内には無論店員の醫療診斷所あり休憩所の設備の如き規模頗る大きく爲されて居る。

店員の食堂も二箇所あつて食堂へ通ずる入口廊下に三個のカウンターのやうなものが並んで居つて是に從事して居る女店員がボタンを押すこ、食券が支拂つた金高に應じて自動的に

飛び出す仕掛になつて居る、毎日其日の獻立表によつて店員は好む品を買ひ求めて食品と食券とを引換へるのであるが七面鳥の肉をあしらつた高いもので一皿一人前十一片、安い野菜の附け合せだけで一皿二片である、此食券を買ふ場所が恰度銀行の預金口のやうな所と思へば間違ない。

それでは少しく事務室内部を拔けて賣場方面の觀察をして見やう。

家具部の書棚などには必ず書籍が一杯詰めたのを三ツも四ツも陳列して實際的に顧客の購買慾をそそつて居るが、既に百貨店の商賣はサイコロジーの應用に到達しなければ嘘で、かう云ふ實際的に何事も研究陳列する法は日本の商店員の大に學ばねばならぬことゝ思ふ、又家具部に模型の室内を三十も部屋を區切つて應接室、居間、寢室に應じて凡ての家具の種類、塗色等各種の商品を實際に陳列して其前にはソファーを置いてゆつくり眺める仕組にしてあるなどは場所の廣い關係もあらうが一寸日本で眞似の出來ないやり方である。

運動具の賣場へは日本と同じく各種の運動具を販賣して居る間にピンポン臺二臺を備へ付

けて女店員と男店員とゲームをしてゐるほど悠暢なものではあるが、其間に來客が實際やつて見たいと希望すると客にもラケットを持たせてゲームをさせて見る、流石に英國は本場だけにフツトボール、テニス、ゴルフの運動具類が多く、ゴルフの器具を賣る所には一間半四方のチットを張つて、中でエキスパートの男が小さなボールをマットの上に置いて本式に教へて居つた、其ネットには張紙をして斯んな文句が書いてある。

ゴルフの先生(プロフェショナル)が只今(ナアウ)無代(フツテンダンス)で御教授(アドバイスアンドヒツング)申上(ヒツング)ます、又御質問(グラチス)にも應じます。(Golf proffetional now in attendence advice and hints gratis.)

其傍には厚いボール紙をプレスしたやうな切形のゴルフを打つ型を實際的に示してあつた面白いことは前に述べた客食堂の入口に御來客の方々がお互に氣持よく御食事をして頂く爲めに犬を伴れて御入りになることは止めて下さいなどと振つた掲示もあつた、日本では一寸想像されないことであるが、然し實際店内をオールドミスと云つた婦人や老婦人などが犬づれで百貨店へ入つてくる客が澤山あることを認めた。

食堂内では食事中オーケストラで三四人ピアノ、ヴァイオリン、セロぐらゐで簡單に音樂員を使つて音樂を聽かせてくれるのも大變よい、之れがバンドになつたら大ホテルの食堂のやうに大仰になるが此位の小人數は一寸よいものである。

セルフリッヂとバーカー

セルフリッヂ

倫敦では今一般より進歩的で且つ値段の安い、サーヴィスのよいと云ふので人氣を博して居るのはオックスフォード、サーカスにあるセルフリッヂ商店であらう、ハロッヅが稍々貴族的の傾向あるのに反して、セルフリッヂの方は稍や民衆的だ、最も此店は亞米利加人たる「セルフリッヂ」氏によつて經營されて居る爲めに其の經營ぶりが保守的の倫敦百貨店の中でも群を抜いて新らし味が流れて居る、多少亞米利加ナイズした所が一般に進取的に見ゐる點であらう、此店も第二期の擴張工事を施す爲めに暫く勞銀及建築材料の更に下落するのを待つて居つたが愈々昨春から改築工事に取り掛つたから是が完成の上は新裝を凝らして今後大

に雄飛するに違ひない。

此店はハロッヅに比べると店内及後方勤務方面共に到底前者の如く規模も資本も大きくはないが、後者の方が新進だけに活氣が充實して居るのを見受けることが出來る、此店の顧客は三分の一は信用貸三分の二は現金買であつて、店内のバーゲンセールは中々活躍して居つた此バーゲンセールが日本でいふ特賣場といふものに當嵌るが矢張り婦人客で大繁昌だ、地下室に食料品賣場があり、隅の方には棚を設けて茶菓を喫し少憩を得せしむる設備をしてあつたが棚に相當の値段（reasonable price）と銘打つたのも面白い。

此店の賣場を一瞥して見ると洋服部の賣場で柱を應用した屏風式折疊の鏡を取つけたものは珍らしい試みではないが便利な仕組で氣が利いてゐる、總じてハロッヅもセルフリッヂも店内に鏡を多く用ひたことは英國の建物に不似合なくらゐだ、ピアノを販賣して居る場所は電氣のシェードが如何にも音樂室らしい氣分に調和して見ゐた、堪能な賣子が演奏して居つたが此部屋即ち賣場は一番よく此店の建物に調和した樣な内部模樣といふ感じを與へた、羽

二重や絹布を張つた電氣シエードの販賣は英佛共に非常に盛んである、造花の販賣も勿論盛んであるがハロッヅでもセルフリッヂでもフードマーケットに隣つて草花類販賣は建物が建物だけに植物園の温室へ入つた樣な清新な氣分が漲つて居つた、前記のピアノ室には月賦販賣を爲すと見ゐて手近のピアノに百八十磅に對し二箇月五磅十五志六片の支拂といふ割合で信用保證人二人を要することまで附記されてあつた。

此店の組織は專務取締役の下に營業部長あり其下に助役あり、是が各デパートのマネジヤーを監督し、其下に又仕入係があり及販賣員ありといふ順序になつてゐる。

バーカー百貨店

倫敦ケンシントンに位置してバーカー百貨店がある、此店も新改築を施して現在はセルフリッヂの現狀よりも大きくハロッヅよりも稍々新式の氣分がある、目下は三年前合併せる隣接せる商店の合同經營のことゝて、三箇所にて營業せる形にて規模も中々大きい、此三箇所

の建物を上中下三階級に應ずる商品に區分し、凡ての階級に向つて顧客吸收策を講ずる計畫なりとは專務の話であつた、ハロッヅが幾分上層階級に應ずる色彩明かなるを認め得べく其他は大體に於て大同小異の間にあるが、食料品部は英國一だらうなどと此處の祕書が自慢の一つであつた。

前述の隣接家屋の間がアルケードになつてショーウヰンドが人目を惹き而して直にそこが地下鐵道に聯接せる爲め出札所が店内に設備せられて居る形ちで誠に便利に出來上つて居る亞米利加は地下鐵道の降車口からプラットフオームを拔けて直に百貨店のメーンフラワーへ出るやうになつたのは紐育に澤山あるが、英國は倫敦で此店だけの樣に記憶して居る、總じて各小賣店の往來下を地下室として各戸に使用せしむる處は日本で一寸想像の及ばないことだ「インクワイヤリー」とせる下に女店員二名ありて特に顧客の買物に付ての苦情を處理する場所は頗る氣の利いたもので各店にも是だけ特に顧客の買物に就てのみのトラブルを處理するやうに明瞭にしたのはない。

賣場に特に六疊敷位の四面鏡張りの一間を婦人服販賣部に備へ是の中には自然の太陽の光線と電氣の光線とを自由に採り入れ得るやうになして婦人服の色合を見る仕掛にしたのは中々洒落れたものだ、亞米利加の百貨店は此ランプを使用したものは澤山あるが皆賣場臺に据付けたもので是程丁寧に部屋を區切つて設備したものは少い樣に思ふ。

鐵道に關して旅行切符の相談に應ずる「テイケットデパート」あり又「シッピング」は海外發送積出荷物についての取調べを要する場合之に種々のアドバイスを爲す係もある。

倫敦百貨店の店員講習

滯英中私は屢々オックスフォードサーカスのセルフリッヂ百貨店を訪れた、そこで亞米利加流の一見快活な若い紳士と懇意になつて度々其青年紳士の事務室も訪ね、時にはホテルセシルで晩餐の卓を共にしたこともある、此若い青年紳士は米國のハーバードで學んで今は「セルフリッヂ」で仕事の見習をして居る、店主の息、ゴルドン、セルフリッヂ氏である、比較

的口數の少いゴルドン君は或日ウキークエンドに自動車の運轉を過つて三週間も手首を動かせないやうに負傷したといふ肩から繃帶を掛けて不自由さうに左手へペンを以て獨逸の漢堡から倫敦まで飛行機で飛んだ話を續けて居ると、恰度其處へ見習店員の講習を終つて其報告に來た教習所長のアービー女史を紹介してくれた。

それから二三日過ぎて私はアービー女史と約の如く一日同女史の教習時間に見習店員の訓練や教授方法を見た。

「セルフリッヂ」の講習室は目下の處本館と離れて隣接した裏通りの長屋風の假事務室の狹い部屋で凡そ二十四五人位を收容するに足る小さなものである、私は席の後の方に座して聽講して居つたが其時の講習員は男子見習店員一人、女子見習店員七八名及び女生徒三人で、之は未だ全然店へ出ない學生の樣な者であつた、此講習生達は朝の中仕事の間に講習を受けるのであるが、其教授ぶりはと云へば凡て實際的で、各々が店内組織を書いたもの一册づつとスクラップブックの樣に各種の傳票を各頁に添付したものを一册づつ貸し與へて、ストアシ

ステムの說明ミ實際の傳票記帳法、字句の書方等をアービー女史自らチョークをミつて黑板に記入して見せる、黑板は四通に上下の出來る移動式にして區切られ、之に重要一般必要傳票のフォームが刻まれて居る。

アービー女史自ら記帳を示し、誤記を訂し、又正確記帳法を敎へ質問を爲し、之に對して講習生疑問を質すミいふ風に、少しも無駄がなく實際的である、時々傳票を與へて生徒自ら各一應記帳をさせて見るが。

扨、何處も同しで說明を聽いて居る時は解つても實際に傳票を書かして見るミ日附の脫落や數字の脫落誤謬があるなぜ容易い事でも矢張り經驗の必要ミ慣れるミいふこゝの必要が認められるやうだ。

かう云ふ風にストアシステムミ相俟つて實際的に傳票の記帳方を敎へる爲めに講習生にも解り易く且つ實地に役立つ下準備が出來るミ思ふ。

此講習生の机やスクラップブックの表記には、

講習生は全く敎へられた通りの見本に示す頭文字を使用すべし、ミアルファベットの楷書が明瞭に書き顯はされて居る。

常に字體を明確に記入すべきこゝを暗示し、且つアービー女史も此點に就ては吳れ〴〵も間違ひ無きやう注意を與へて居る、例へば似通へる番地町名を詳細に記入するこゝエムミエヌの字體は明瞭に記入するこゝ、姓名は全部明記するこゝなぜ恰も日本の百貨店に於て絕えず起る問題ミ少しも相違のない不注意から生ずる些末のこゝに就て充分注意を與へて居つた是等の講習生の內生徒ミ稱する者は十五六歲の女子、他は二十二、三歲より二十六、七歲迄の店員であつた。

ハロッヅも同じやうに敎養掛の先生は二十七、八歲より三十歲ぐらゐの女子の先生で、敎室の如きも五室各五十名ぐらゐを容れる部屋があつて新入店員に店の組織や接客の態度なぜを講習するので、私の見學した時は四十位の男子ミ三十四、五歲の女子が授業が濟んだ後も尙殘されて若い女の先生に講習を受けて居つたが、セルフリッヂの講習もハロッヅの講習も

私に一つの大きな印象は與へたことは、講習生の眞面目であるといふ一事だ、凡て西洋人が年輩の如何を問はず自分の知らない事はつまらない子供のするやうな簡單なことでも、これが自分の仕事に關係のあることならば總てそれを知らうといふことに對して誠に眞面目であつて實際的に物を確めるといふ事だ、隨つて爲る事に責任を伴つて來て日本人のやうにつまらぬ恥しかりをしたり知つたかぶりをしないから仕事が生きて行くやうだ、兎角日本人の理屈ほいのに反して實行が早い。

巴里の百貨店

佛京巴里に百貨店がザッと十ぐらゐある、其中指を屈するのがボンマルシエ、ルーブル、ブランタン及ラフアイエットで各相伯仲するところであらう、巴里の百貨店は建築の外觀は勿論內部の模樣が如何にも百貨店らしく且つ佛蘭西らしい瀟洒な趣方である。是等四百貨店なぞ云ひ合はしたやうに店內の中央に取り付けた階段が日本の庭園趣味で浮橋でも云ふべ

きものから印象したデザインは如何にも華奢に一寸風流氣に出來上つて居つて、二階三階四階と此中央階段を中心にして廻廊風に賣場をこしらへたのは感じのよい建て方だ、店內の裝飾賣場の陳列が細かい鐵柱や華著な欄干なぞと色彩が調和して何となく賑やかな感じを與へて出入の多い入場客にまで浮立たせるやうな氣分を感じさせる、而も賣子は殆ど女店員で之が又世界一愛嬌のよい國民とて。うつかり素見しでもしようものなら何か買はなければ濟まないやうな破目になつてしまふほど客待遇が上手だ。

巴里の百貨店に於て一種の特色は建物の軒先一帶ガラス張りの突出し凡そ巾約二間半位人道へ擴がり、其下へ四尺四方位の賣場臺を澤山出して恰度緣日商人が軒先で商賣をするやうに見切商品を賣つて居るが各賣臺に一ッつつ見切品（Solde）とカードを建て、客寄せをして居るのが隨分人だかりも多く安物が賣れて行く模樣である。

巴里の百貨店のもう一ッ特徵は四方八方に客の出入口が多いことで大概十から十二ぐらゐ位置と建物周圍の關係はあれど出入口の廣いのは亞米利加以上世界一であらう、隨て巴里の

百貨店の店内看板の中には處々に出口（ソルティー）（Sortie）と記した看板が到る處の賣場看板と交つて目につくやうにしてある。

それから巴里は大通りを歩いても小賣店の店頭鏡張りの多いことは或る私の知己の者で色の眞黑の男が巴里の街を歩いて居ると向ふから馬鹿に汚い色の黑い變な男が自分の方へ近ついてくると思つてよく〳〵見たらそれは自分の姿が道すがら鏡へ寫つたので落膽したといふ事實話があるが、巴里の街は小賣店料理店何れと云はず鏡を澤山惜しげもなく使用して居るのを見受けるが百貨店も其例に洩れず各店とも柱といふ柱は悉く鏡にて張り詰めアルミの家庭用臺所用品の如き若くはガラスコツプ類の如きもの、澤山陳列されたバツクは是亦必ず鏡にて張つてあるのは確に物理學の反射應用に依つて數を多く見せようといふ考へであらう。

百貨店の位置としてはラフアイエットが一番良い所を占めて居り之に次ではブランタンでルーブル、ボンマルシエは一寸位置として目拔の場所から離れた不利な位置にある。

巴里の百貨店は金錢登錄器を使用しない處が面白い、さりとてチユウブシステムの傳送器

を使用するかといふに是も用ゐて居ない、各四五の賣場を中心として店内のあちこちに會計場があつて大きな厚い帳簿を控て年輩の男店員か或は女子の店員が銀行の帳面付のやうな高い机に向つて居る、各賣場の女子販賣員が客の註文を聞くと直に現品を持つて客を前記の會計場に案内して、品名、數量、値段を讀み上げてやると、會計臺に控へた記帳方は一々之れを帳簿に記入して、さて現金を受取るので、賣子は決して客の渡す現金に手を振れず現品の受渡しは必ず客と會計方が直接に手渡をするのであるが、是迄の記帳手續は決して日本のレヂスター使用と時間に於て相違はない、賣子は客の決定を待つて直に自分の傳票に記入するのであるが凡ての手續が如何にも迅速で氣持のよい取扱方であると思ふ。

澤山纏めて買物をする客には番號の入つた小册子風のものを賣場で請求すれば誰にでもくれるので賣場々々で自由に買つて其の番號を賣子に切り取つて、買つた品物に添付して貰ひ最後に之れが地下室に降りて總勘定をすれば、品物を持參して歸らうと後から屆けて貰はふこそれは客の自由で地下室には恰ど日本の百貨店の品渡場の樣な處と會計場が出來て居る事

は各店大概同一である。

巴里の百貨店の營業時間は毎日午前九時開始、正午十二時閉鎖、午後一時開始、午後六時三十分閉店で、日曜は無論休業するが中には正午の一時間を閉鎖しない店もある、一體巴里市中銀行會社凡て正午から午後の二時までは晝休みで其間自宅へ勤め先から歸つて食事をするものもあれば近所のカフエーで食事をするものもあるので、百貨店も晝の十二時になると直に入口を閉ぢてしまふが、その時間の三十分前ぐらゐまでは芋を洗ふやうな混雜をして居つた入場客が十二時十分前位になると潮の引いた樣に店内から客の影が去つて十二時になると全く一人も居なくなる、そして午後の一時近くなると、もう又人波が押し寄せて來るのが恰も岸邊に寄する波の運動のやうに時間の區切りが鮮かだ。終業時間の來た時に一齊に客が店内から去り、賣子が其日の賣上歩合や賣上高を計算して店を退くまでの時間は客が店内から去つて、物の十分も掛らないだらうと思ふほど迅速な手廻しのよいことは一寸驚くべき藝當である。

前記四百貨店ルーブル（Louvre）ボンマルシエ（Bonmarch'e）プランタン（Printemp）及ラフアイエット（Laffayette）以外に是等と規模を殆ど同一にしたものにバザー、ド、ロテルド、ヴヰール Bazar de l'hotel de ville）及パレー、ド、ラ、ヌーボーテ（Palais de lanouveaut'e）の二者があるが之は一般産階級の家庭を目標とした家具什器類を始めとして家庭必需品が多く前四者の如く贅澤裝飾品の少い爲めに家具類に力を入れて居るやうに見える、但し兩者とも位置が中心を離れ且つ店内が裝飾其他稍々陰氣な氣分を感ぜしむるのは爭はれぬ事實であらうと思ふ。

瑞西の百貨店

巴里を午後の八時頃夜行列車で出發すると翌朝午前の五時頃には瑞佛國境で稅關檢査の役人に汽車の夢を破られた、バジャマ（西洋ネマキ）で鞄を開けたり間違つてゐる間に汽車は朝方八時頃チューリッヒ市停車場に着いた。

東京大阪間を走つて恰ど箱根へ旅行したやうな氣分に、美しい湖水が眼前に展開して山水の景色が如何にも瑞西へ入つたなこうなづかれるやうだ、市中を散歩して見るこ如何にも道路が綺麗だ、大體小さな街に似合はない水の便利のよい處で、夜往來の途絶ゐた頃から翌朝九時か十時頃まで街をホースで洗つてゐるのを見掛けた、市中に小さな百貨店がそれでも四五はあつた、店内の清潔な小ざつぱりこして美しいのに驚いた。それはジエルモリ百貨店こいふのであつた、道路の清潔なここゝ泥靴なご履いて入場するものがないからであらう、チークで張つた床の上に殆ご埃を認めなかつた。

此處は瑞西の中での工業地、絹織物なごの工場のある處で、一面夏は湖水はあり、景色のよいので避暑地にもなるが、ごちらかこ云へば質朴な氣風があるやうだ、農民藝術こ云つた風のものや、獨逸品の文房具類、絹織物製品等は他の商品に比較して物價の安くない瑞西こしては比較的安いやうに思はれた。

賣場の商品に登山用具や雪辷りの子供用玩具寧ろ遊戯具こいつたものゝ發達して居るこを

を印象せしむる商品が特に目に付く。巴里を離れて汽車で一夜を過すこ、もう此瑞西は山國氣分で同じ瑞西のゼネバが佛語に佛蘭西氣質を其儘顯はして居るのに、此處は大分獨逸趣味を感じさせるここが單に建物や内部の裝飾ばかりでない、言葉其ものも全く瑞西獨逸語で耳新しく響いてくる。街の小賣店のショーウヰンドーや百貨店の入口なごにアウスフエルカウフ(賣出し)こ書いたのも何こなくサアこいこ云はんばかりに力が强さうだ。

百貨店の陳列商品カードにはフリューヘル(比較)こ云ふ字を書いて、通常値段を黑で書いた下に赤字で割引値段を書き入れてあつた、安値を比較して御覽なさいこいふなぞのやうだ小ぢんまりこ市街相應のジエルモリ百貨店は店内が大變整頓して氣持がよいが、買つた商品を受取るまでの手續が大分手間取れた、客が品物を買ふこ賣子がメモにコッピーで値段こ商品、員數を書き入れた一片を客に渡し、他の一片は商品こ共に會計場へ持つて行き、客は其一片の金額記載面の金を支拂うてキャッシュレヂスターの領收の確認を得るこ、其會計帳場に隣つて設けた臺にある品物こ客の持つて居る領收證の一片こ照合して包裝係の女子が品物

を渡して呉れるのであるが、其面倒なことは中々大變だ、商品保管の點から云へば間違ひないが、一寸二三十人の購買客が買つた品物を受取りに詰め掛けた時はやりきれない、尤も歐洲人は氣が長い、順序の來るまでは落ちついて秩序を保つて自分の番を待つて居る、品物を買つた後で賣子が有難うといふのがドンクシエーンと尻上りに語尾が濁つて、終りにアデュ（左樣なら）も瑞西の山國らしい氣持がした。

百貨店の賣場の前に立つて商品を眺めてゞも居ると一度は賣子が必ずそばへやつて來て、何ぞ御入用ですか、此品で御座いますかと聞く、然し決して二度三度と强要するやうなことはない、總じて西洋の百貨店小賣店の店員の愛嬌のよいことは日本で大に學んでもよいことだ。

伊太利百貨店

ラ・リナチンテ（La linacinte）

ラ・リナチンテといふのはミラノの百貨店の名前で伊太利語の誕生といふ言葉だ、殆ど佛

蘭西巴里の百貨店ボンマルシエが佛語のボンマルシエ安いと云ふ字を屋號とするやうに、伊太利語の誕生といふ言葉は此百貨店の屋號になつて居る、此店は二年前に燒けて現在は新建築になつたといふだけあつて入口をドーム型にして、ステーンドグラスや、ショーウヰンドーの取り方、內部建築の模樣が佛蘭西式で實に氣持よく明るく出來て居るのに感心した位であつた、巴里の百貨店を其儘移したやうな建物で此百貨店が假に巴里にあつたとしても決して恥しい建築ではない、階段の取付方が巴里の百貨店プランタンや、ボンマルシエと殆ど同じやうな構造で內部の裝飾や天井の隈取りなどが如何にもよい、鐵柱の殊に細いのを使用したのは更に華奢な好い感じを與へてくれた、二階三階四階の賣場配置は寧ろ巴里の百貨店を凌駕するところがあるかも知れない、流石に美術國だけあつて大理石の置物、彫刻油畫、其他裝飾的置物の美術的商品が安い値段で澤山陳列されたのが見られる、ミラノは伊太利で首都ローマを除けば絹工業及グラス工業の主要地であるが、伊太利產の絹は多く英佛米等へ輸出し、却て自國では絹製品は高價を拂はなければならないやうだ、小賣店百貨店の店頭に並

ぶ諸商品は巴里あたりと餘り大差はない、タキシーに朱塗りのフヒアットを悉く使用して居るのも製造本場のチュランが近いだけに一寸羨ましい。

リナチンテ百貨店の隣りにカンパリー百貨店がある、ミラノ第一の古い商店で、リナチンテの新樣式に比べて此店の全部は全然キヤテドラル風の彫刻入にして恰も舊家の歴史を物語るに適應しいやうだ、寧ろ百貨店と云ふよりは勸工場又は市場のやうな趣があるやうに思はれた、どうも伽藍の中へ賣店を出したやうな感じがした、カンパリーといふのは伊太利の酒の名前でカンパリー葡萄酒として有名なのであるが、カンパリーの因緣も何かあるに違ひない。

また伊太利ぐらゐポスターの發達したところはないやうだ、チンザノベルモット酒などの廣告畫などは思ひ切つて奇拔な裝意になつて人目を驚かせて居るが、なぜ伊太利に圖抜けて大きなポスター、日本の建物に張り切れないやうなポスターが發達して居るかと云へば建物が石造作りで腰の高い倉庫のやうな家屋の側壁にポスターを張るに好適な場所が市中に澤山

あるからだらう、少し街の横手へ入ると屋壁に色彩の鮮かなポスターが競つて張り出されてあるのが隨所に見出された。

○商店の營業時間

倫敦巴里獨逸瑞西伊太利の百貨店及小賣店の營業時間を記して見よう。

百貨店營業時間

	午前	午後
倫敦	九時—正午	一時—六時
巴里	九時—正午	一時—六時三十分
瑞西	八時—正午	二時—六時三十分
伊太利	八時—正午	二時—七時
獨逸	九時—	六時三十分乃至七時

（備考）伊太利ピザの如きは小賣店が正午より午後三時まで閉店する、獨逸は伯林のウエルトハイム百貨店の如き晝休みなしに午後の七時まで營業して居る。

小賣店の營業時間

	午前	午後
倫敦	八時———	六時三十分
巴里	八、九時———	七時
瑞西	八時——正午	二時——六時三十分乃至七時
伊太利	八時——正午	二時——七時
獨逸	八時———	六時三十分乃至七時

以上

右の如く百貨店は概ね晝休みを爲すも一日の營業時間は略々日本の營業時間と大差ない、

尤も日曜日は百貨店小賣店共にカフエー、料理屋を除く以外全部休業することは勿論だ。

倫敦のセルフリツヂ百貨店の專務取締役に會見した最初の私に對する同專務の質問は日本の百貨店は營業時間が長いと聞いて居つたが、今貴君の話を聞くと倫敦の多くの商店と少しも變りはないと云つた、巴里は銀行さへ午前九時—正午、午後は二時から大概五時まで、銀行員の銀行を退けるのが先づ六時、百貨店などの店員の退店時間が午後の七時であらう、諸會社銀行の土曜半退も通例であるが其他の日は國民が一般に皆よく働く。

伯林の百貨店

ワーレンハウス アウエルトハイム (Warenhaus A. Wertheim)

獨逸語のワーレンハウスは英語のデパートメント ストーアに當りカウフハウスが商店の意味にて、白木屋百貨店といふべきを白木屋呉服店といふが如く、獨逸にも百貨店に樣式を換へても尙昔の何々商店と小賣店時代のカウフハウスを使用して居る店が澤山ある、恐らく

ウエルトハイムだけがワーレンハウスと稱するだけで他は大概各地の百貨店がカウフハウス何々と稱して居るやうだ。

さて伯林はライプチヒ街にある此大百貨店の建物は伯林名物の一つとして、アルヴユムフオン　ベルリンに載つた猶太人三人兄弟の經營になつた歐羅巴一の大きな百貨店である。

正面表通りの間口が凡そ約二丁位、中央の部分は裏通りに當るフオッス街（此距離凡そ一丁餘）に跨つて居る地上四階建の大建築で、殆ど先づ二丁に一丁位の四角の面積を全部使用して居るやうな形ちで全部が賣場ではないが、地下室及後方事務室に使用されてる部分を除いても賣場の面積は中々宏大なもので單にぐる〳〵賣場を隅から隅まで見て廻つても約三四時間は費すほどだ、正面ライプチヒ街に面する入口が三個所、ポツダマー　ブラッツに面する所に一箇所客の出入口をとり裏通りフオッス街に一箇所出入口を設けてある。

屋内の建築の立派な事は確に世界に冠たりと誇稱するも過言ではあるまい、かつてカイザー隆盛當時此新築祝賀の演說に伯林の誇りとさへ推稱したといふことであつた、建築の堂々

たることは誠に見事なものであるが、戰後の今日は折角の建築美、裝飾美を燈火の節約によつて充分發揮することが出來ないといふことは誠に遺憾なことであると思つた。

今此百貨店の内部の模樣を少しく箇條的に觀察して見よう。

一、集合支拂と一度支拂

歐洲各國の百貨店乃至小賣店は悉く客が商品を買求める場合に賣場員は直に自分の傳票控帳に（三枚傳票）商品名、員數及金額を記し、其一片を客に渡し、客は是を以てカッセ（會計場）に至り支拂を爲す、此場合佛蘭西又は伊太利等は、賣場員が客と一緒にカッセに赴き其商品と員數金額を讀み上げ、會計係が之を記帳して、然る後金錢の支拂を爲すので、獨逸にては會計場にレヂスター（稀に佛蘭西式にレヂスターを使用せず帳簿に記帳する處あり、現にウエルトハイムに於ても比較的閑散なデパートにては之を爲すのを見た）を控へて客の持參せる傳票に依つて會計係は金高の支拂を受け、レヂスターに掛けて領收證となし、スタンプを押して其傳票を客に渡す、客は是を持つてカッセに隣て設けられたる商品引渡場兼包

裝場に至りて、之と引換に商品を受取る……賣場に於ける賣場員が客に傳票を渡すと同時に他の一片は賣上商品と共に前記の品渡場に送り屆ける、すると品渡場は客の呈示する傳票がレヂスター及び會計係の領收の證あるや否やを見て、更に賣場より廻送せる傳票と突き合せ尙又商品に就ても員數の檢査を行ひ間違無きやを確めて後、領收證と共に商品を包裝して客に引渡す、そこで賣場より廻送の傳票は品渡場に一枚殘る譯になる品渡の場合此係が消印を押して客に品を渡した證にしてある。

獨逸、墺地利、瑞西の如き獨逸語系統に屬する諸國の採つて居る方法は後者に屬して居るザンメルカツセは集合支拂會計場でのつて佛蘭西百貨店の時に書いたやうに、巴里の如きは大概地下室に此集合支拂場所を一室まとまつた大きな部屋をあてゝあるが、獨逸殊にウエルトハイムの如きはカツセが賣場の各所にあるやうにザンメルカツセも彼方此方に置いてある、賣場員が第何番のカツセに行つて現金支拂をしてくれと客に注意を與へてくれるが、此支拂方法は獨逸佛蘭西と云はず隨分面倒なものと思ふ。

之を要するに賣場員が絶對に現金に手を觸れないといふことは歐洲各國の採用してる方法といふことが出來る。

前述の通り客がウエルトハイムであちこちで種々の品物を買つても一々其買物に支拂をする必要はない、左に示すやうな一三〇號の番號の一片を切取つて貰ひ、之が商品に添付されて、最後に階下のザンメルカツセの元締所で支拂を爲せば商品は自由に屆先きへ送り屆けて來る此の二つ折の切り取りの出來る集合支拂用紙は客の請求次第賣場（最初買物をした）で渡してくれる。

1	130	130	1	10	130	130	10
2	130	130	2	11	130	130	11
3	130	130	3	12	130	130	12
4	130	130	4	13	130	130	13
5	130	130	5	14	130	130	14
6	130	130	6	15	130	130	15
7	130	130	7	16	130	130	16
8	130	130	8	17	130	130	17
9	130	130	9	18	130	130	18

二、ベシユウエルデステレエ　フントザーヘン

ベシユウエルデステレエ　フントザーヘンは買物に就ての苦情其他の事故及發見物、拾得物等の取扱場所で英國のバーカー百貨店にも書いた萬事故承はり所とも云ふべきものだ。

三、御遠慮下さい

婦人服の陳列してある場所に特に三四寸段をこつて其上に羅紗を張り新しい見本を陳列してある處には、ビツテ　ニヒト　ベトレッテン（ごうぞ御上りにならぬやうに願ひます）と書いてあつた、或は又一個時價邦價に換算して千五六百圓乃至二千圓位の書棚又は一組千圓二千圓の椅子と云ふ立派な獨逸好の商品が、床上一面にゆつくりと擴げられてある處には、ビツテ、ニヒト、ベヌツツエン（御掛けになるのは御遠慮下さい）使用してくれるなと云ふ札があつちにもこつちにも販賣商品に添付されてあつた。

金物類とか、皮革細工類、衣類其他あゆる商品の目ぼしいものにはビツテ　ニヒト　ベリューレン―御手を御觸れになることは御遠慮下さい、と云ふ禁札が非常に澤山到る處の賣場にある、日本の百貨店の商品殊に呉服類の如きものは日本人の習慣として、どうしても一應商品に觸はつて見なければ承知しないが、西洋人は一體に見本を指摘するだけで餘り手を觸れることは少いやうだ。

佛蘭西人などが始めて日本へ來て不思議がるのは百貨店などで客が呉服反物類を一つ一つ手にとつて見るのを奇妙に思ふことである。

四、食料品賣場

此賣場は店内の中央部三階に床を人造石にてかため頗る徹底的に賣場をこしらへてあるが之が又非常に大規模なもので生魚、干魚、鑵詰類、生野菜、水菓子類、冷料理品、鵬詰、鳥類生肉、酒類、菓子類、乾果物等殆ど至れり盡せりで大理石の生魚入れやガラス張の生簀に鯉を生して水族館式の設備に水の新陳代謝をしてあるなどは中々大仕掛けなものである。

食料品賣場に隣つて一段高く四間四方位の部屋にフライシュ　ハルレ（生肉賣場）があつて生牛豚肉類を切賣販賣して居るが、市價よりも安いのであらう、一塊幾何と云ふ風にマーク値段を示してあつて、上中下好みのまゝに買へるので家庭の主婦が澤山集つて居るのを見た、そして其部屋にこんな文句が書いてあつた。

食料品に手を觸れることは其筋のお達しにより堅く御斷り致します。

警察規則がやかましいと見えて、此ウエルトハイムの入口のドアーには「禁喫煙（ニヒトラウヘル）」と張り出してあつた。

五、食料品の紙製小鉢

食料品賣場に一寸した菓子又は料理品一皿で、酒の一杯注ぎ賣りをする休憩所があつた、是はバーのやうな設備にして白葡萄酒や其他リキュー類を自由に飲める仕組にして前には十脚位の椅子と四五のテーブルを置き一寸疲勞れ休に一杯やらうといふところなのだがお客は大概婦人で決して其處には男子の泥醉者などは居ないから心配はない。

階下の方には野菜（馬鈴薯と人參）の煮たのにマヨネーズソースをかけたやうな生料理を賣つて居るが、こんなものは日本で云へば惣菜で竹の皮包と云ふ處であるが獨逸だけに紙製の立派な小鉢の如き容器ごと一緒に賣渡して居つた、紙製と云へば戰時中獨逸であらゆる商品の代用物を發明したが結局戰後に代用物として經濟的商品として取扱れたものは單に紙製のものばかりであるといふことだ、さう云へば紙屑籠の實に立派なものが特に店頭に陳列さ

れてるのを目擊した。

六、フレッシュエーヤのレストルーム

客が店内を見物して疲れた場合に新鮮な氣持にさせる爲めに階下に一箇所六間四方位の天井の大い一室を區劃して、此中に青々とした草類を植ゑて棕櫚竹の大きな鉢を左右に二ツ据ゑ其草園を取りかこんで廻りに七八つの長椅子を備へ、讀書又は休息に客の好むまゝ少憩を與へる設備をしてあつたのは氣の利いた思ひ付であると思つた、勿論之には禁喫煙が入口に張り出してあつた、直ぐ此部屋に續いて之は矢張り同じ位の場所で特に中庭式に周圍を設へ屋根は掛けず其儘青天井にして中央の泉水から清涼な氣分を味はせやうといふ洒落れた設備もあつた。

七、リモナーデンテイツシュ

リモナーデンの机と云ふつまりソーダ水やアイスクリームを飲む場所で、其傍には椅子テーブルを置き、ハムにパン、菓子類などで、一寸コーヒ一杯飲むことの出來る設備にしてあ

る、別に斯う云ふ場所は區劃してあるわけでなく皆食料品賣場内の一角をこつて設けたもので如何に食料品賣場が廣いかこいふことが想像出來る、又體量を量る機械のやうなものが据付てあつて「精密に一人前を量つた食品切符が出ます」こしてあつたが現在はマーク紙幣の爲め使用されてない。

八、食堂の設備

食品の温かいものは絶對に賣つてるなかつた、皿盛にした一人前づつの冷料理、高くて二千マーク、普通一皿が六七百マーク（マークが一萬マーク一圓の割合）であつた、客は皆此皿盛の一人前こパン二片位こビール又は珈琲を買つて自分で運んで來て喰べるこ云ふ風で、普通大抵邦價の十錢から十五錢迄の食事だ、決して充分こいふことは出來ないが、一食は濟すここが出來る、所謂カフエテリヤの組織こいへよう。

九、ライゼフユーアスこトウーリストオフイス

階下の一隅には汽車汽船の切符は勿論伯林市中並に市外觀覽航空切符の賣場、劇場の切符、

音樂會の切符賣場など凡て大規模である、日本の百貨店の文房具賣場に似た書紙類販賣の賣場には活字版の二臺も備へて名刺の註文引受其他印刷物の引受までして居る、書籍部以外に古本の貸出しもあり寫眞部から一時間寫眞まで悉く完備して居る。

十、ウルシユタイン　シユニツトムスダー

ウルシユタインの裁斷雛形、之は婦人服や小兒服の雛形、紙切型を賣るので雜誌に依つて好みの型を買ふらしく、丸卓子を控へて一箇所に大勢の婦人が好みの型を探してるるが之は中々盛な樣子で賣子も五六人掛つて接客して居る模樣であつた。

十一、ゲルトウエーゼルン

歐羅巴の百貨店は大概何處の百貨店にも外國紙幣の交換所があつて其日の銀行相場こ餘り大差ない率で兩替してくれるが此百貨店も外國紙幣の交換所は處々にあつて便利を計つて居る。勿論ウエルトハイム自身も銀行を經營して居つて同一建物中にウエルトハイムバンクがある。

白耳義の百貨店

白耳義の首都ブラツセルに五つほど主なる百貨店がある。

一、ボンマルシユ
二、インノヴアシオン
三、グラン　バザー　デユ、プールヴアール　アンバーシユ
四、グラン　マガザン　ド　ラブルース
五、グラン　メーゾン、ド、ブラン

此處は一寸小巴里の趣があり、百貨店などの模樣と建築及店内の裝飾など悉く巴里と同じやうだ。

ボンマルシユの店内などは徐々に擴張したものであらう、順次に敷地の擴張に應じて建物の新舊繼足をうまく聯絡調和させて、店内には中階段をとり、小階段を造り、廻廊を廻らし

て美事に全般の調和を鹽梅した點は感服の外ない、恰度雛段のやうな賑やかな感じを持たしむる巴里のブランタン百貨店に頗るよく似通つた店だ。

インノバシオンは最近の新建築、店内の模樣が裝飾に至るまで悉く巴里のラフアイエツトに其儘の行方から推して恐らく同一出資者の經營でないかとさへ思はるゝほど萬事がよく似て居るのも不思議だ。

グラン、バザーは店内が巴里のブランタンとボンマルシユの二百貨店の中間をとつた形ちで、此店の内部の特徴は鐵骨も凡てのケース類の如きも鐵骨ガラス張りといふ風に全部のコンストラクションに木材を使用することの少い點は大に他と異つた點である。

さて巴里のグラン　バザー　ド　ロテルド　ビルでも、此グラン　バザー　デユ　プールバール　アンバツシユでも、グラン　バザーと名乗つた店は之を日本に譬へれば多く中產階級以下下町方面の顧客の需要に應ずる營業方針で而も他の百貨店の如く裝飾品化粧品の類は多く階下にのみ之を止め、他の部分は悉く金物類又は日本でいふ荒物類の如き、一般家庭用

品としての必需品に全力を注ぎたる傾向が明かに認められる、此グラン　バザーの商品の種類の一般家庭必要品に多く集中されて居る點は、確に歐洲各國の百貨店中に多少趣を異にしたものだと考へられる、大體に於てブラッセルは巴里の百貨店と大同小異のものと思へば太した相違はない、獨逸の百貨店の一般に暗い感じのするのに比べて明るい感じのするのは國民の相違の然らしむる所以ではないかとも思ふ。

紐育の百貨店

米人の世界一

米國は百貨店の非常に發達した國で到る處の都會に必ず一二の大百貨店がある、一昨一九二二年度のハーヴアード大學商業科の調査に依ると全國に四千百五十八の百貨店があるといふ有樣で、紐育だけでもメンスショップを入れて三十有餘の百貨店の數に達して居る。そして年々百貨店は其增加率を示して居るといふことである。（一九一三年の調、百貨店總數は一千百四十であつた）

紐育の主なる大百貨店としてはジョン　ワナーメーカー、メーシー、ギンベルブラザース、オールトマン、アブラハム　ストラウス、フレデリック　ローザーなど大抵地下室を入れて彼れ是れ十階又は十二三階位の建物で一區劃を面積として使用して居る（一寸こゝへ書き加へて置くことは、紐育市は紐育州のマンハッタン　アイランドと稱する細長い島の上に出來た都會で、地質が一面岸層から成つて居つて地盤の基礎が强固であるので、既に大地の面積に於て横に擴がるべき餘地がないので、勢ひ上へ上へと伸びて何十階と云ふ高層な建物が出來たわけである）

此中のメーシー商店が、今隣接して十九階、地下室を入れて二十一階の建物を擴張工事中であるから、是が竣成の上は米國中で一番高い百貨店になる、メーシー自家廣告に曰く最も高層な百貨店と自慢して居るが、此世界一と稱する亞米利加人特有の自慢の文句は、俺の方が一番だぞぐらゐの意味で必ずしも何事も世界一といふ意味ではないが謙遜と云ふ事を知らぬ亞米利加人は到る處國内でお互に世界一の競爭をして居るのも笑止だ。

百貨店の位置としてはワナメーカーが獨り飛び離れてダウン　タウン（此邊會社銀行のある商賣區域）にあり、同じ方面のブルックリンにアブラハム　ストラウスやフレデリック　ローザーがある、此方面が東京でいふ所謂下町といふ處で、是を解り易く東京に譬へゝならワナメーカーが芝三田附近に位置し、アブラハム　ストラウスやフレデリック　ローザーが品川附近に在つて、其他の大部分の百貨店が京橋銀座界隈から日本橋邊へかけて集まつて居るといふ有樣だ、即ちメーシー　ギンベル　サックス等がブロードウエーイ三十四丁目、三十五丁目通りへ集りオールトマン、ロードアンドテーラー、ベストなどフヒフスアベニュに恰度紐育の銀座日本橋通りと云ふやうな場所へ百貨店、大商店軒並に或は又相互に筋向ひで激しい競爭をしてゐる狀態である。

一寸普通の考へでは此飛び離れたダウン　タウンのワナメーカーが獨優勝な好位置を占めて居るやうに思はれるが、事實は之に反してワナメーカーは既に全盛を過ぎて稍老大國のやうな感がある。

今から二三十年前は現在の紐育の銀座通りとも稱すべきフヒフスアベニュ附近に商店も少く、其當時は百貨店も數が少かつたので、ワナメーカーが大きく獨り舞臺の有樣であつたさうだ、之が追々紐育の商業中心區域がダウンタウンからアップタウンの方へ移るに從つて、頓に此店の客足を減じ最近六七年特にさびれ方が甚だしいといふことを聞く、此店もアップタウンの方へ移轉の希望を懷いてゐるといふ話しであるが移轉費三千萬弗から掛ると云ふので決し兼ねて居ると云ふ。

ショッピング（Shopping）

それはどう云ふことに原因するかと云へば歐米、殊に一般米國婦人はショッピングを盛んにする、今日は幾軒百貨店を廻つたと云ふ風に買物についての値段の比較研究をするが之は一般に經濟的觀念が發達して居るからで、日本も追々と一般がかういふ傾向になつてくると思はれるが此點は東京よりも大阪の方が遙かに進んでゐると思ふ。

さてショッピングが盛んであるこ、隨つて近い距離の範圍内に澤山の商店が集つて居るこは時間の經濟からしても便利で、態々飛び離れた場所へ出掛けなくこも用が辨じるわけであるから、そこで中心地點たるフヒフスァベニュ附近が繁昌するわけである、然し紐育にも澤山のワナメーカー黨もあり、且つ古く上流の得意を持つて客遇ひもよいので、態々アップタウンに住む人がダウンタウンへ出掛けて行き、之こ反對にダウンタウンのオッフヒスなごに働く婦人連が晝休み時にアップタウンのメーシーなごへショッピングに行くこ云つた傾向を示して居る。アップタウンこダウンタウンの間は地下鐵道のエキスプレスで約二十分位の距離にある。

斯う云ふふうに商店軒並に競爭が激しいだけに、其進歩も矢張り著しいやうに思はれる、競爭は水の流れこ同樣に腐敗沈滯を防ぎ物の進歩發達を促すこころの階梯であつて、何事にも必要であるこ同時に良い意味の競爭でなくてはならぬ。

日本の百貨店を歐米の百貨店こ比較して見るこ概觀ではもう大した差を認めない、然し仔

細に特に米國の百貨店こ云はず、凡ての商賣振りを日本の內地の商賣こ比較してみるこ其間には子供こ大人のやうな相違がある、日本のは漸くかたちは整つたが精神たるべき未だ內容が整つて居らない、殊に販賣員の顧客に接する態度所謂販賣術なるものに非常な缺陷があるやうに思ふ。

米國は既に商賣がサィコロジーの領域に立ち入つて、賣る買ふこ云ふことは末の研究で、其本質たる賣買の動機こなるべき當事者の心理作用の研究にまで進んでゐる、殊に廣告の如き勿論であつて簡單に目で見たこ云ふばかりでなく、廣告心理こして非常に廣い範圍に於て研究されて居る。

是等多數の百貨店の中で獨りメーシー百貨店が二十年來、一切現金賣主義を實行して居ることが特徵で、確に先見の明がメーシー氏にあつた、何故かこ云へば現金賣主義は小賣業に於て理想だからである、但し百貨店こして現金主義こ懸賣の方法併用の可否に就ては議論もあり、利害もあつて斷定は出來ないが一般說こしては小賣商賣は現金主義を採用すべきが理

想である。そして又此店が安いので今二流筋で一番人氣が集まつてゐるし、商賣も繁昌して居るやうだ、此店の毎日の入場客一時間平均の統計に依れば一萬人だと云ふ、昨年度の賣上高が約五千萬弗であつた。

此店は現金以外一切賣らぬ代り例外として同店預金懸賣部と云ふものがあつて豫め顧客にメーシーの顧客預金懸賣部に預金させて其預金高の範圍内で懸賣を許してある、勿論此預金に對してはメーシーが銀行率の年四分を支拂つて居るがキャッシュ、ヲン、ケヤリー、システムを厲行する特徴として次のやうなモットーを標示して其理想の實現に努力して居る。

一、薄利多賣主義 (Volume of business not margin of Profit is Macy's Policy)

二、當店商品悉く他店より六分安 (You always save at least 6% at Macy's merchandise from all over the world)

三、良品を市價の最低値にて提供 (Merchandise taste & quality at lowest in the city prices)

斯ういふふうに紐育だけでも主立つた百貨店十幾軒の外には、之に介在して到る處所謂聯鎖店として有名なウールウオースの五仙十仙均一店があり、其他に無數の小賣店特賣を持つ

た大商店が軒毎にあつて競爭の有樣も思ひやられる。

此中大凡の色分けをして見ると大體に於て一二三流階級に分れ中で客待遇のよいのがオールトマン、ワナメーカー、ロードアンドテーラー、ベスト、フランクリン、サイモンなど特に優れて居るやうだ、オールトマン、フランクリン、サイモン、ベストなどはどちらかと云へば婦人呉服物又は高級婦人向商品を販賣するスペシアリティーのある商店と云ふことが出來るだらう。

市俄古の百貨店

世界で百貨店の歴史として一番古く、最初の百貨店は佛蘭西巴里のボンマルシエ百貨店であつて、一八六〇年頃早く既に百貨店の形式に改まつたと云はれて居るが、是と略々同時代頃一八六二年歐羅巴に一二年遅れて、米國に於ても市俄古のマーシャル、フキールドが百貨店としての形式を整へたと云はれてゐる。

最も亞米利加の方が早く百貨店の樣式になつたと云ふやうなことも聞くが此點は詳にしない、大體は歐洲の方が幾分現代の百貨店の組織になる順序は早かつたやうである。

兎に角此店が費府のワナメーカーより少しく早く百貨店としての出發を爲し、現代共に米國に於て二大百貨店として普く知られて居るところのものである。其他の百貨店もバイリースコットの一八七五年開店と云へるが如き、何れも此地の百貨店は其歴史も古く、紐育の百貨店に比較すると一層建築も大きく出來てゐる。左に一寸店名を擧げて見よう。

マーシャルフキールド、マンデルブラザース、カーゾン、バイリースコット、ロスチヤイルド、ボストンストーア、ゼフエーア、ライター、ビルディングストーア

是等前記の百貨店は大凡十五六階より十七八階の建物で、而も之を東京に譬へて見れば恰ど日本橋白木屋の位置にカーゾン、バイリースコットあり、其眞向の元淺野豐夜銀行の一角にマシデル、ブラザース、柳屋のある一角にボストンストーア。通三丁目の丸善より京橋寄りにマーシャル、フ井ールド少しく離れて、三越附近にゼ、フエーア、之れから通りを異に

して三四丁隔てた處に、ロスチャイルドと云ふやうな具合にマヂソンステートとクオーカツシュストリートに各店悉くワンブロック以上の面積を領して、大百貨店軒を接しての大競爭は其慶んなることに於て却て紐育を凌ぐといふ勢ひである、寧ろ新商賣振の如き却て此地より起りはせぬかと思はれる位である。

マーシャル、フキールドは何と云つても此地の他の百貨店に群を拔いてゐる。恰ど費府でワナメーカーが一頭地を拔いて居るやうに、建物も大きいが店内の設備商品悉く百貨店と云へば亞米利加人が市俄古のマーシャルフキールドと市俄古の土地を踏まぬ者まで承知して居るほど有名な店だ、兎に角全部が整頓して居る世界的の大百貨店たるに恥ない、地下道を拔けて附屬建物のメンスショップへ行くと一番上の階に設けられた食堂は實に立派なものだ、食卓や椅子其他食堂の設備の贅澤なのと献立表の立派な模樣入りクロース張りの料理案内を手にして女給のしとやかな給仕ぶりに一弗二三十仙の食事を認めるのは一寸氣の詰る心持がする。食堂の眞中に天井へ圓形にステーンドグラスの明りとり眞下に噴水裝置の仕掛をして

其廻りに食卓を配置してあるなど、たまらなく洒落れたものだと思つた。

騒々しい高架線のガードの下を通り抜けて、通りを隔てたロスチャイルドへ入つて見ると此處には水族館へでも行つたやうに鯉に金魚を始め海水淡水の魚類は勿論小鳥類から昆蟲、爬蟲類の鰐魚、大蛇まで飼育して居るのを見ると百貨店か動物園か間違ひさうな有樣だ。

近世文明の利器としては諸種の發明其他の新發見が其創意を佛國西人によつて享けたものを獨逸人が組織的になし、之をビジネスに大きく完成するのが米國人であると稱せらるゝが、成程米國に就て諸種の事物を見るに獨逸人の組織的な點を　うまくビジネスに應用して成功せる處が明に認められる、市俄古は獨逸系統の米人の多く住む土地で諸種の新機軸も此地が發源地として紐育に移るのではないか。」

ボストンストーアは此地に於ける現金主義の唯一の店で紐育のメーシー百貨店と相並んで米國に於ける二大現金賣主義實行の百貨店である。

市俄古の街離れにシーヤスローバックと云ふ通信販賣のみを專門とする小賣店がある、小

賣店と稱しても見本室があるだけで、純然たる工場組織のものと思へば間違ひない、シヤートル及加奈陀のモントリオールに同じぐらゐの分工場を有つてゐる、此處の建物は八區劃に亘り社員の數だけが一萬人と稱するが兎に角非常な大組織に依つて百貨店の幾倍かの面積を持つ百貨店同樣の小賣通信の大會社である、隨つて取扱商品の如きも農具の鋤鍬から大工道具さては床柱に床板といふやうに殆ど何品でもないものなしといふ有樣である、女關を入つて見本室へ行き、カタログ記載の商品を註文傳票に記して置けば子供服一枚でも鉛筆一本でも自由に買へるといふ組織、ツマリ鐘紡へ出掛けて製品の一萬反も買へれば鐘紡の一尺註文も出來るといふ便宜な方法である。

始めての訪客が十人も集まると其見本室に案内係が居つて各自の名前を書きつけると一同を案内して工場内の商品倉庫から商品が包裝されて郵便鐵道悉く發送準備の配送車に積み込まれるまでの行程を全部見せてくれるが殆ど是が簡單に素通りのやうに見て歩くのであるが三時間ぐらゐを費す、郵便局へ差立てる配送車の大きなトラックが陸續として屋側に並んだ

處はどう見ても小賣專門の會社とは思へない。

會社の前が社員の寄宿舍でテニスコートが十二三もあつて晝の休憩にゲームをして居るのを見ても如何に規模が大きいかといふことがわかる、工場の端から端までの建物がザッと北濱の角から本町の角ぐらゐまで堺筋を續いて居ると も比較出來やう。

費府の百貨店

費府は市俄古に亞ぐ商業地で且つ百貨店の盛な土地である。此處には紐育のジョン ワナメーカーの本店があり、又紐育ギンベル百貨店の支店があり、其他にストローブリッヂ クローシア、リツト ブラザース、エヌ シュネルブルンなどいふ大きな百貨店がある。

ワナメーカー (Wanamaker)

ワナメーカー百貨店は米國立志傳中の一人ジョン ワナメーカー氏の創設した百貨店で、

今より凡そ六十年前に氏が此地に開店した米國で歴史の古い百貨店で尙又米國の百貨店中市俄古のマーシャル フ井ールドと相對して、米國に於ける二大代表的百貨店である、ワナメーカーとマーシャルフ井ールドは伯仲の間にあつて甲乙を附け難いが强ひて求むれば費府のワナメーカーが米國第一と云ひ得られやう、加奈陀のトロントのイートン百貨店も優秀なるものゝ一つであると云ふが恐らく歴史的にも凡ての完備した大百貨店として米國では先づ第一にワナメーカーを推したい。

此ワナメーカーは此地に於ける他の百貨店と比較する時建築内容商品共に一頭地を抜いて居つて他の百貨店は之と對照する場合二流以下三流の百貨店と云はなければならない。

ワナメーカーの店に入つて直に感ずることは流石に生前ワナメーカー氏の人格の反映として店員のサーヴイスの親切丁寧なることである、既に日本には雜誌などにて紹介された如く此店の店員の組織するボーイスカウトやキャンプの狀況等は壁間の寫眞に其規模大仕掛なるを見ることが出來るのと或はステーヂを持つた大ホールの設備、屋上テニスコートの如き大

凡此大百貨店の大組織の如何に完備せられたものであるかが想像出來る。然し現今米國に於ける一大百貨店として世界的に有名になつたワナメーカーが現在の新築を一九一〇年に完成するに至るまでには幾多の變遷を經て今日に及んで居るので決して偶然のことではない。

其昔一八六一年四月八日の午前六時三十分を門出に、ナーザンブラウン氏と共同出資で六階建の子供用品並に男子向商品販賣の店を開いた、恰度國内は南北戰爭の際中で費府の市街は草蓬々として正に戰亂の巷に入らうといふ人心不安の其時、到底商賣どころの話でないといふ折柄其當時類のない六階建といふ減法高い建物を建て、商賣をしようとしたのだから世人が呼んで阿房宮と云つたのも無理はない、有名なジョージスチユワート將軍が當時僅々廿二歳の青年、それが店名にワナメーカーの姓を冠して獨力奮鬪の生活に入らうと決心した開店の劈頭「君時期を誤てり」と忠告したのも當然であつたらう。

開店當日の賣上高は二十四弗六十七仙であつた、然るにワナメーカー氏は此中六十七仙を翌日の剩錢に用意し、殘金廿四弗を悉く廣告に費してしまつたといふ如何に彼れが雄大なる

計畫の下に働いて居つたかは此一事を以ても知る事が出來る。

其時代に於ける亞米利加の商賣の模樣を知るには彼れの日記が雄辯に物語つてゐる。

彼れは其當時の費府を記し次のやうに云つてゐる。

當時營業時間が土曜日を除く以外大抵商店の開店が朝の六時三十分より夜間七時若くは七時三十分まで繼續し、閉店するのが十時から十時三十分である、又其頃には定價販賣といふことがない、買手値段ばかりで買手はあくまで値切らうとすれば賣手は飽くまで駈引をするといふふうだ。

仕入方面では着物の製造職人には稀に現金支拂をすることがあるが、所謂雜貨品と稱する商品の取引慣習は二週間拂で其上製造家がそれに歩合を掛けるといふ有樣であつた、其時分利益率の薄い折りに斯んな取引方法では到底利益を計上することは出來ないし、不正を直すことも覺束ないと云ふので二人の青年の頭に凡てを思想に計畫に悉く公明正大に突進しようと決心して即ち次のやうな今日の所謂モツトーを掲げた。

一、製品の完成を期する爲めに製造請負人に現金拂をなす。
二、營業時間の短縮
三、定價販賣
四、御買上品の取換變更自由

是こて全部一時に改良出來たわけでもなく、第一項は開店こ同時に改良し、第二項は翌一八六二年に、第三第四の兩項を開店四年後の一八六五年に漸く實行するここが出來た。

今地下に眠れるワナメーカー氏を起たせて現狀の日本を見せたなら恐らく彼れは今昔の感に堪へぬであらう。

ボストンの百貨店

ボストンの百貨店こして擧ぐべきものに左の六百貨店が在る。

一、ファイレン

一、ジョルダン　マーシュ
一、ホワイト
一、シエパード
一、ホツトン　ダツトン
一、ギルクライスト

是等の百貨店が二地劃(ブロツクス)ぐらゐの間に費府こ同じく密集して居る、隨つて建物の大きさは市俄古や費府に及ばない寧ろ其何分の一こ云つた小さい建物であるが。

此地は米國中一番教育の普及して居るマサチユーセッツ州に在つて米國でも古い都會で、英國氣質の多い土地柄だけに凡て市街の氣分も高尚である、初對面に先づ人の學歴を尋ね智識を問ふこ云つた趣があるやうだ。

百貨店にしても建築は別こして内容たる商品、店員の接客態度其他販賣術こいふここも特に各地の百貨店こ比較して優れて居るやうに思はれる點が在る。又此地にはボストン大學あ

り、近くのケンブリッヂにはハーヴアード大學ありと云ふ風に學校が近く是等の大學附屬商業調査科の研究と相關聯して、實際と理論と相俟つて百貨店の事が研究される爲めに其進歩も著しく各店のサーヴィスなども恐らく一般が他の都會に較べて一頭地を抜いてゐる、新聞廣告の如きも此地の百貨店の廣告は紙面が他のものと比べて高尚で且つ權威のあることが一目して解る。

殊にジョルダン　マーシュやフアイレンの如きは店員の訓練に關して特に留意して居ると見えて格段の客待遇ぶりを見ることが出來る、ジョルダン、マーシュにはホーキン氏といふ有名な店員教養部の監督があつて絶えず店員の教育に力を盡してゐる、同氏が毎回募集した新入店員を一堂に集めて必ず一度尋ねて見ることは此フアイレン商店の實際の監督者は誰れかといふことであつた。然るに之に對する答へが大概社長であるとか支配人である、或は又ホーキン氏自身であるなどと云ふ者さへある、そこでホーキン氏は徐ろに教へて曰く、否と云よ諸君の眞の監督者はあなたがた自ら毎日接觸して居る此店の華客全部がそれである、私の

目を被ふことは出來ても華客の目をぬすむことは出來ない。

そして華客あればこそ私もあなたがたも店から給料を支拂つてくれるので吾々がお互に毎日平和に又愉快に仕事をして行くことが出來るのも云はゞ華客が吾々店員の施主であるからである。斯う云ふ觀念を最初に店員に教へて置くことは華客待遇上後に非常に良い印象を與へると云ふことはホーキン氏の言明されて居る處である。

フアイレンの組織其他はよく模範として紐育などにも採用されて居るところで特に面白いのは此店の店員間に悪い事をした者が出た場合には、此店員相互間の制裁によつて之を處置し、之には店主のフアイレン氏も何等干渉する權利がない、凡て自治によつて之を處理して行くと云ふやうな組織が行はれて居ると云ふ。

此フアイレンは猶太人であるフアイレン氏に依つて經營されて居るが同氏が公共の事業に盡す爲めに猶太人でありながら一面非常に一般から尊敬されて居るのは一寸珍らしい事だ。

フアイレンの店内に這入つて直ぐ目につくのは來客案内係の設備である、外國人の來客に

して御希望の方は何誰でも店員が御案内して内部を御覽に入れますといふポスターと掲示があることである。

ジョルダンマーシュ、フアイレン、ホワイト等ショーウヰンドーに、店内商品陳列に、店員の應接並に販賣術の完成されて居るのを感得すると共に之を紐育に比較して見るとポストンは理論的に紐育は經驗を主として百貨店が進歩發達して居るやうにも思はれる。

歐米の贅澤屋

歐米共に百貨店は一般上中下に亘り階級に應ずる販賣商品を持つて居つて中でも巴里のルーブル、倫敦のハロッズ、市俄古のマーシャルフ井ールド、費府のワナメーカー等夫々中々上等の商品を豐富に陳列して居るが、さて飛び切り上等の商品卽ち顧客が値段に構はず上等で而も優秀な新製品をとなるとどうしても特賣ある折紙付の小賣店に行かなければならない

巴里のオペラの前通りルー ド ラ ペイー(平和通)倫敦のボンドストリート、紐育のフ

ヒフスアベニュー等は最も高級品のみを賣る小賣店の集まつてゐる街で、品は良い然し値段は高いと定評のある店ばかりである、殊に巴里の平和通は世界で有名なショッピング ストリートと云はれてゐる。

例へば倫敦のプールの洋服、マッピン ウエブの貴金屬類、ダンヒルのパイプ ベンソンの時計、紐育のブルックス ブラザースの洋服、ノックスの帽子、バツドのネクタイ ハナンの靴などと云へば既に國外にまで知れ渡つた有名な商店である、倫敦のプールの洋服には背廣で一着現時の相場二百圓以下の安ものは無い大抵一着分註文して二百圓以上の品物ばかりである、英國の皇太子ウエールス殿下を常華客に持つて居ると云ふ店で、値も高いが其代りそれだけの値打はある。

此店の洋服を着て、倫敦市中何處の洋服屋へ行つて註文してもプールで作つた洋服だと云へば其儘寸法を新たに採らないで、其プールの寸法に從ふと云ふくらゐ權威ある洋服屋である。

ダンヒルのパイプと云へば米國人が紐育の支店で買へるのに倫敦製と云つて倫敦から土產にして屆けると飛び立つほど喜ぶ品で、商品としてパイプの首に白の小さい星のあるのが此パイプの商標であつて何處の國でも摸擬を許さない商品である、安物でも一個が一磅普通一寸した品で四磅から五磅はする。

此店などは嘘か眞かわからぬが倫敦を距る十哩位の田舍に自山を持つて居てパイプにする樹を特に栽培して居ると云ふ話である。

ブルックス　ブラザースは紐育に於ても唯一の英吉利風の洋服を賣る店で、ローヂヤースピートと共に高級品販賣のメンスショップであるが此店の洋服を着て米國の田舍を旅行すると、ホテルのボーイの扱ひが違ふとさへ云はれてゐる。

ノックスの帽子なども早くから銀座の田屋などに依つて、日本にも紹介されて居る通り品も良いが値も高い、所謂贅澤帽子で高いだけの値打は何處かにある、麥稈帽子の一番安いのが今年あたり紐育の本店で一個七八弗邦價にしてザット十五圓也、冬物の中折が最低十弗そ

れ以上の品物ばかりである。

バッドのネクタイと云へば一本五弗以下の品はない代り、結んでも皺になることもなく、柄から質に至るまで精選されたものばかりである。

ハンナの靴となれば是も半靴で邦價二十五圓以下の品は無く、一足三十圓三十五圓と云ふ高價品であるが商品は矢張り他の商店の靴と使用の上比較して見ると其値打が解る、尤もフロシヤムやウオークオーバーの靴も良いがハナンの靴はそれ以上贅澤なものとの定評がある面白いことには紐育のハナンの店先には時々十弗以下の靴が陳列してある、ハナンの靴に十弗以下七弗五十仙や九弗の靴と云ふ安物はない筈だ、と高やのハナンと云ふ印象から離れて店内へ入つて見る……是は眞正のハナン製の靴だと示してくれるのが大抵二十弗以上だ、段々安いのから徐々に高いハナン製の靴を見るとお客は矢張り上等の値の高いのを買ひたくなるさうだ、そこで店員に其理由を求めると店員の答へが振つてゐる、最初の十弗以下の靴はメード、フオアー、ハナン（made for Hannan）即ちハナンはハナンだが他の請負工場でハナ

ンの爲めに造つた製品だから保證は出來ない、然し高値の方のメード イン ハナン（made in Hannan）は大丈夫保證をすると云ふのだ、成程ハナン製に違ひないがフオアミインの違ひだけで双方ハナンに相違はない。

外遊八ヶ月

獨逸

獨逸國内の狀態は、之を譬へて言へば、將に完成せんとした辭書が歐洲大戰といふ大鉈の爲めに一朝にして滅茶々々に破壞されてしまつたやうなもので、再び之を編纂するには、茲數十年の後と雖も鳥渡六づかしい、否寧ろその可能性あるや否やさへ疑問とすべき狀態に陷つてゐる、獨逸人自身も現在の五十、六十といふ年輩の人達の孫時代になつても、恢復はどうかどさへ云つて居るくらゐで、一部獨逸人の獨逸再興論は、恰度其辭書の殘つたセクションの一部、完全なる小部分に止まり、既に獨逸と稱すべき辭書全體の價値は滅失した形である。

一、貧富の二階級

今日の獨逸は國家の中堅たるべき中產階級は全然なくなつて、貧富の二階級に分れ、金持はドシ〳〵戰前から戰後に掛けて引續き富を增して行くのに反して、貧乏人は益々困窮するといふ狀態にある、而して是等富者の地位にある者は銀行家、爲替の思惑者及輸出業者の類で、多く猶太人系統に屬する頗る國家的觀念に乏しい輩である、さればこいつて悲憤慷慨大に國家的觀念に滿ちた純獨逸人はこいへば、一般に多く貧乏で、其日々々の生活を脅かされ、連中であるから、現在の獨逸は、富む者は益々富み、貧乏人は愈々貧乏するこいふやうな誠に不自然な社會現象を呈してる譯である。

二、國民性と戰後の人心

一體獨逸人は日本人や佛蘭西人などに比べて、非常に頭腦の鈍い國民である、換言すれば悟りの惡い國民である、然しながら其反面には勤勉、忍耐、貯蓄、組織的こいふ方面で日本人の缺點こするこころを特質こして持つてゐる。但し此特質も戰後爲替相場の變動に依る生

活不安の結果は、貨幣の價値が昨の是、今の非こいふやうに高低し一向測り知るべからざるために、一般獨逸人は其日其日を金のある間、早く愉快に過した方がよいこいふ、日本の所謂宵越の錢は持たぬこいふ寒心すべき傾向に向つて居るも、是こて止むを得ざる成行であらう。元來獨逸百般の施設が凡て官僚的に一般國民を導いて來た所以は、獨逸人自身の國民性に合して居るので、日本が戰前餘りに官民共に擧げて獨逸の模倣に趨り過ぎた結果、却て日本では獨逸の缺點だけを輸入して、制度を窮屈にした傾きのあることが、實際獨逸を見た眼に著しく感ずるやうである。

三、組織と其國民

獨逸の組織的であることは世界に冠たりで、之が獨逸の特徵であつて一面又獨逸の缺點こも云へよう、組織的であることは決して惡いこではない、寧ろ大に稱讚すべきこではあるが、餘りに是が萬能になつて個性や自治こ云ふここを失ふこ、結局現今の獨逸のやうな結

果を來す所以ではなからうか、或英人が戰前獨逸を評して誠によく萬事オーガニゼーションは整つて居るが、併し一旦此組織が破れた場合には、國民は進むべき方向に迷ふであらうと言つた。蓋し是は穿ち得た言葉であると思ふ、組織のよく行屆いてある一例をいへば、獨逸の國内何處の警察へ行つても、何の太郎兵衛は何月何日に獨逸國内の何處へ入國して、何月何日に何處へ移つたといふ樣なことが、事細かに立所に解る、それであるからホテルなどの宿帳も頗る面倒、微細に記入させる、甚だしいのになると死亡した兩親の名前を記入しろといふやうな非常識なことを云ふホテルもあるといふことである。

四、農業國より商工業國へ

獨逸は元來農業國であつて、農を本位としたものであるが、その國土は寒帶に屬し、米國の如く農産物としての天然の恩惠が少いので將來は商工業國となつて國富を增進せんといふ國策から、今日の如き商工業國となつたのであるが、國に天然の富源が少い結果、國内を擧

けて學問を奬勵し、學術に依つて種々の化學的製品を作り、今日の所謂獨逸商品として安價なる優良品を製出して、戰前將に世界の商權を一手に握らうとしたのは即ち前に述べた勤勉なる獨逸人の組織的研究に歸するのである。

五、猶太人と獨逸人

獨逸といはず、現今世界の財界を支配して居るものは猶太人であつて、現に獨逸國内に於ても金に困らぬものと云へば、猶太人若くはその系統に屬する獨逸人である、此民族は何時でも國籍を何處の國へでも移してしまふといふ輩であるから、現在の獨逸は國内に成金はあつても、是等の成金は皆其財産を外國紙幣として戰時中は中立國たりし瑞西、戰後は英國などに銀行預金をしてあると云ふことである、之に反して王朝時代の舊臣といふ格の獨逸人は獨逸帝國の前途を夢みて僅かに四五十錢の葡萄酒に一時の慰安を求める人達ばかりで何とも仕方がない、獨逸國内の自用自動車が戰前よりも戰後に其使用數を增加して居ることは何を

物語るであらうか、カフエーやレストラン又は踊場などが連日連夜大繁昌で敗殘の獨逸とは思はれぬやうな光景を呈して居ることも誠に不自然な現象である。

六、簡易食堂と食料局並に奸商

伯林では到る處街の四つ角にブッフエ（簡易な食事を攝る設備をした家）が軒並にあつて薄給者などは多く斯ういふ處か若くはカフエーで一食十錢位の冷い食事を簡單に濟してゐるが、是には政府が食料局をして、外國から高き食料品を買つて安く賣らして居るのであるから、勝手にパン一斤で雖も値上げは出來ないが、さて何處にも奸商はあると見えて、之を買占めて、逆に外國に賣り出し、更に政府が之を外國から買ふといふやうなこともある。斯の如き政府の補助政策は誠に不經濟で、何等國民の產業能率を增す原動力となるわけでもないが、然し之も暴動などの起らぬ豫防策に過ぎない。

七、國語と小學教育及外國語

獨逸では小學校の時分から對佛敵愾心を養成してゐる結果、佛語は外國語學として研究する、戰前などは佛語ならば獨逸國內の旅行に差支へなかつたさうで、現に歐洲大陸に於ては殆ど大部分各國共に佛語なれば不自由は無い、それで學問の盛んな獨逸で英語を話す者が多いだらうと思ふと、大きな想像違ひで、伯林の街などはホテル以外先づ十中九分通り英語の話せる獨逸人はない、然し戰後は商賣を爲すには英語を必要とするので、最近では學校の外國語に英語を採用し始めた、尤も獨逸は其外に西班牙語を研究させる、之は同國との通商關係があるからである。

八、軍閥と社會民主黨

軍閥と官僚政治家に依つて惹き起された大戰に對しては、國民は只盲從一點張りに過ぎなかつた、戰捷の虛報に徹頭徹尾國民は耐へ忍んだ四箇年の結果は、國家を擧げ全く疲弊し盡したのである、隨つて軍閥は亡び社會民主黨の勝利となつたが、果して獨逸の前途はどうい

ふうに變化して行くであらうか、恐らく何人も豫測を許さない、聯邦分離の昔に復するかどうか、ミュヘン市にはバイエルン州の獨立の氣分を漲らしてゐるが混沌として暗黑の狀態である、尙又獨逸には伯林だけに共産黨と稱する者が六十萬人あると云ふことであるが、滑稽なることには此有名なる共産黨の首領が、露西亞から多額の金を得るや一變して大邸宅を買ひ贅を盡した成金に早變りをして居る。

九、戰前戰後の音樂界

世界の樂壇を支配した獨逸人の音樂好きなことは云ふまでもないことだが、戰前より戰後へかけて凡ての物が變化した中に、獨り音樂界だけは戰前も戰後も何等の變化を認めない、依然盛んな音樂國である。

伯林挿話

飢に泣く獨逸少年

或日の夕方恰度商店や會社銀行員などの退出時刻に、私はライプチカー街をホテル、カイザーホッフの方へ急いでゐると、突然後から「もしもし、紳士!!」と、十七八歳の獨逸少年に呼び掛けられた「何か御用か?」と私が答へると、その少年は暫くもぢ〳〵しながら「誠に申兼ますが……」私は此時、少年の言葉の全部を聞くことなしに、金の無心だと直感したから、「君の思つてゐることを早く話して見給へ」といふと、少年は低い力のない聲で「仕事はなし、金は一文もないので喰べることが出來ません」(Ich habe kein arbeit: kein Geld und nicht zu essen)と答へた、「では君は未だ今日は何にも喰べないのか」と聞くと、「いゝ今日は朝からまだちつとも……」(Heute noch nichtbis jetzt)と返事する少年の言葉もはつきり聞きこれない、身裝りはといへば、そんなにみすぼらしい風をしてゐるのでもないが、春三月とはいへ伯林

の此寒空に、レーンコートを着け、顔も色青ざめてほんとに力のない顔つきは萬更嘘とも思へないので、ポケットにあつた舊五千マーク（當時の日本貨で約四五十錢で之だけあれば一食をすますことが出來る）を渡してやつた、少年は「有難う、ごうも有難う」と云ひながら、私の手を握つたが其手に力が入らないほど、彼は飢と寒さで疲勞して居つた。

大學教授の窮狀

戰後に生活の苦痛を感じて居る人達は、獨逸國民一般は勿論であるが、殊に大學教授連などの俸給生活者は實に慘めなもので、月に百圓位の收入があつても到底生活に餘裕がないので、有名な或醫科の大家などは、日曜日になると、子息を連れて山へ薪を採りに行くと云ふ嘘のやうな實話もある、病院なども手術に用ゐる繃帶がないために、紙の繃帶や絆創膏を用ゐるといふ有樣で、醫者の手術服も手術用の手袋も新しい品を買ふことが出來ないので、皆雜巾のやうに繼ぎたしのボロ〳〵のものを絲でからげて使用してゐるといふ狀態である。

上層階級の貧喰ひ

汽車の一等車に乘り込んで來る獨逸人で、モーニングに背負袋（リュクサック）を背負つて山登りのやうな出で立で、列車へ入つてくるものがあり、服裝は相當な婦人でさへ背に背負袋を負うてくる、そして皆一樣に袋の中へ食料品を入れ、大概パンにバタと林檎位で一食を濟まして居るのを見た。伯林での上層階級、以前はフオン何某（日本でいへば男爵某）といふやうな家柄の家庭などは毎日その日その日の貧喰ひで、今日は應接間のテーブルと椅子、明日は何といふやうに、毎日家財が少しづゝ減つてゆくといふ有樣である、殊に伯林大學の學生などは非常な窮迫で教師も生徒も教科書を買ふ金がないといふ狀態で、生徒の中には毎日生活の本據とする家がないので、停軍場に來て冷い腰掛に寒い一夜を明かして雨露を凌いで居るものもあり、或は又休暇中ルール地方の鑛山に働いて學費の補充をして居る者もあると云ふやうな有樣である。

對佛敵概心

ホテル、カイザーホツフのビューローに麗々ここんな文句が掲げてある「佛蘭西及び白耳義の御方はお泊りお斷り申上候」(An Franzosen und Bergier werden die zimmer nicht abgegeben)

ミユンヘン市のオーペルボリンゲンこいふ百貨店の入口には「營業時間午前九時かり午後六時迄、佛蘭西人の入場御斷り」此外伯林は勿論到る處の都市のレストランなどでも、佛人こ白耳義人の入場を拒絶するこいふ張紙が眼につくが、是も佛白軍のルール占領後における敵愾心の一端である。

外國人の市稅

獨逸は到る處の都市で、外國人の市稅(宿借賃)即ちシユタツト、ストイエルこいふものを徴收する、就中伯林は最も高率で八割、漢堡が五割、其他最低率の處でも二割で、三割四割こいふ稅金を家賃に對して掛ける爲め、結局ホテルの宿料は倍額の支拂になる、此市稅の徴收については、かなり外國人の感情を害し、英米人の客足を減じたやうであり、殊に米國

人この間には屢々之が爲めに問題を起して、宿賃は拂ふが、市稅は獨逸市民でない限り支拂ふ義務がないこいふ理由の下に、之を拒絶する、するこ伯林などでは市がホテルに對して利益を與へ、旅客の荷物を差押へてしまうこいふ滑稽劇の場面もあつたさうだ。

觀劇料

獨逸の觀劇料は獨逸人こ外國人この間に差を設けて、獨逸人が五十錢位で入場の出來る一等席に外國人は一圓五十錢位を拂はねばならぬ、尤も伯林で有名なラインハルトなども、外國人は一等席一圓五十錢位で、割合に安く觀劇が出來る、然し獨逸人にこつては此五十錢の金もナカ〳〵容易でないから、各新聞社は毎日購讀者に團體觀覽券を出して安く觀させるやうな方法を採つて居る、芝居も舞臺に近き上等席は、戰後の成金輩に占領され、戰前に於ける特等席や一等席の客は漸次後方の三等四等席へ移つて行くこいふ有樣である、役者の衣裳や舞臺の裝置なども金のない爲めに、紙だこか安い晒木綿のやうな惡い品を巧に利用して舞

臺裝飾をしてある、而して歌劇は全盛で舞臺衣裳は十七八世紀時代の服裝が大流行であるのは注意すべきことゝ思ふ。

獨逸の汽車

獨逸の汽車、それは餘りに日本とよく似た「べからず」の掲示が多い「唾をするな」「禁喫煙」「右へ行け」「左へ通れ」といふふうに、一等室六人詰の室内に一人入ると、入口のドーアの處に何人塞がつたといふ差込の札を車掌が一々掛ける、置棚の荷物が他人の領分に跨つてゐるといつて、車掌が注意に來る、但し此場合、室内の乘客は一人限りで他に相客のない時でもさうである。停車場の改札口には「右側へ行け」「プラットホーム何番トンネルを抜けて第何番のプラットホームで待て」といふ風に一々指圖がしてある、そして急行列車などは發車の十五分間ぐらゐ前に漸く改札して入場せしむるから、其混雜は一通りでない、羊の牧場に送り込まるゝ如き狀態は誠に日本とよく似て居る、此點になると英國や亞米利加などは

一時間も二時間も前に乘り込ませ寢臺に寢てしまつて知らない間に發車してしまう、米國は殊に朝の六時頃到着驛へ着いた時は、八時まで列車はプラットホームへ引込んだまゝで、乘客は八時までその列車の寢臺に寢て居ても差支へのないやうに乘客の便利を圖つてゐる。

佛蘭西

ニースの海岸

空蒼く氣候暖かき伊太利半島の地中海上、長汀曲浦の風光、波靜かにして鏡の如き所、日本ならば須磨か明石のそれにも比すべき平和の調を湛へたる海岸一帶を總稱してCote d' Azur（アヅルの海岸）といふ。即ちモナコ、モントン、モンテカルロ、カンヌ、ニース及び少しく離れて伊太利のサンレモ等は世界の樂園として歐米人の四時寄り集ふ場所である、英人は是等の地をエターナル、スプリング(恒久の春)と呼び、冬季態々避寒に赴く者が多い、實際此地は、歐洲各國の避寒地とも稱すべき處であつて、氣候の温和なることは、冬季嚴寒の候

に於てすら、日中は合服に外套を用ゐざるも、尙凌ぎ得らるゝほどで、ニース若くはカンヌの海岸には白服に白靴を穿ち恰も日本の五月頃に於ける輕快なる服裝で、ラケット片手に三々伍々海邊を散歩する婦人を澤山に見受ける、最も歐洲の夏と稱するのは、五月末頃より九月一杯をいつて居るが之れは日本の初夏の候で、此時期が歐羅巴のベスト、シーズンであつて街樹青々として生ひ茂り、眞に文明都市の美觀を遺憾なく發揮する時である、それであるから歐洲では白服に浴衣がけの日本の眞夏を想像することは出來ない。

ニースとカンヌ

ニースとカンヌとの距離は、海岸傳ひに乘合自動車で、大凡そ一時間位の處にあつて、ニースが鎌倉とすれば、カンヌは奧州の松島のやうな景色を持たせて之を橫濱に据ゑた形であると思ふ、巴里人をして言はしむれば、ニースは俗でカンヌは高尙だと云つて居る、巴里の金持や上流の人士が木枯吹き初むるとカンヌに行き、翌春四月頃オペラのシーズンになると

再び巴里の社交界に戻つてくる、是も巴里人にとつての年中行事の一ツともいへる、ニースは英吉利人の多く集まる處て、海邊の散歩道を名づけてラ、プロムナード、デゾングレイ(英吉利人の散歩)と呼んで居る、相思の若い男女がニースやカンヌに一冬を、晝はテニス夜はカジノの舞踏殿に踊り狂ふのは佛蘭西人否歐洲人にとりての理想であるやうに思はれる、自分は明日からニースの方へ旅行に出掛ける積りだなどとホテルの女中にでも話すと、それはシックなことだと羨ましがる。

避暑避寒地の設備と民衆

總じて是等の地は日本で云へば輕井澤、箱根、熱海といふやうな場所であるが、凡ての設備が頗る民衆的であつて、誰でも簡單に行くことが出來る、ホテルなども巴里などに比べて一割か一割五分位部屋代が高いかも知れないが、日本に於ける斯ういふ場所にあり勝ちな法外な値段でな　上中下各階級に分ちて誰れでも行けるやうな設備がしてあるから、料理屋で

も安いのもあれば高いのもある、寄席でも芝居でも簡單に氣持よく安く見られる仕組になつて居る、隨つて大勢の人が容易に集まつて、結局資本を投下するものも徐々に回收出來るといふことになると思ふ、總じて歐米人一般が日本は凡ての物價が高いといふ、鐵道然り、ホテル然り、何一ツ高價でないものは無いといふが、是は値段の高いといふ意味ではなく、値段に伴ふ實質がないといふことに歸着してるやうだ、ホテルでも汽車でも拂つた賃金だけサービスなり、設備なり、充分滿足し得られるならば決して高いとはいはない筈だ。

モナコの賭博殿

歐洲の歡樂鄕として、モナコのモンテカルロはコート、ダヅールに遊ぶ者の見逃すべからざるもの、一である、社會の裏面に賭博の行はれるのは珍らしくないが、これを公開し、其收入を國家唯一の財源となし、諸般の政治をなすと云ふに至つては、頗る珍の珍なる事象である、公國モナコ即ちそれで賭博場はモンテカルロに設けられてある。

モナコは人口凡そ五千、國それ自身が小さい公園のやうなものであるが國王あり、國王は一年中の大半は巴里で暮して居る、宮殿は恰度鎌倉の稻村ヶ崎位の海中に突出たやうな處にあつて、近衛兵が百人位居る、住民は昔西班牙領たりし關係上西班牙語を話すが、普通は佛蘭西語で、佛蘭西の貨幣を使用して居る、モナコには租稅といふものはなく、賭博の收入に依つて國家の經費を支辨してゐる。

カジノの賭博殿は毎日九時開場午後十二時消燈と定め、係員の外モナコ人は絶對に入場を禁じ、外國人のみの出入を許し、初めて此處に入場せんとする者は、先づ旅行免狀を係員に示して、入場券を得る規定になつて居る、偖て結構を盡した場内に入れば、金の捨て所に困るといふやうな富裕な、綺羅を飾る淑女、氣品卑しからぬ紳士等が、此處彼處の卓子を圍んで、眉目の間に神經過敏の相を堪へ、盛んに輸贏を爭つて居る、特別室といふのがあり、多額の賭をなさんとする者の爲めに別に設けられてある、賭博は日本の玉ころがしに類する方法で、又トランプに依る方法もある、而して此場内に毎日一度必ず一二人の自殺者を出さざ

る時はないといふ位で、到底地上の活現象とは思へぬ、然しながら一度此場内に入れば、案に相違してその内部の靜寂なること、山中の禪寺の如く、禮儀正しく、喧噪亂雜の觀なきは流石に入り來る者の態度が、如何によく社會訓練の行届けるかを認める事が出來る、場内には劇場がある、酒屋がある、圖書室がある、カフエーの設備もあつて簡單な料理もされる、而して又白雲青波の海を控へて眺め佳なる庭園がある、實に南歐の歡樂境たる名に背かず、人間のあらゆる本能を滿足せしめ得る處である。

今少しく賭博の模樣を記して見よう、場内には處々に賭札引換所かあつて、賭を試みようと思ふ者は其札賣場で現金引換に丸形の木札を買うのである、此の木札には五法、十法、二十法、百法及び五百法の五種がある、一の卓子には青い絨氈が敷きつめてありその眞中には玉をころがす丸い仕切りがしてあつて、兩側に二個の賭ける場所が出來て居る、其賭博の方法は一から三十六までの數字が現はしてあつて、之が赤と黑とに色分がしてある、その下に亦之を三分して第一の十二、眞中の十二、最後の十二と三段に區分してある、一卓子に玉を

ころがす役員が一名、監視が一名、金錢の受拂及賭札の搔き集めをするものが二名、豫備員一名と都合五名が受持つて居る役員の一人がエツセイエー、メツシユー(さあ皆さんお賭け下さい)と呼ぶと、各々自分の好む數字の區劃の上にその賭札を置く、玉ころがしをする役員が銀杏大の玉を手際よく廻すと、クル〳〵玉の廻るにつれて卓子を圍む人達の眼が異樣に神經過敏に輝いて行く、玉が愈々力弱く最後に近づき始め、役員の口から、イリオンナ、ブリユー(もうそれまでよす)といふ聲がかゝると、其ゲームの賭を差止める、さて玉が數字の窪みに落ち込むと、直ぐにはづれた札を役員が短い鍵形に出來た棒で搔き寄せ、當つた賭札の上には規定通りの賭札を加剩して之を當つたものに渡し直に次のゲームに移る。

一から卅六までの數字に張れば卅六倍で、假りに五法の賭札を六の數字に賭けて、玉が廻轉して六に落ちつけば、直に百八十法をされるわけである、赤と黑とは數字に頓着なく、ルーヂ若くはノアールと云へば此分は倍の五法がされる、一から十二までの最初の十二といへば、玉が一より十二までの數字の中に落ちつけば、是は二倍の十法がされる、眞中の十二は

十三より二十四までの數字で、二十五より三十六までの數字は最後の十二と稱して、第一の十二と同じ場合である、ペーヤ、アンペヤ奇數偶數でやるのも、赤黑と同じく倍額の勝ちになつて勝負は決定する、花札と同じやうに當れば賭け高の倍額又は規定の額を提供し、當らざる時は賭けた札は悉く親元たる役員が場札を引去るのであるが、前述の三十六倍に當る處の場所は百法を限度とし、その他一ケ所に一回三千法を限度とし一人一回六千法を最高賭高として制限を附して居る、賭に勝たものは、いつでも初めの札賣場で現金と引換へることが出來るし買つた賭札を全部使用せず殘した場合にも自由に現金と引替へることが出來る、此玉をころがす役員になるには、修業年限十ケ年の學校があつて、玉ころがしの呼吸を敎へ、役員となれば一生買殺しのやうになるのである。

モンテカルロ行の自動車

ニースとモンテカルロ間の乘合自動車、約四十分位の間は直ぐ眼の下に景色のよい靜かな

海を眺めて走つて居るが、此自動車の中に面白い掲示がしてある、曰く「若し乘り心地がよろしかつたと思召したならドウカ運轉手を御忘れにならないやうに」と

Si vous e'tes satisfait du chauffeur ne l'oubliez Pas.
If you are satisiied of the chauffeur do not forget him.

カジノでウンと當つたら酒代は無論でせうねといふ輕いユーモーアで、チツプの督促も歐羅巴大陸らしいノンビリした氣分で興味あることだと思つた。

ムーランルーチ

巴里のモンマルトルは東京の淺草、大阪の千日前といつたやうに不夜城の一廓である、界隈の商店やカフエーは悉く夜の十時頃から開けて翌朝までは實に夜の歡樂境である。

文豪ドーデの著作で有名な赤の風車が表看板に出て居る舞踏場ムーランルーチは此處に集まる老若男女を呑吐する一大歡樂場とも云ひ得られる、場内には廣々とした踊場かあつて、誰れでも五法出せば入場して勝手に踊ることが出來る、然し入場者は必ず一杯のカフエーか

一杯のビールを呑む義務はある。が之も一々強制するのでなく皆不文律の如く、入場者が椅子に腰を下せばガルソン(給仕男)が來て何を差し上げませうかと聞く、若し夫れ四人詰めの區切られたる一劃に席を占むれば、必ずシヤンパンを一本拔かなければならない、兎に角一杯五錢のカフエーか一杯十錢のボツクビールを呑みさへすれば、三時間でも四時間でも音樂につれて踊り狂ふことが出來る、其間々には此の踊場專屬の踊子が出てエキスヒビションをやつて見せる、隣の椅子には六圓七圓のシヤンパンを拔いて豪勢を見せてる人と、一杯十錢のボツクビールを呑む人も同じやうな狀態に於て、同じやうな位置に於て、一定の時間をエンヂョイして、互に面白さうに双方共に僻み根性もなければ、輕蔑するでもなく誠に眞の民衆的な娯樂のされる場所である、勿論此家は巴里の踊場としては第三流に屬するかも知れない、此外に高級な場所は澤山ある、然しタイピストでも會社銀行の小使夫婦でも黑人でも、白人でも、支那人、日本人でも、人種の差別なしに一樣平等に膝を交へて慰安を求め得る場所が果して世界に幾何あるだらうか、ダンスとカフエーと葡萄酒は佛蘭西人にはなくてなら

ない三度の食事と同樣だ、會社員や銀行員は其日の務が終つて夕食前家路へ急ぐ前に先づ一寸踊つて行く、其日一日の仕事は仕事、不平は不平として、勤務が終れば自分の身體となつて安く氣持よく一杯のボツクビールに慰安を求めて歸つて行くことが出來る、或はカフエーに憩ふもよい、ブルーパーデイタリアン通りのカフエーのテラスで一杯一法のカフエーかビツコンソーダを飲みながら道行く人を眺めミユウヂツクを聞く、ユツタリした氣分は到底日本では想像の出來ないことで、伯林のボツダメーヤバーンホツフ(ボツダメーヤ停車場)の前にあるフアーターランド(祖國)でも五錢の入場料を拂つてカフエーの一杯も飲めば、終日場內で音樂を聞いてゐることが出來る、中ではチヨツとした菓子やサンドウヰツチ式のものや簡單な食事も攝れるやうになつてゐる、獨逸のライプチヒの街には入場料三十錢で中へ入つて一杯カフエーでも飲むと、場內にはステージが出來て居つて、獨唱家が出たり、奇術師が現はれたりダンサーが代つて出ると云ふ風に安い寄席のやうな仕組をして安く觀せて居る、敗殘の獨逸でさへ之である、此外活動寫眞にしても寄席、芝居、紐育のコーネーアイランド

にしても加州のロスアンゼルスの海岸にしても、歐米共に民衆娯樂の慰安設備が誠によく行き屆いて居ることは羨ましいことで、其點になると日本には斯ういふやうな民衆娯樂機關の設備が不完全だから終日働いて勞れを休める慰安物はない、日本の藝者遊びといふものは一部人士の慰安設備で決して民衆娯樂と稱すべきものではなからう。

ブルニヱの立喰ひ

巴里はマデレーンの筋向ひ通りに魚介專門の生の料理を喰べさせる料理屋がある、入口のショーウ井ンドには生きた鰕や、貝類や生魚が氣持よく跳ねてゐるのが、道往く人の足を止めさせる、晝飯時に行くと、家の中は英米人や佛蘭西人が一杯で空席もないほどの繁昌だ、日本でいへば立喰ひ屋だが流石に巴里だけに小綺麗で、東京の魚河岸附近とは異つて立派な料理屋に出來て居る、葡萄酒の一杯注ぎ賣りをしてくれるのを呑乾して蛤や細貝などの生を喰べる氣持は何とも云へぬ興味がある、「うにを呉れ」などといひながら葡萄酒の滿を引いて

巴里の江戸氣分を味つて見るのも日本の旅行者にとりて慰安の一ッだ、此家は毎日午前十時から午後の十時までブッ通し休みなしで日曜も祭日も休業しない、女の會計係などは僅に食事時に席を離れるぐらゐで殆ど終日働き通しのやうだ、西洋の婦人殊に佛蘭西の婦人のよく働くのに感心した、此ブルニヱは暑中休日なしの有樣だが、生の魚介類を取扱ふ爲めに一年中の七月と八月の二箇月は休業する。

Cintra の玉子

巴里のオペラの裏通り、グランドホテルの直ぐ附近にサントラと稱する酒屋がある、亞米利加流に言へばバー、日本流で居酒屋だが、居酒屋としては餘りに立派すぎる葡萄酒の二種類を限つて賣るだけで他の酒類は賣らない、アンペリアールと銘打つた赤い葡萄酒が呼物である、室内には葡萄酒の樽が日本の酒屋に酒樽が置いてあるやうにならべられてあつて、室内の模樣は日本の居酒屋と少しも違ひがない、腰掛も同じく日本流に葡萄酒の空樽であつて

洋服を着た西洋人だけにベランメーといはないだけの相違で、日佛人同じやうな氣分が此處にも現はれてゐると思つた、アンペリアール、アンといふガルソンのすき通るやうな聲が、今でも尙耳に殘つてるやうな氣持がする、酒の肴には落花生と茹玉子で一杯五法のアンペリアールに氣焰を擧げるのも愉快であつた、其玉子に赤い色付をして眼を樂ませてあつたのも佛蘭西人のデリケートな藝術國民らしい氣分が偲ばれて嬉しかつた。

安料理 Chartier

ブルーバーデイタリアンの通りを横筋へ入つた處にシヤルチエといふ安料理がある、或日の午後カフエーで和蘭の青年と知り合になつて、自分は初めてその青年に此安料理屋に案内されたが大變繁昌するのに驚いた、自分達の行つた日は夕方の食事時であつたので尙更混雜して居つたが、隅の方で暫く待つて漸く腰を下すことが出來た、料理はアラカートで何でも註文が出來るし、早いのと値段が安くて比較的甘いので薄給者が澤山集つてゐる、老孃ども

いふべき給仕人がナフキンとホークを持てきて大理石の食卓の上に紙のテーブルクロースを敷いてくれた、メモをエプロンの隱しから出して註文の品數を書いて行つた、間もなく皿數は註文通り來て一本の白葡萄酒に陶然として醉つた、一人前五法ほどの勘定を拂つてメルシーオーバールモツシュといふ齒切れのよい佛語を浴せかけられ乍らシヤルチエを出てブルーバーデイタリアンの大通りをオペラの方へブラ〳〵歩いた。「君、カフエーを飲まうか」と和蘭の青年にさそはれてカフエー、アメリカンに入つた。さて勘定となつて外套の釦をはづすと白いエプロンが其儘洋服にくつついてゐた、シヤルチエで食事を濟してエプロンを置くのを忘れて其儘其上に外套を着たので少しも氣付かなかつた、飛んだ滑稽を演じたが其晩は件のエプロンはホテルへ一晩泊めて、翌日晝頃再びシヤルチエへ出掛けて行つた、シヤルチエの女中は後で氣がついて大笑ひをしたさうだが、之が緣となつてそれから時々自分は此シヤルチエへ食事をしに行つたが、行く度に必ず此女中の受持のテーブルへ陣取ることにした、其間倫敦へ行き日數も暫く經つて再び行つて見ると、御病氣でしたか久しくお見えになりませんね

なご、佛蘭西人一流の愛想のよい御世辭を使つて客をそらさぬ人扱ひの上手なのに感服した、紙の食卓掛けは勘定こいふこ早速鉛筆で算盤の代用こなるこころ、速辯主義で面白い。

巴里の雀

零度以下四度、十度こ降る巴里の二月は、空風は吹かなくこも矢張り寒い、日曜の或朝、數日來の曇天が久方ぶりにカラッこ晴れたので、私は朝の散歩がてらルクサンブールの公園へタキシーを驅つた、其處には既にベンチに寄つて新聞を讀むもの、池を圍んで小さなヨットを浮べる子供づれの家族、靜かに朝陽を浴びながら林の中を散策する讀書子なご、種々の人達の集まりで、可なりの賑やかさであつた、私も人々の後について散歩して居るこ、彼方の水溜りに一羽の雀が行水をするのを認めた、十間、五間、二間、一間こ近づいて行つても逃げやうこしない、暫らく立止つて其雀の行水を眺めているこ、立派な老人が傍へ來て「さぞ寒からうに」こ獨言のやうに私に話しかけてきた「いゝね雀にこつては人間の湯浴こ同樣

で必要なここです」こ私が答へるこ、其老人は「御腎者はいらない」こ云ひながら通り過ぎて行つた。

全く巴里の雀は人間に親しみがある、春のボカ〳〵こ暖かい日盛りの午後、コンコードの廣場の傍の並木の中なごでパンの切れを投げてやるこ、あちこちの木の枝から幾羽も幾羽も飛んで來て足許でチュウ〳〵パンの切屑を拾ふ有樣は日本の雀こは似ても似つかぬ可愛らしい感じのする小鳥であるこ思つた。

獨逸の漢堡に遊んだ人は、夕方内海の岸に立つてパンを投げてやるこ、飛んで居る鷗が幾羽こなく集まつて來て、果ては手に持つパンを嘴でついばんで行く光景を目擊されたこだらう、又巴里のボアの公園なごでは道往く人の足の上に棲る栗鼠の馴れ〳〵しい態度なご如何にも西洋人が常に動物愛護こ公衆の樂みこいふやうなここに皆理解があつて動物を可愛がる爲めに期せずして禽獸類まで人間に親しみを感ずるのではなからうか、誠に羨ましいここである。

自由、平等、友情

ルクサンブール公園の朝の散歩はいつの間にか、足がカルチエラターンの學校街の方へ向いて、私は巴里法科大學の正門前に來た、フと見上げると古びて苔色を帶びた石造の建物の正面に「自由 (Liberte) 平等 (Fquite) 友情 (Fraternite)」の三文字が儼然と刻まれてあつたのは嬉しかつた、其處には「官立大學？無用の者入るべからず」とはしてなかつた、血を流した佛蘭西革命の結晶「自由、平等、友情」是が即ち佛蘭西の眞價であつた。

金持の唾

西洋の諺に「金持は自分の唾を丁寧にハンケチに包んでしまつて置くが、貧乏人は之に反して惜しげもなく何處へでも吐きすてる」と言ふことがあるが、實に歐米人は一體に此點は能く注意し、人の前でカッと啖を吐くやうなこともなければ、音さへ立てるやうなこともない況して電車や汽車の中で青啖を吐いて他人の迷惑を平氣で顧みないやうな者はない、公衆道

德觀念の行き渡つてゐることは誠に感服することで、汽車汽船の乘り降りから芝居でも寄席でも又は活動寫眞にしても、兎に角多人數が寄り集まつた場合に、お互の權利は主張しても決して是に依つて他人に迷惑を感ぜしめるやうなことはしない、隨つて其處に自ら秩序といふものが保たれて萬事が圓滑に處理されて行く、言ひ換へれば佛蘭西否歐羅巴は「御免下さい (Pardon) 有難う (Merci) 何うぞ (Si'l plait)」の三語に依つて解決されるといふも過言ではあるまい、或夕巴里のオペラの大通りを散歩して居ると、人混みの中で私は過つて往き違つた人の足を強く踏んだ、誠に濟まないことをしたと思ひ「御免下さい」と言ふ私の謝辭が先方に聞ゐる前に、踏まれた相手方の人から先に「御免下さい」といふ言葉を浴せかけられて實に恐縮したことがあつた、是れが日本であつたらドウであらう、バードンごころか鐵拳が先に飛んで來るのである、倫敦でもシチーのオフイスなどに毎朝、郵便屋さんが郵便物を屆けに來て受取りにサインをして貰らうと「有難う」と禮を言ふ、郵便物を受取つた事務所の人も「有難う」と述べる、見て居て如何にも氣持のよい友達扱ひの應接振りである。

「もしもし巴里の何番へ」と電話の申込をする、何番が出たと交換手が告げてくれると、受話器を握つた人は必ず交換手に向つて「メルシー」の言葉を呈する、英吉利でも必ず交換手との對話の終りに「イエス、プリース」の敬語を附けないことはない、日本でも交換手に對して喧嘩腰にならず相互に互讓の禮儀を守つたなら必ず斯う云つた感情に基く事故の激減を來すことは必然であらうと思ふ。

佛蘭西人と葡萄酒

歐洲大戰の中心は何といつても獨佛の戰場であつた、ロダンが生前伊太利以上とほめた有名な巴里の北方ランスのカテドラルも見るかげもなく破壞されて、佛軍はアミアンの線より退却し、將に首都をボルドーに移して巴里は獨軍の侵略に委ねなければならない狀況に立ち入つた時、極力防戰に努めた其高調せる舉國一致の愛國心は世界の賞嘆せるところであつて平素の佛蘭西人を見た眼には異常なことだと云はれて居る、此大戰に依る國民各個人の不幸

の數々は言葉に盡されないほど種々の悲慘な話柄があるが、是等不幸な佛蘭西人に聞いて見ても、誰一人國を怨み又は政府を怨む者もなく、皆一樣に佛蘭西の立場として爲すべきことであるといふ觀念を以て國の爲めに盡し、個人の不幸に就て不平を訴へる者がない、而して此防禦戰に堪へ得た佛蘭西人の素因は何かといへば、葡萄酒とアミユーズメントである、四年間の塹壕生活に獨軍の勇敢なる攻擊を防ぎ得たのは一に葡萄酒の賜であつて、佛蘭西人から葡萄酒を除けば殆ど生活の大部分を切り取つたやうなもので、佛蘭西人は之あるが爲めに生て居るともいへる、葡萄酒といへばボルドーと固有名詞のやうになつてゐる、葡萄酒國の佛蘭西が自國產の葡萄酒の輸出量よりも國內消費の爲めに西班牙其他伊太利邊より輸入する量の方が遙に多く、常に葡萄酒の輸入超過といふやうな奇現象も吾々にとつて耳新しい話の一ッであつた。

公德心と學校教育

私は曩に歐羅巴の生活は「御免下さい」「有難う」「ごうぞ」の三語に盡きると云つた、袖が觸つても「御免下さい」といふ、商店で買物をして金を支拂ひ賣手が「有難う」といへば買手も「有難う」と禮を言ふ、喫茶店でお茶を差し上げませうかと給仕が尋ねれば、お客は「ごうぞ」と賴む、誠に萬事が氣持の好いやうにスラ〳〵と運んで行く、私は八箇月の旅行中喧嘩を見なかつた、唯一度伊太利へ行く汽車の中で、或る伊太利の紳士と佛蘭西婦人を伴れた亞米利加の紳士との間に、車窓を開閉することに付いて口論したことがあつた、亞米利加の紳士がつぶやくやうに「貴君は紳士でない」といふと、件の伊太利紳士顏色を變へて、「否、私は紳士だ、君の名刺をくれ」と酬ゐた、此伊太利紳士の大陸人らしい發音も滑稽だつたが、それまで廊下で風に吹かれて窓際に寄り掛つて外の景色を眺めて居つた米人と伴れの婦人が室のドーアを開けて「何事です」と口を入れると、例の伊太利の先生急に其婦人を拜んで引退つたところは女尊男卑の西洋らしい芝居であつた、併し之を以て必ずしも西洋の婦人が年中常に威張りちらして居ると思つたら大きな間違ひで、外ではレデース、フア

ーストでも佛蘭西婦人の家庭に於ける有樣は主人大切にかしづく日本の婦人と少しも違ひはない、要するに公衆の目前で他人の迷惑になるやうなことをすれば、粗野で訓練のない國民だと嘲られ誰れもが相手にしない、隨つて皆自己の權利を主張しても必ず他人の權利をも尊重するといふことは、子供の時分より學校で敎へ家庭で敎へ而して又社會が訓練を與へるので、立派に訓練された人間が出來上るやうだ、此點になると日本の社會でも封健時代には武士の階級に現代西歐文明國の行儀作法に劣らぬ立派なものがあつたにも拘らずいつの間にか楠正成湊川戰死の忠君愛國一點張りと日清日露の大戰以來餘りに敵愾心のみ强くなつて、比較的學校敎育などに於て公衆道德觀念の養成等を等閑視された傾きがあつた、屢々見る公衆道德宣傳の「お互に車內は淸潔に保ちませう」なども中々徹底しさうもないやうに見ゐる、ごうしても將來の日本人は須らく島國的根生を捨てゝ宜しく大國民たるの雅量が無くてはなるまい、今次の大震火災に際して罹災地住民の當時の狀態を見て誠に驚嘆すべき國民であると各國共に之をほめた、然しながら震後の數日自警團の暴行、避難者の無秩序なる汽車の乘

降を目擊したる者は、尙國民的社會訓練の必要なることを看取したであらう。

外國人の都

巴里は世界の都で又外國人の都である、巴里を一瞥したのみで佛蘭西及佛蘭西人を斷定するこゝは出來ない、旅行者は巴里を見て之を佛蘭西人の生活のやうに思ふ者もあるやうだが巴里は決して佛蘭西人の巴里にあらずして外國人の巴里である、巴里の裏面を覗いて佛蘭西の滅亡を叫び、カフエーに悠暢な氣分を味はつて居る佛蘭西人を見て亡國の民と考へるのは早計である、若しそれならば佛蘭西は疾に滅亡して居なければならない筈だ、勿論佛蘭西の文明は爛熟し切て既に盛りは過ぎたかも知れない、然し國民自身は非常に勤儉貯蓄の國民である、政府は貧乏でも個人の富めるものは澤山ある。ニースやカンヌの海邊に建て並ぶ瀟洒な而も宏大な別莊を見ると社會主義者の多い佛蘭西共和國とは思へぬほどの矛盾が横はつてゐるやうに思はれる。

愛想のよい國民

多年强國との間に介在して國夫れ自身が訓練を經て居るためか、國民性が誠に柔やかに出來てゐるのは佛蘭西人だと思ふ、殊にそれは巴里などの都よりも却て佛蘭西の田舍の方が一層其感を深からしめる、日本で土地柄の惡い片田舍などへ行くと、未だに旅人の足下へつけ込んで昔雲助といふ類のいふ「旦那酒手をおくんなせい」といふやうな尻切り襦袢に八藏を極め込む手合と比較さるべき下等な佛蘭西人でも誠に愛想のよい人あたりの好い丁寧な扱方である、多くの日本の旅行者は佛蘭西を評して國民が薄情なやうにいひ、巴里は花やかでも倫敦のやうに莊重な感じがないやうにいふが、是は其旅行者の言葉の關係や其他の事情と又外國人に向つて日本人同志の親類附合ひのやうな取扱方を風俗習慣の異なる他國人に求める日本人の方が無理であつて、佛蘭西人の薄情でも何でもないことだと思ふ、恐らく世界に佛蘭西人ほど人種の差別をしない平等な扱をする國民はあるまい、アルゼリーの黑ん坊も黃ろ

い日本人も支那人も英人も米人も悉く佛蘭西では平等の取扱ひである、振返つて人の顔を見返すやうな無禮な奴はない、斯ういふ風に愛想のよい佛蘭西人がいつも結末の成果を英吉利にさられてしまふのは、そこに日本人と共通の感情に趨り過ぎて終局を誤る缺點があるのであらう。巴里のオペラの前の平和通りは世界のショッピング、ストリートとして有名であつて、事實亦小賣商として佛蘭西位客扱ひの上手な國民はないか、偖て輸出貿易の大卸商人としては、小賣に於て極下手の英國人のために、いつも利益を占められてしまふところは確に國民性の然らしむる所以ではなからうか、恰度佛蘭西が藝術家なれば獨逸は學者、亞米利加は商賣人といふ格にあてはまるやうだ、極言すれば獨逸と佛蘭西とは土方と樂隱居と隣り合つた形で、腕力に於ては到底獨逸に敵せざることは、佛蘭西人も之を承知してゐる、そこで對獨壓迫の激しいのも無理はない。

色彩に現はれた國民性

日本人と佛蘭西人と國民性の似た點が澤山あるが私は以下少しく各國人に就て色彩に現はれたる國民性を紹介して見たい。

日本人と支那人

日本人は概して一般に潰し色（類似色）を好む爲めに總じて色彩の力が弱い、近くに居つて其色を見る時は非常に高尚にして纖細而も雅致に富むも距離を十間と隔て、若くは事物を大きく現はす時には色彩が弱い感じがある。然しながら澁い高尚にしてデリケートな趣味を表はすことに於ては第一等である、吾人が木目の渦を賞鑑するが如きは其一例である。之に反して支那人は悉く強い原色其儘で事物を配色するがために、近くで見る場合又は新らしく配色した場合には、誠にケバ〳〵しく毒々しい感じがするけれども、一丁より十丁、十丁は一里と遠く離れて、其配色を見るときは、色彩の調和が大變綺麗に良く見える。例へば支那の家屋を遠方より望み、或は其他の支那趣味の物が、年月を經て多少原色が薄らぎたる場合

なぜ、殊に其配色の妙味が充分表はれるのである。即ち日本人は弱い類似色を好み支那人は強い原色を好む正反對の特色がある。

日本人と佛蘭西人

日本人と佛蘭西人とは感情に激し易きことの非常に相似たること、趣味の同一を解する點を認めることが出來るが、佛蘭西人は日本人以上に色に對する感覺が鋭く且つ日本人の好む澁い趣味に加ふるに支那人の好む原色を調和させる頭腦を持つてゐる、それであるから同じく歐羅巴の中でも佛蘭西人の色彩に對する鑑賞眼は他の國民に比べて一段敏感である、例へば佛蘭西の婦人が着物を買ふ場合に色の選定をすれば必ず自分の頭の髪の色、顏の色の具合、顏の形ち其他持物の手提袋や身につけて居る靴及び靴下の色合からスカートとの調和に至るまで、全裝身具の色との調和を考へて新らしい品を買ふのである、それだから買つて歸つた新しい品と他の所有品との不調和を來すといふやうなことはない、日本の婦人殊に花柳

界の人で常に身姿や服裝に大きな注意を拂ふ人達でも果して是だけの注意を拂つて品物を買つて歸るものが澤山あるだらうが、恐らく大部分の人達は各階級共に呉服屋に行き氣に入つた柄合を見立てると、其品が自身の顏形や其他の持物との調和がとれるかどうかといふやうなことは一向無頓着に買つて歸つて、さて調和がとれないで更に之を調和させる爲めに尙餘計な品を買つて歸るといふやうなことが多いだらうと考へられる、又佛蘭西の男子が黑の帽子に黑の洋服若くは佛蘭西好の霜降服に澁い好を尙び、手垢のついた手袋を持つのを却て通人だといふやうに、男は汚くして居て女を奇麗に着飾らせるなどは日本人に似た點である。

佛蘭西人と米國人

米國人はどちらかと云へば、支那人の如く原色を好むも、支那人の如く配色に就ての美術的趣味は少いやうだ、國民性が粗大で單純である如く色彩についての好みも白に赤の棒縞の配色といふ頗る淡白な好みが多く、佛人の如く纖細ではない、同じく西洋人向きとして輸出

されるキモノの柄合の如きものにしても、牡丹に唐獅子の赤い派手な柄が、米國人に好まれても佛蘭西人には結城紬の派手な縞物が好かれるといふ相違は確にあつて、全然國民性が正反對の趣向を示してゐる、佛蘭西が美術家なれば米國か商賣人のやうに

獨逸人と米國人

米國人のケバ〳〵した大柄な色に對する趣味性と相對して、獨逸人は多く赤色及び黑色の配色を好み雙方共に强い赤色の原色其儘を欲するも、米國人は之に配して白色を使用し、獨逸人は之に配するに黑色を使用するのは、氣候風土の關係及國民性の相違の然らしむる所以で獨逸人の多く暗黑色を好んで使用するのも之が爲めである、稱して日本では一般家具製造家などは、此特色を獨逸色とさへ呼んでゐる。

英國人と獨逸人

獨逸人の暗い重苦しい色を好むのに反して、同じく英人も多少莊重な感じの色を好む傾向

はあるが其色が多くマホガニー色で落ついたごつしりした感じがある、殊に英國上流社會の室內家具裝飾等にはスパニッシュ、マホガニーが一般に歡迎されて居る、要するに英國はマホガニー色の高尙にして單純なる趣味に終始して居るともいひ得られる、かくの如く色彩に關する各國人の好みの異る所以は固より氣候風土の關係及び國民性の相違に基く點が多く、歐米各國を旅行中、眼に觸るゝ建築物の樣式色合などを見ても、等しく西洋風の建築として大なる變化を認めないが、仔細に各國を比較考察する時は、各國共に幾分か相違點を認めることが出來る、之を例へば、伊太利の如き明るい灰色に少しく桃色を帶びたる家屋が多く佛蘭西南部の建物が同じく明るい瀟洒な感じを與へる色合なるに獨逸に入ると、石造の一體に暗い感じのする頑丈な建築物が多い、佛蘭西の建築物や室內の家具裝飾が黃金色瀟洒にして纖細きらびやかの趣あるに引換へ、英國の莊重なるマホガニー色、白耳義の灰色、和蘭の如きはクリーム色の恰度明るい四角な、小さい建物にのごかな、それも强國といふ强い原色と原色との間に介在して小國としての柔らかい靜かな色彩を投げてゐるかの感がある、譬へば

原色と原色との配色が强過ぎて色の調和のとれない場合には其中間に弱い類似色を配すれば兩者の原色が此中間の類似色によりて相互に色の調和を保たれるやうなものだ。

亞米利加は石と煉瓦、角砂糖を積み重ぬたやうに便利と簡單、忙しい實益本位の建物が多く、色彩の如きも、群衆心理といふのか一人流行色を出すと猫も杓子も突飛に其色に附和雷同するところは恰度亞米利加の音樂がジャッヅに依つて是を代表して居るやうなものであると思ふ。

結局色彩に對する鑑賞眼は、高尚なる澁い色合を尊重するのは、各國ともに趣味の向上者の到達する共通點ではあるが（事物、又は廣い場所等に依つて特に强く原色を現はす場合は別問題なり）日本人一般の好みが餘りに地味に走り過ぎはせぬか、昔の人は配色に就てはなか〳〵苦心したもので、小袿襲の色目などを見ても實によく研究されて居ることが分る、田中納言の書いた色の千草等に出て居る襲の色目、藤樣色目等皆感服するものばかりである、錦繪が西洋人に依つて推稱せられる日本人は決して色の鑑賞眼は盲目ではない、和蘭派の影

響を受けて暗い感じのあつた佛蘭西の繪が歌麿や豐國の影響を受けて明るい感じのものに變つたことは、マチス彼自身も云つてゐる、然し現在に於ては既に日本から教へらるゝものはなくなつて、却て支那に負ふ處が多いといふのは、支那人の原色應用の配色の巧妙なる點に歸すのであらう、昨今歐米共に東洋趣味として支那料理ともに支那の物が喜ばれるのはやがて日本にオリヂナリチーのものがないといふ謎ではなからうか、我々は從來の類似色に配するに尙少しく原色をとりいれたならば時代に應ずる面白味のあるものが生れるであらう、今の日本は西洋のものよりも却て再び支那に多く色彩の調和等に關する學ぶべきことが澤山あるやうに思ふ。

天才の佛蘭西人

マルコニーの無線電信發明を除いては近世文明の利器で何一つとして佛蘭西人に依つて發明されないものはない、活動寫眞の機械も米國のエヂソンに依つて完成せられたけれどもそ

のヒントは佛蘭西人に依つて與へられてゐる、飛行機、飛行船、ラヂユームの發見、其他あらゆる科學的發見の端緒は悉く佛蘭西人の天才的發明に依るものが多い、斯くの如く佛蘭西人は發明的創意に富める國民である。而しで之を組織的にするのが獨逸人である、獨逸人の國民性に就ては既に獨逸の事を書いた時に述べた、例へば獨逸で建築に關する參考書を集めて見る、其著書の大部分が大概大同小異の內容に逢着する、ツマリ佛人によつて創始せられ獨逸人に依つて組織的に組立てられたものを、更に大規模に擴張して實益に供するのが亞米利加人である、即ち重ねて言ふ佛蘭西は藝術家、獨逸は學者、亞米利加は商賣人だと

巴里のタキシー

巴里のタキシーぐらゐ安くて輕便で痛快なものはない、痛快といふ一面には危險といふ分子を含んでゐる、適度の速度といふ各人の常識に訴へであるだけで速力の制限はない、日曜日などボアの公園を拔けてベルサイユ宮へ行く郊外の道などは四十五哩位の速力で走つて行

く自分達の車をドン〳〵追ひ越して行くのがあるを見ると、五十哩も六十哩も出してゐるに違ひない。

速々其他到る處に客待ちするタキシーに乘つて「さあ行け」と運轉手に命ずると、直ぐ樣二三十哩の速力で走り出す、氣の早い佛蘭西人の運轉手だ、運轉も上手だけれども可成りきわどいことをする、そして賃金の安いことも世界一だ、五法(五十錢ぐらい)も拂へば巴里の隅から中心地點まで運んでくれる、チツプの二法もやると「メルシー」と尻上りに大きく禮をいふ、オペラの歸りに家族一同タキシーを雇つて歸る富豪はあつても、自用車を夕刻から待たして運轉臺に坐らして芝居の閉場まで待たせて置くやうな不經濟なことをする富豪は一人もない。

斯うした安いタキシーも、夜の十二時を合圖に、賃銀計量器は止まつて、十二時以後には必ず一法餘計にエキストラを拂ふことになつてゐる、其上恰度日本の客待車夫と談判するやうに、どこそこ迄幾何で行くかといふ風に賃金を定めで乘るやうになる、流石に文明國の佛

蘭西だけに尻はまくらなくても「旦那もう少しお奮發なさい」と足下をつけ込んで高値に吹かけて來ても、近所にタキシーの通らない場合には止むを得ず乘らなければならない、時には旅人を見掛けてタキシメーターを胡麻かす奴もある、是は倫敦にもある、遠廻りに道を迂回して賃金を多く出させやうとする横着な奴もある、或る日自分は芝居へ行つた、劇場の前で降りながらタキシメーターを見ると、運轉手の請求する金額と一法の相違がある、靜かに降りて運轉手に請求の金額を支拂つて、さて改まつて運轉手に尋ねた「お前は佛蘭西人か」「然り」「佛蘭西人なら正直な筈だ嘘はいふまい」運轉手は遂に澁々一法を吐き出した、然しこんなのはそんなに澤山あるものではない。

大陸のタキシーは一樣に箱の眞中を天井から半分に割つて、春先き天氣の日には半開きで幌なしで走るやうに出來てゐるが善い思ひ付だ、短距離を乘つても一圓五十錢以下では乘れない日本のタキシーは、人力車に比べて安いやうなものゝ、未だ〳〵一般的に實用になるには前途遼遠の感がある。

故北白川宮殿下

巴里を立つてニースに行く友人をガールデストに送つた時、測らずも其特急列車に故殿下が妃殿下と御同乘遊ばされるのを拜し我等二人はプラットフォームから脫帽して敬意を表した處、妃殿下は車窓から輕く御會釋を賜はつた。友人は殿下が當時ボアに假の御住居を御定めになる以前、ホテル　マゼスチックで御眼にかゝつたことがあるので直に殿下の御車室へ御挨拶に伺つた、やがて殿下は客車からプラットフォームへ御降りになつて自分の傍へ御出になり種々と御下問を賜はつた、東京の邸ではズツと前からお前の店で世話になつてゐる、歸つてからも面倒になるよ、なぞとくだけたことをお仰せになつた、餘り殿下の平民的な御態度に恐縮した、自分が帽子を脫いで手に持つてゐるのを御覽になつて、遠慮なく被れとまで仰せられた、やがて列車は輕やかにすべり出して兩殿下は御機嫌よく御出發になつた、其後二旬を過ぎて意外にもニースの旅宿で病床の友に邂逅した、友の話に依れば其時の列車が

大變込み合つて妃殿下は食堂車へ御出でになる途中、列車の廊下で外國人の間におされながら誰も妃殿下とは知るよしもないので隨分お窮屈な思ひを遊ばして一般外人と同じやうに食堂車の晩餐を御召になつたといふことである。殿下は又御自ら友を妃殿下に御紹介になつたり、友の專門の事業のことに就ても種々委しく御質問遊ばされ大に日本人が世界に雄飛しなければならないことを力强く仰せられたさうである、其後伊佛の國境ヴアンチミールの停車場で自分は再び殿下に謁するの機會があつた、殿下は自分を覺ゑておいでになつて、三月の初旬までには瑞西を通つて巴里へ歸るから是非ボアに遊びに來い、白木屋の發展策でも聞かうなどと御笑談まで仰せられた、誠にお親しみのある平民的な宮樣であると感じた、御無事に御留學期も濟んで御歸朝遊ばされた時の殿下の平民的な御態度はどのくらゐ國民の期待を滿足せしめられたことであらう、そして國民と皇室との接觸が一層殿下のお力に俟つ處澤山あつたことゝ思ふにつけても返すゞ〳〵も御奇禍に遭はせられたことが殘念である。

伊太利

ミランの墓地

伊太利語のカンポサントー、佛語のシメチエール、英語のセメタリーは等しく日本語に譯して墓場としてあるが、墓場としては餘りに立派に過ぎ又餘りに明るい氣分が日本の墓場といふ言葉には相應はしくないやうだ、古くて規模の大きいのはゼノアのカンポサントーで、新らしい美術的氣分のするのはミランのカンポサントーであらう、此處は寧ろ墓場と云ふよりは美術品展覽會場のやうな感じがあると思ふ。

ミランのカンポサントーは規模は小さいが中々立派である、日暮里の火葬場を見た私は、ミランのカンポサントーの正面にある火葬場が恰度田舍の瀟洒な小さい停車場に入つたやうな氣持がした、大理石や鑄銅の立派な彫刻が一つ一つ見て歩いても見あきないほど澤山ある

案内者の言ふところに依れば、安いので五千圓以上、一萬圓からの品ばかりであるから、貧乏人は此處へは出せない、隨つて貧乏人は前に述べた停車場のやうな火葬場のホールの壁間に寫眞形の名札を止めるに過ぎない、それから是等の彫刻も五年ばかり經て新しい優れた彫刻品が出來るこ、場所の關係で交代させられるこいふ事だ、矢つ張り一種の美術品展覽會場のやうなものだこ思つた。大きな鷲が翼を片方落されて其下にプロペラーが折れた處を現はした彫刻で、伊太利飛行隊軍人の犧牲者の靈を祀つたものがあつた、中には突飛に人の目を惹く爲めに思ひ切つて奇拔なのは髪を亂した三人の女が首から下は長く蛇が鎌首を持たけたやうにのしかかつたやうな形のものもあつた、元來西洋の墓場は陽氣に、日本の墓場は陰氣にこいつた正反對の感じがあつて、日曜の天氣の好い日なごに赤い花の咲いた草花でも持つて墓參りに行けば、死んだ人が墓塲の中から出て來て、浮世の人こ話しでも出來相な氣持がするが、日本の墓場にはごうしても樒の木に「幽明境を異にして」こ、しめつぽく出掛けないこ對照がよくない、つまり西洋はいつまでも浮世の人こ墓中の人こを現實に結びつけて置か

うこするし、東洋は十萬億土こ現實こを打ち切てしまつてゐる、隨つて西洋の墓碑に刻み付る文句も何こなく親しみがある、ニースのシメチエールには斯んな文句の墓碑があつた「彼(ソレ)の太陽(ソレユ)は其日(アボラフアンヂユジユール)の日沒前に沒(ヒツシユ)してしまつた」(Son so Leil es coucher avant la find du jour) そうして其横には何年何月沒す、こ日附が入れてあつた、或は又老人の碑にボルドーから何年何月このニースへ移つて來て何年何月に永眠したこいふやうなここや、十五六歳の少年の碑には其父が建てたものであらう「彼は終に慈愛深き兩親の暖かい教育を受けずに早逝した」こいふやうな如何にも親子の情愛を純眞に現はした文句が刻まれてあつた。

ミランのお粥

伊太利の料理は名物マカロニで有名であるがリゾット、ミラネーズ(ミランの粥)を知る者は比較的尠いであらう、リゾット、ミラネーズこ云へば伊太利の何處へ行つても知つてゐるが、さて食べやうこなるこミランのホテルでも特別に註文しても中々作つてくれない、僅に

一軒ミラン市に伊太利人だけ行く專門の料理店があつて、一皿邦貨五十錢位でミランのお粥を食べさせる、それは日本のお粥其儘の上に引肉をかけて更にチーズの粉にしたのをふりかけて出す、之が又非常に味がよくて冬の寒い日にほつほつこふくやうにして食べる味は忘れられない、伊太利は大概晝飯は此お粥を一皿にコーヒ位で濟ましてゐる、伊太利ほど日本と同樣米食をする歐羅巴人はなく粒の小さい日本の上等米が伊太利で澤山出來るのも、西洋人は肉食ばかりするものと想像してゐる人々は意外の感がするであらう。

ナポリの名物男

嚴寒の二月に早くも菜の花の咲く伊太利ナポリは實に好い處だ、鹿兒島の櫻島を配したやうな景色のよい、カプリの島を前にして南國氣分の豐な土地柄である、此處に遊ぶ日本人で伊太利の案内者アントニオの厄介にならないものはないくらゐ、有名な日本人專門の名物男がある。

ローマを午後の一時頃出た汽車は夕刻七時頃ナポリの驛に着いた、プラットフオームに降りて赤帽を呼んで手荷物を渡すと、お宿はと聞くから、ホテル　コンチネンタルと答へた、ではアントニオと、赤帽の言ふのを聞いて噂に違はぬ名物男だなと思つた。

石疊の街路をホテルの乘合自動車で二十分計りも走らせると、漸く海岸の景色のよき宿の前で下された、生憎く此日は混雜して居つてコンチネンタルには部屋がなかつた、暫らく待つて下さい、其間晩餐を何處かで認めて來てください、それも部屋が必ず空くかどうかわかりません。などゝいふホテルの言ひ草をボンヤリ待つて居られるか、と入口で押問答をして居ると、自動車で五十格好の胡麻鹽頭の男が駈けつけてきた、何となく此男がアントニオだらうかと思つて、君はと云ふや否や、私はアントニオです、今海岸のホテルに泊つてゐる三人の日本人をポンペイに案内して歸らうとすると、町の者が、アントニオ今着いた列車で日本人が一人コンチネンタルへ行つたといふので、直ぐこちらへ廻つてきましたといふ、實際此男が街を歩くと、日本人がナポリへ着けば必ず此男に敎へるものらしい。

アントニオがもつと上等のホテルへ案内しますと云つて直ぐ近くのエキセルシオホテルへ自分の自動車に私と私の荷物まで積み込んで運んでくれた、アントニオ自身ホテルの事務所へ出掛けて萬事萬端部屋の交渉から一切整へた上に態々私の部屋まで案内してくれて、さてオーソライズド、ガイド、フオア、ジヤパニースと書き入れた名刺までくれた、ナポリに來る日本人で自分の案内しないものはないといふやうな話や、ナポリで客死した大阪の廣瀬藷伯の看病をしたとだの、德富蘆花氏の事ども種々訛りのある英語で語りながら獨り滿足な樣子であつた、私は彼が歸る時に謝禮をしやうと思つて少しばかりの金を手渡しすると、イ、エごうしましてと固く辭して受取らない、では又明朝伺ひますと歸つて行つた、變な親切な男だと思つた、翌朝早くからアントニオはやつてきた、恰度泊り合せた日本人の同勢五人で博物館を見物に行つた、日曜であるが自分が交渉するからといふので特別室まで開館させて呉れた、海岸をドライブすると到る處でアントニオ、アントニオと頗る人氣がよい。

其翌日はポンペイの舊跡を見に行つた、アントニオに聞くと、彼は一年何百回とポンペイ

に行くさうだ、ポンペイ附近に行つても、彼は顔役のやうに到るところ人氣が盛んであつた

兎に角謝禮として別に金を與ふれば兎に角、さもなければ彼は人數が何人であらうとも一日の案内料は四十リラ(凡そ四圓)位と戰前定めた料金で十年一日決して値上げをしようとしない。

彼を一日案内者として雇つて置けば、食事萬端の世話から自動車賃凡て悉く實費を立替へて置いて後で割前を極めてくれる、誠に調法な案内人である、慾のあるやうなない男だ、ツマリ日本人を世話して禮を云はれるのが樂みで、其日の案内をすましてホテルまで我々を送り届けてタンキユー、タンキユーと大陸人らしい英語で日本流のお辭儀して歸つて行く姿は誠に可愛らしい、彼の言ふところを聞けば、彼はもと地中海を航海して居つた伊太利の船員で、若い美しい妻君を持つて居つたが、其妻君が氣が狂つて十年間ほどその看病をしたので頭が變になつて、すつかり物忘れをしたやうになつたといふことである、彼の妻君といふのは貞節な淑女であつたと、彼自身言明してゐるから確であらう、彼ば目に一丁字もない船乘

稼業時代に、耳から入れた英語であらう、隨分文法違ひのことを平氣で言つてるが會話は達者である、其上少しぐらゐの佛語も話すが、ＡＢＣさへ書けない西洋人には珍らしい男である。

彼は四五册の金蘭簿を持つて居つて、其中にはナポリで彼の世話になつた日本人の名前がいろ〳〵の文句と共に記念に殘してある、中に「ナポリを見て後死ぬ」（ベヂナポリエポアムリー）といふ有名な文句がある「アントニオ日本を見し後死ぬ」と書いて讀んでやると彼は「好い思ひ付だ（グッドアイデア）、好い思ひ付だ」と手を拍つて喜んだ、誠に無邪氣な男だ。

水の都ヴェニス

汽車がヴェニスに着くと、ステーションの裏には、ゴンドラが客待をしてゐる、世界で乘物といふ乘物は何一ツない都、自動車もなければ馬車もない、さりとて自轉車もない、況して人力車のあらう筈のない伊太利のヴェニスの交通機關は悉く此ゴンドラと蒸汽船とである

普通ならば大路小路といふべきだが、此ヴェニスだけは、大川に小川で、石造の家屋と家屋の間を、反つた落葉のやうな形をした黑いゴンドラが、ギイ〳〵櫓音をたてゝ漕いで行くところは、繪に書いたやうな處だ、河岸の公園以外には石疊ばかりで土を踏む場所も見當らない、ヴェニスの若い娘達の派手な肩掛が長く背後に垂れたヴェニス特有の服裝も、處變れば品變るといふが、尠からず旅情を慰めてくれる、下町の方へ行くと日本の荒物屋のやうな見すぼらしい商家や、店先に落花生と蒸芋を並べた八百屋のあるのも伊太利に東洋の血のぬけきれぬ點があるのであらう、ナポリでは木炭も焚いて居つた、石油罐やバケツ代用の火鉢に炭火を入れて暖爐代りにしてゐる、伊太利も、同じ貧乏な日本と大差ないやうな氣持がした、只彼れにはローマの古い文明があり、我には新興の意氣がある。

伊太利のガレリア

近頃流行のビルディングの中のアーケードは、其起源は伊太利のガレリアから來たもので

あらう、十五世紀に既にミラン市に大ガレリアあり、ナポリにも亦ガレリアの建築されたのを思ふと、人智の進歩も案外新機軸といふものは出ないやうな氣がする、ローマの建築が未だに巴里や伯林の模範となつてゐるのを見ると、ローマの盛時が偲ばれる、ミランの世界的ゴヂツクの大建築カテドラルを見て、案内者の十五世紀時代を見て來たやうな説明は、左から右へ素通りしても、徹頭徹尾大理石の大建築に對しては偉大なる藝術の結晶だとの讃辭を呈するに吝かでない、直ぐ前のガレリアへ入つて立派なモザイツクの床上を通つて館内の珈琲店でテラスに休むと、伊太利特有の濃い強いコーヒーが出る、ガレリアの館内は伊太利人の銀座のやうなものだらう、其隣りが二年前に新築された綺麗な百貨店リナチンテで、店内は氣持のよいやうに明るく小綺麗に出來てゐる、一寸巴里の百貨店の趣がある、商品に美術品の多いのも美術國らしい氣分がした、ショーウ井ンドーに「雑貨(ベンヂタ)、小間物(スペツテイレ)、造花類(メルチエリフ)の特別賣出し」(Vendita speciale merchri fiori)と伊太利語で書いてあつたのも人目を惹く、造花の賣出しなどは日本の百貨店の廣告を見てゐる人には不思議に思はれるが、西洋の婦人が帽子の

飾りに買つて歸つて、自分で裝飾する爲めに、一般に造花の販賣が盛んなのである。

零驛の汽車辨當

ヴエニスから獨逸のミユンヘンへ行く線は、伊太利の國境、山又山の谷間を汽車が走つて行く、沿道の景色も日本に似たやうな處が多く、伊太利の仙人が薪を切り下して居る光景などは、ヴエニスを夜の十一時に立つて、翌午前の三時にヴエローナで乘換へ、翌々日の午後の八時頃ミユンヘン市へ着くのであるが夜行列車が朝山中の停車場へ着くと、防水袋入の辨當を賣りにくる、中にはパン二個にハム、チキン、サラダ、林檎一個に紙製のコツプ附の伊太利特有の壜を包んだ赤葡萄酒が入れてあつて、一袋邦價の九十錢也は便利で安くて感じがよい、それに空袋は早速食品入手提げになるから更に便利と實益を兼ねてゐる。

全體に歐羅巴の汽車は朝の八時か九時に出發する時は、必ずホテルで朝餐をとらなくても

珈琲にハム入のパンに果物位そへて簡單な食事がこれる、獨逸の汽車などは殊に盛んで、朝立の旅客は汽車で食事を辨ずる方が却て便利なくらゐである、一體大陸の朝餐は大概珈琲にパン二切ぐらゐ、强ひて求むれば西班牙產のグレープフルートを喰べるのが精々で、オートミールや、ハムだのと冷肉を喰べるのは英吉利の食事に極つてゐる、汽車で思ひ出すのは佛蘭西などで、列車の發車するまでプラットホームに車のついた新聞雜誌の屋臺店や珈琲、牛乳を簡單に立飲み立喰ひの出來る方法も誠に便利なものだと思つた、和蘭の驛の新聞賣りが籐製の差込籠を提げて居るのも風情のあるものである、斯んなツマラぬ微細なことでも日本の風俗や習慣に向くやうに日本品で工風應用して見たなら案外雅致に富むものも出來るかも知れない。

英吉利

英國の稅關檢査

佛蘭西のブーロン港を正午に出帆する英佛海峽の連絡船は約一時間後に英國のドバーに着く、船が棧橋へ着くと直ぐ稅關で旅券の檢査や所持品の檢査が始まる、英國の稅關檢査は至極寬大だと聞いて居つた自分は、何の苦もなく通過するものと思つて、稅關吏の前に立つた「何か申告する品はお持ちになりませんか」「いゝえ何も」「では其鞄を一ッ開けて御覽なさい」中には日本から携帶のベストコダックの寫眞機と、使ひ殘りのふけとり香水があつた、稅關吏はシタリ顏に「寫眞機と香水があるぢやないか」惡武士が舞臺の上で難癖を附けるやうな物言ひや格好が何だか事ありげに思はれた、そして一ッ一ッ殘りの二ッの鞄まで悉く調べられたが、さて中には古シャツに古靴下、ホンの身の廻りの所要品だけで一向關稅の掛りさうな品は見當らなかつた「それでよろしい」となつて鞄の始末をした時は四邊に自分の外に一人の旅客の影も見ない、その日はそんなに混雜しては居なかつたが、日本人は自分一人ぎりであつた、漸く汽車に乘つて無事に倫敦へ着いた、其後倫敦の或友人にドバーの稅關檢査のやかましいことを話すと、其友人が曰く成程無理はない、一體是迄は英國の稅關檢

査は日本人に對して極めて寛大であつた、處が恰度此一二箇月前倫敦に住む日本の一紳士が獨逸から寫眞機を三個携へ來り稅關を胡麻化さうとして發見された、段々其日本紳士の身元が分つて倫敦在留の相當な紳士といふことが知れて、寫眞機の方は稅金を支拂つて無事解決したが解決しないのは英吉利人の胸の中であつた、日本人といふものはあんな一流の紳士でも、斯んな不正をするかといふやうに解釋し、爾來日本人に對する稅關檢査は特に八ケ間敷い、結局只一人不心得の日本紳士のあつたばかりに、其後の英佛海峽横斷の日本旅行者は皆迷惑を蒙らなければならない、して見ると斯んな些細のことでも能く考へなければならぬことだと思つた。

稅關檢査と云へば獨逸でもチエツクでも實に嚴重だ、國境の停車場内に設けたバラック建物の受付のやうな場所へ一人々々旅客を呼び込で旅券の調べや英貨の携帶額まで檢査するのでウツカリ間誤つて居ると、汽車の發車に間に合はないやうなことがある、或獨逸人が自分の肩を叩いて「君、自分の國でありながら馬鹿々々しいやり方だと思ふほどだから、君等

の眼より見たら嘸ぞ愚なことだと思はれるだらうね」と。

英吉利の稅關が右の如く嚴重なのに海峽一ツ越して反對に佛蘭西のカレーへ渡ると、誠に無雜作に檢査が通過する「どちらへ行きます」「巴里へ」「宜ろしい」鞄にチヨークで印をつけて中も開けずに荷物は待つてゐる汽車に積み込まれる、時には面白いボーター(赤帽)があつて稅關檢査臺に各手荷物を置いて稅關吏の巡廻を待つて居るとボーターが傍から此紳士は巴里へ行くのです、佛蘭西語を話しますよ、と云ふと稅關吏が「貴君は佛蘭西語をお話しですか、それならよろしい」とニコ〳〵しながら鞄の中の檢査もせずに濟むことがある、斯んな時には赤帽に少々餘分に心付をはづんでやればよいのである。

シルクハツトとフロツクコート

日本ではフロツクコートにシルクハツトでも被ぶれば馬車か自働軍に乘る階級の人とのみ想像されてゐるが、流行のないといふ倫敦でさへ今時フロツクコートを着て歩くものは、教

會の牧師以外に鳥渡見當らない、少しく羊羹色になつた、フロックにシルクで「何階ですか」と昇降機の運轉手がシチーのビルディングなどで濟した顔をしてゐるのを見ると滑稽な感じがする、株式市場へ出入りするブローカーがフロックコートを着て居るのを見ると、英國らしい氣分もするが、紐育などには何處を探しても見られない圖だ、山高帽子でさへ此頃は非常に少くなつて、安月給取か、洋服の裁斷師か乃至ブローカー商人の類で、固ぐるしい英吉利の服裝も段々亞米利加ナイズして簡單になつて行くことは爭はれない事實だ、頑固な英吉利人が嫌がつても、鼻をつまんで發音するやうな亞米利加流の英語が盛んに倫敦に輸入されると同樣、亞米利加の無作法なヤンキー流儀の服裝までいや應なしに倫敦を米化しやうとする勢力は、追々背廣の天下となるのではなからうか、日本でも昨今は弗々フロックコートが下火になつて、モーニングの全盛になつて來たやうであるが、之とて冠婚葬祭、晝夜の區別なく用ゐられるので、西洋人から見たら可笑しなものであらう、斯んなことも甚だ小事ではあるが、西洋流に一定したならばよからうと思ふ、即ち儀式張つた夜の宴會には燕尾服、親

しい友達同志の略式の夜の宴會にはタキシート、晝間の訪問乃至冠婚葬祭にはモーニングがよい、日本のやうに夜の宴會にモーニングを着る者は歐米の何處にもない、私はモーニングの代りに寧ろタキシートを推奬したい、足の短い日本人にはモーニングも似合はず、さりとてペンギン鳥のやうな燕尾服もどうかと思ふ。

英國の煉瓦職工

倫敦の建築物を見ると、建物は古いが如何にもガツシリと丈夫さうに見ゐる、カーペンヂスクウエーにある日本人倶樂部の食堂の窓枠の中心に、直徑凡そ尺五寸ぐらゐの煽風器が取付けてあつて、食堂から外部に洩れる牛鍋の香ひを消す仕掛にしてあつたのには驚いた、而して此建物が既に二百年の星霜を經て居るといふことを聞くに至つては更に驚かざるを得ない、此外倫敦の市中到る處の目貫の建物が、大抵百年百五十年乃至二百年位を經過したものであると知つては、英吉利の文明の根柢の深いことが窺はれる、建築と云へば英國の煉瓦職

工が仕事を爲すのに悠暢なことは驚くべしで、一枚一枚の煉瓦を念入りに積み重ねてゐる手際は日本の煉瓦職工の仕事の半分も捗らない、自分自身の氣に入るまで何遍でも積み直し滿足するまでは次の一枚の煉瓦を手にしない能くきいて見れば此方が堅實だと云ふ、此堅實といふ言葉は、日本のあらゆる方面で日本人の味はふべき言葉であると思つた、二百年も經た建築物はその樣式に於て古いところがあるかも知れない、然し古くとも堅實を尙ぶ英國人の面目が其處に躍如として浮び出てゐる。

動物園と子弟の教育

動物園の好きな私は各國到る處の動物園を見た、伯林の動物園も有名である、アントワープの動物園も見事なものであるけれど、英國の動物園は技巧がなくて更によいと思つた、自然を巧く取入れて實際に近からしめ、子弟が之に依つて實際教育を受くるところは觀覽場でなくて一面學校の實地教場である、而して何事も實物教育を施さねば承知せぬ英國人の一端

は日曜日の動物園に於て容易に見ることが出來る、英國の動物園は全然自治會の組織によつて經營されて居るが、實に敬服に堪へない、日本の婦人として海外に遊んだものの歸朝後新聞雜誌に發表する意見の多くは生活改善、思想問題、婦人の自覺乃至參政問題などであるが、未だ子弟の教育等に密接の關係ある動物園の設備改善、之が子弟の教育に及ぼす影響などについて說を爲すものゝないことは甚だ遺憾なことゝ思ふ。

週末旅行

十一月から翌春に掛けて倫敦は有名な霧の季節となり毎日不愉快な天候續きで、碌に日光さへ見えない、どんよりと霧の多い日に焚く石炭の煙が中空に低迷して昇騰することもならず、霧に押へつけられて居る時などの不愉快なことはたまらないやうだ、倫敦ッ子が三度の食事のやうに週末旅行に出るのも意義のあることで、郊外で二三日新鮮な空氣を思ひ切つて吸入しやうとするのも無理のないことである、貧乏人でも年中あくせくと一生懸命に働いて

ヤツと二磅か三磅の貯蓄が出來ると、その金を以て年に一度の郊外旅行へ出掛ける、兎に角倫敦人にとつては週末旅行が食物と共に必要になつてゐるのも氣候風土の關係であつて、次の週間の潛勢力を養ひに行くやうなものである、之に就てはいづれの鐵道會社も非常に勉强して割引切符を發行するなど便宜を計つてゐる、生れながら霧を吸つて倫敦で育つた英國人は此不健康な空氣に堪へ得るも、田舍の新鮮な空氣で育つた青年が倫敦に來て數年霧を吸ふと病氣になるといふやうなこともあるさうだ。

英國の株主と日本の株主

英國人が或會社の事業に資本を投ずる場合に、先づ其事業の性質が成功し得るものなりや否やといふことを究めるのは勿論の事であるが、さて其事業の性質が可能のものと假定して次に研究すべき問題は之を主宰するマネジャーの何人であるか、又其人の人格及手腕如何を調べて後に投資の可否を決定するといふことである、例へば此處に同一の事業を經營する二

個の會社があつて、一方は六分の配當を爲すと假定せば現狀に於て四分の配當を爲す會社は二三年間は到底六分の配當を爲すことは出來ないことは明瞭であつても、此四分の配當を爲す會社のマネジャーの人格と手腕に信賴し將來は必ず六分の配當を爲し得るを確信すれば、現在六分の配當をする會社へ投資するのを止めて、却て四分の配當を爲し居る會社へ資本を投下するといふ傾向があるといふ、如何にも英吉利人の堅實味を愛する一端が現はれて居つて日本の狀態とは稍々其趣を異にする點があるやうに思ふ。

英國紳士と巴里美人

倫敦と巴里は飛行機ならば三時間ドバー、カレーの線を鐵路特急に依れば七時間位で到着する、土曜から月曜にかけて倫敦から巴里へ遊びに行く英國人は、東京から大阪へ出て來るよりも簡單である、佛蘭西人にいはせると、英國の紳士は僞君子だといふ、僞君子であるかないかは別問題として、兎に角英國の紳士が巴里に出掛けて、窮屈なゼントルマンの衣を脫

ぐだけは事實のやうだ。

英吉利の妻君連中は主人が巴里へ出張すると聞くと、大變氣を採むがその主人公に巴里の所感を叩けば異口同音に巴里を歡樂鄉の如く稱へる、オペラやコメヂー　フランセー座などは佛蘭西人で滿員だが、カジノ　ド　パリやフオリベルヂエールなどは都踊式の舞臺裝置と女優の裸踊で絕ねず英米の旅客を惹き付け毎夜立錐の餘地なしといふ有樣である、倫敦では流石に巴里のやうな露骨な芝居はないがコルシアム座などへ行くと、英國人の好きな落語や滑稽物が上場されてゐる、英吉利は家庭で至極ソーバーの爲めに、寄席では落語家や滑稽役者の口を假て思ひ切つて社會の裏面を諷してゐる、そして英吉利人が寄席の好きな理由も其處にある。

倫敦滯留中一度英人の招待を受けてローヤル座へ伊太利の歌劇を見に行つたことがあつた幕が閉ぢて同行の英人が解るかと問ふから一向解らないと答へると、此處に居る九分通りまで伊太利音樂と伊太利語の會話とは解らないのさ、皆んなに解るのは身振と英語の臺詞だけ

だといふ、成程帝劇で外國の芝居を見て解つたやうな顏をするのと同一かなと思つて可笑しくなつた、それはさて置き倫敦の紳士が巴里へ出掛けて高等料理店カフエー　ド　パリあたりで巴里美人と大に共鳴して倫敦へ歸つて來て口を嵌してすましてゐること、目ならずしてストランド　ホテルあたりから件の倫敦紳士へ電話が掛る、呼出された倫敦紳士は色男は自分一人のやうなつもりで札ビラを切てやると、何ぞ知らんあつちにもこつちにも倫敦紳士の許へ電話の呼び出しが掛つて一人の巴里美人に數人の英國紳士が財布を叩かせられるといふ挿話もある、倫敦の料理屋で聞くと、世界中で一番金ばなれのよい思ひ切つた酒手を奮發するのが露西亞の金持、次が英國、第三が亞米利加で日本人は金ばなれのいゝやうでありながら其實四流か五流も六ヶ敷いと。

倫敦のセビロ

語學といふものは、五歲以下の時から稽古しなければホントの外國人のやうな發音を出す

ここは六ケ數い、殊に日本語にLとRとの音のない爲めに尙更此區別は困難である、倫敦の街の名などを聞いてゐると、殆ど語尾は日本人には發音して居るかどうか、解らないくらゐ不明瞭だ、或日本人が新婚の妻君に敎へて、日本人は發音が惡いので一字一句スペルを明かに讀んでは英國人に通じないから、語尾の方はハッキリ言はぬがよいと敎へた、事實是はその通りで下手な發音でクドクいへば尙更先方へ通じなくなる、妻君一日出入の洋服屋が來たので、會話の練習をするのは此時とばかり、一生懸命洋服の背廣を英語と間違へて背廣のビロを濁して發音して見たが、一向先方に通じない、背廣と或は高く或は低くいろ〳〵に發音して見たがどうしても先方へ通じないので折角の背廣の註文も不得要領に終つてしまつた、其夕主人公外出先から歸宅するに及んで其日の事を話し、主人公の敎へてくれた發音法によつてしきりに語尾を濁して背廣々々とさけんで見たがどうしても洋服屋に通じなかつたが、一體背廣の發音はどういふふうにしたらよいかといふ妻君の質問に、主人公は「それは英語でない日本語だ」と大笑ひ、折角妻君の努力も水泡に歸したといふ滑稽物語があつた。

ダンスの稽古

一九二二年十二月三十一日、日本の大晦日の晩は倫敦のセシルホテルの地下室の大ホールで年越をした、曩に我皇太子殿下が御渡英の砌倫敦市の歡迎宴が開かれた、其大ホールでニュー、イヤース、イーブが行はれた、つまり年越祝の宴會である、當夜來會者は踊つては喰べ、喰ては踊り、幾組かの男女が樂の音に伴れて、踊り狂うて曉に至るのである、それこそ老幼無差別で、禿頭の老人と、若い美人と相擁して踊つてゐるかと思へば、馬鹿に背の高いのに小さな婦人が吊り下つてゐるやうなのもあり、ソマトーゼの看板のやうに、肥たのと痩せたのなど、皆思ひ〳〵の踊り手がシャンパン酒を拔いては踊りぬく間に、時計の針は刻々と進んで愈々午前零時を示すと、前面の舞臺に設けた時計の幕を天女の踊り子が打ち破つて現はれるのを合圖に場内總立ちで堂々廻り、手をつないでオーケストラに足並揃へて活潑な軍隊式行軍となつた後は相手選ばぬ無禮講のダンス、斯うなると下手な奴も大威張り、大勢

ゴチャ〳〵込み合つてゐる中へ潜り込んで居れば、ステツプの一ッや二ッ間違つた處で一向氣象もいらない、俺も一ッ踊つて見やうかといふやうな氣持ちがムラムラと頭の中へ持ち上つてきた、他人の踊るのを見てゐると、ダンスなぞは散歩と一緒で、難作もないやうな氣がして來た、待てよ、柔術や相撲の出足と同じやうなことぢやないか、それがちよつと音律に合つて行きさへすればいゝのだ、斯う考へて來ると、無暗に自分も一ッ此仲間入かして見たくなつた、一緒に食卓についてゐる友達は皆レッスンを取つたり、もう晴れの舞臺も踏んでゐるが始めて稽古着の土俵に上つて見るのも何だか興味が深いやうな氣がした、西洋へ行つたら遠慮とハニミカは禁物といふから日本を出る時皆神戸へ捨てきた積りのはにかみが未だ一寸首を擡げてゐる「一ッお願致しませうか」羅に席を占めてゐる最前から知り合になつた亞米利加人の仲間へ申込んだ、オーライトと亞米利加人だけに手つとり早い、其中の老夫人が「デハお相手になりませう」と直ぐ樣承諾してくれたので、こちらも少し驚いた、考へて見ると圖々しい話で、未だかつてダンスといふものをした事がないので、足が右から出るか

左から出るかさへ知らない、況して音樂の耳を持つてゐるのでもなし殆ど問題にならないのだが、そこは西洋のことで自分さへ滿足すれば好いといふエゴイズムから兎に角場の眞中へ出た「全く知らないので歩くだけです」と斷ると亞米利加婦人一向無頓着なもので、よろしい教へてあげませう、と云つたが此亞米利加の老婦人も餘り上手のやうではなかつた、場の廻りを五六回も歩いた、實際歩いたといふが適當であらう、何れにしても臍の尾切つて天晴れ始めてのダンスをやつた、然し結局四回位レッスンをならなければ駄目だ、四回レッスンをすれば充分だと友が其後態々ダンスの先生を紹介してくれた、暫くそれ限りダンスの事も忘れて居たら、或日ダンスの先生から手紙が來た、某氏が貴下ダンス練習御希望の由御申込に付時間割當左の如く致候、友の顔を立てる爲めにも義理にも一度レッスンをならなければならないやうな羽目になつてしまつた、シャンパンの勢ひがトウ〳〵ダンスの稽古にとりかゝることになつた。雨降りの午後ピカデリーの、とある建物の階段を三階に上るとダンス練習所の表札が出て居つた、案内を求めると女子の先生が二人居つて書記も兼ねて居つてとりあ

へず規定の料金一回二十分として四回分一磅を支拂つた、さあこちらへどうぞ寫眞の撮影場か擊劍の道場のやうに板張りの大きな部屋へ案内された、一人の先生がピアノを彈くと一人の先生がワン、ツー、スリーで右を斯う出して左を次に亦ワン、ツー、スリー、まるで小學校の生徒が體操の教授を受けるやうに兎に角此四時間でワンステップからフオックストロット、ワルツまで教へてしまうのだからえらい、フト先生の足を見ると、片足に革のゲートルをつけてゐる、初めは何の用をするものかわからなかつたがそのうち成程と合點が入つた、私は其日ゴルフシユースを履いて居つて時々先生の足を蹴飛ばした、先生は其の度毎にヒラリ〳〵と逃げ足早くかはして居つたが、時々私の蹴りの鋭いので革のゲートルへ泥がついた第一日は無事に濟んだ、亦明日いらつしやい今度はキヤシヤな靴を履いていらつしやいと云はれた、成程と革のゲートルを履く理由が解つた、私と同じやうに新米の蹴手が澤山あるのだらうと思つてはおかしくなつた、ダンスの稽古に三回通つた儘で大陸へ立つた、それつきりダンスの稽古といふものをしたことは無い、大西洋を渡る時測らず船内新聞でダンスの起

源といふ記事を見た、それに依るとダンスは一六四二年に歐羅巴に發達したもので最近の流行物ではないことがわかつた、種々の變遷はあつたにせよ、ダンスはナカ〳〵古い歴史を持つてゐる、是が近時流行の因を爲したのは亞米利加のジヤッヅバンヅの力が與つて大にある。

亞米利加

亞米利加氣質

「ヤ、御機嫌如何ですか」始めて紹介されても「ヤーどうです、其後は」と言はんばかりに大きな手で握りしめる、亞米利加人との初對面の挨拶は、至極く無雜作な感がある、そして其翌日、二度目に會社のオフヒスなどへ訪ねると此方の姿を見るや否や遠くの方から、手を頭の上でくる〳〵と廻しながら「ヤ、ヤ」と云つてゐる、何だかふざけたやうな取扱方であるが、之れが眞面目で滑稽味を含んでゐるだけだ。君の名前の「石渡」は餘りシラブルが長過ぎるから略して「イシ」と呼ぶよなど戯談交りに亞米利加の若い友が私に云つたのは、

始めて彼と會つた翌日のことである「ドウでも君の自由に呼ぶさ簡單なのがよい」と私は答へておいた。其後私は彼と共にニュージャー州のニューワーク市といふ處へ行つた、此街は紐育から地下鐵道で三十分位の距離に在つて人口凡そ五六十萬の商工業地である、シカゴの方から汽車で始めて紐育へ行く日本人が時々車掌の呼び聲の、ニューワークを紐育と間違へて、此驛へ倉皇てゝ降りて、汽車においてけぼりを喰ふ有名な處だ、此處に、バン、バーガースといふ大きな百貨店があつて　此家のラヂオの實驗室を見に行つた時のことである、夕方からラヂオの實驗が始まることになつて居つて、其日のプログラムには紐育に住む若い婦人の豫言者の靈感發表と　ニューワーク市のエピスコバル教會に屬する教徒のコーラスが載つて居つた、此店のラヂオの取扱主任が彼の友人でハロルドロイド張りの大きなべつこうぶちの眼鏡を掛けた面白さうな若い青年であつた、彼は此青年に私を紹介するのに「此日本の紳士は前米國駐在子爵石井大使の子息です」といつた眼鏡の青年は之を受けて、直ぐ隣に坐つて居つたエピスコバル教會の田舍の百姓らしい夫婦に向つて同じやうな口調で、眞顏にな

つて私を紹介した、紹介された百姓らしい老人は目を白黑して驚いた顏をして返事もしないさて眼鏡の先生ニッコリ笑つて『ごうです氣持が好いでせう」と私はふざけた眞似をする連中だと思つた。私の友が曰く「亞米利加では皆斯んなふうにユーモアがある、先年日本から某が來た時、私が方々案内して歩いて、某々日本の皇帝の親友で、毎日エンペラーと遊んでゐると紹介すると、紹介された者は皆驚いて、忽ち某の名聲が揚つて、新聞廣告よりも良く利いた、マア君氣を惡くしないでくれ」と、亞米利加氣質はザット斯んなである誠に無邪氣なところがある。

ラヂオの發達

何處の國にも豫言者といふやうな者があると見えて、此晩ラヂオで若い女の豫言者は星の運行と人生といふやうなことを研究して居る人で、毎週月曜に此家のラヂオで種々各方面から手紙で照會してくる運勢に就て一週間分の豫言をするといふことである、例の友が私にさ

ゝやいた「亞米利加にも隨分フールな奴が澤山あるからね」と、次にはエピスコパル教會の老若男女が合唱をやつた兎に角ラヂオの發達と之が實用は非常に盛なものだ、各自宅で晩餐後斯んなことが聽けるので、七八歳の子供でもラヂオの理窟は直に覺ゑて文明科學の智識に浴することが早い、ウールウオースの五仙十仙均一商店の店先にはラヂオの部分品さへ商品として並べられてゐる、英國でも盛んだ、メープルと稱する家具專門の商店へ行くと、態々案内人がラヂオの實驗室へつれて行つて音樂を聽かせてくれる、佛蘭西は更に盛んである、昨年の十二月から民間使用が許可されて、巴里では晩餐の食卓でオペラが坐ながらにしてエッフル塔の中繼ぎで聽くことが出來る、機械はこいふと三十圓も出せば市内だけの距離内で充分聽ゑる、百五十圓位の機械を買へば紐育のオペラを聽くことが出來る、二千六百の音度があれば巴里から暹羅の盤谷まで通ずるといふことである、亞米利加は百貨店といふ百貨店ラヂオを持たない店はないくらゐだ、此亞米利加の友も或る日本と關係のある亞米利加の會社の社員であるが毎日會社で實際仕事に從事して居る經驗から得た商人心理といふ方面の研究

を續けて居つて、毎週二回此研究の結果をラヂオに依つて發表する、ラヂオ會社は原稿を五六分間の豫定で買つてラヂオに掛ける既にラヂオを商賣に應用して居る處が亞米利加式であると思つた。早く日本でもラヂオの民間使用が望ましい。

米國婦人の研究心

大西洋通ひの佛國定期船巴里號は若干の乘客を乘せて紐育へ向けアーブル港を出帆した、アーブルを出帆して紐育へ着くまでには全一週間を海上で暮さなければならない、毎日船内で新聞が發行され、又晩餐の後には音樂も聽かれ、其外種々の運動設備が完備しては居るが、矢張り海上生活は一方ならず無聊を感ぜしめる、一日此船の乘客である佛蘭西人の牧師がボルシヱビズムとサンヂカリズムといふ題で講演をすることになつて一等船客が一同談話室に集まつた、講演の論旨は餘りボルシヱビズムの題目には觸れずに、却て佛蘭西のサンヂカリストやサンヂカリズムの問題に關する事柄が多く講演せられ、且つ結局此講演者の結論

は宗教の力に依り勞資協調て行かねば駄目であるといふ樣な意味で牧師の立場から自然宗教論を力說されたことを記憶してゐる、さて此論旨の可否は別問題として聽衆中には可成り婦人も交つて居つて殊に亞米利加の婦人が多かつた、然るに講演が濟むや、是等の亞米利加の婦人が牧師を取圍んで盛に所見を質して居るのを見たが、自國語でさへ之れ等の專門上の問題に關して婦人が各自の意見を發表することは並大抵ではないのに、不自由な外國語を以て其所見を開陳し、以て智的方面の啓發をしやうとする其研究心の旺盛なるのに感服せざるを得ない、勿論是等は特殊の智的方面に携はつてゐる婦人であつたかも知らないが、何れにしても新興の亞米利加として婦人の教育方面に於ける活躍ぶりも之に依つて想像が出來る譯である。

自他の區別

紐育へ着いた日が土曜日の朝で、其日は何處のオフヒス銀行も晝の十二時限り休みになつ

てしまうので、用を足すわけにもゆかず、詮方なしに其日の午後の三時に開かれるボックシングの試合を觀に行つた、會場はボローグラウンドで、當日は前の世界的選手のウ井ラード對加州選手ジョンソンの試合が呼び物であつた、會場に着いたのは三時少し前で、國技館のやうな會場の附近は群衆ど自動車で一杯になつて居り、會場の中からはもう試合の開始を迫る拍手の音さへ盛んに聞えて居つた、二三等席は疾に賣り切れて殘つた一箇所の切符賣場前に入場者が一列を爲して並んでゐる、其間を巡査が混雜を制しながら秩序を保たしめて居つたが、此巡査が時々列内の者から竊に金を受取つて切符賣場の傍へ行き出札場附近の混雜を防ぐやうな風をして切符を買つて來て其者に渡すど、其依賴者は一弗乃至二弗位のチップを巡査に渡して入場してしまふ、巡査が切符を買つて來て、賴まれた男に切符を渡してゐるど後に控へた男がチップを幾ら奮發するだらうどいふやうな顏をして暢氣さうにチップの高を眺めてゐる、元來群衆整理の任にあたつてゐる巡査が内密で切符を買つてやつて、チップを貰うのさへ不都合な話ではあるが、列中にある他のものが一向之に關して苦情も云はねば別

に不平も言はない、察する處自分と同じやうに一弗なり二弗のエキストラを拂へば前の男のやうに早く切符を買うとが出來るが、自分にとつてはその事が不經濟だから順番のくる迄順送りに札賣場の前までおされながら行く、と云つた、つまり他人は他人、自分は自分といふやうな考へを以て居るものと思はれる、それで日本ならば假に斯んな場合に群衆も承知しないが、賴んだ者も直列から拔け出して巡査の買つてくる切符を列外で待つてゐるといふやうになりたがるものだが、是が矢張り切符を買つて傍まで巡査が持つて來てくれるまでは、ヂッと順番に並んで居るのには感心した、一體日本人はよく云へば親切すぎるし、惡く云へば圓燒が多いといふのであらう、兎に角其日は入場して數番ボックシングの試合を見た、餘り興味もなかつたが場内は矢張り相撲に熱狂して踊り出すと同じやうな見物人もあつた、ウ井ラード最眞のものであらう、ウ井ラードの得意とする下から右手で突上げる眞似をして「それもう一ッそこだ」などと自身で試合をして居るやうな積りで、無暗に早口で隣から身振り手振りで話し掛けて來ても俗語の多い亞米利加人、斯んな場合の英語は殊更に碌々半分も聽

きされない、フフウンと鼻で解つたやうな返事をしてやれば對話者は得意で一生懸命に選手の來歴まで語り出して、何時か十年の知己のやうな相手方となつてしまつた、亞米利加の無雜作なところが現はれて面白い。

野球場の物賣り

翌日はヤンキーのスタヂウムへ往つた、七萬五千人を收容するといふ新設の大スタヂウムはフアンで滿員であつた、人氣者のベーブルースが偉軀をボックスに現はすと内外野手が云ひ合はしたやうにズッと後へ引下つて守備を固くする、場内は刻一刻緊張の度を增して、ボローグラウンドの前日の試合に劣らぬ大盛況であつた、其間を帽子の庇にアイスクリーム十仙と書いた物賣りが、熱狂した見物人の頭を冷しにアイスクリームを賣つて歩くが流石に野球の本場だけにアイスクリーム賣りまで野球の心得があると見えて遠くの方の席に居るものが十仙の銀貨を投げるとアイスクリーム屋はオーライトと片手で受けてアイスクリームは見

物人が近くに居る者から順次取次いで渡してやる、落花生實が現金と落花生の袋との交換を見物人の頭の上でキヤッチボールの練習をして居るやうな光景は一寸亞米利加以外に見られぬ事だ、何と云つても亞米利加で感服するのは野球である。

停車場の見送り

亞米利加の大會社の支配人に紹介狀を貰つたとする、何日頃に紐育に着く豫定だから、其頃お目に掛りたいが、御都合の日取りを知らせてくれと、前以て手紙を出すと何日にホテルに出向くとか、或は貴君の御都合の好い日に電話で知らせてくれたら直ホテルに伺ひませうといふやうな返事が來る、何となく氣さくな感じがするが、さりとて其後毎日顏を合はして段々親しくなつた後、「愈々日本へ歸る日取りが極まつた、永々御世話になつて有難う」「では又是非再遊をお待ちします」と手を握つて分れたが最後、態々停車場の見送りなどは決してしない、僅か東京大阪間の猫の額ぐらゐの土地を往復するのに黑山のやうな見送りは亞米利

加人に見せたら嘸驚くことであらう。

紐育などで特急列車の發車間際に、乘車客の極親しい友達か或は又親類の人達ともいふべき者が僅か四五名もプラットフオームに入つて居れば關の山で、全然見送人といふものはない。改札口の車掌が見送り人に對して「何處へ」「見送りに」「直ぐ戻りますか」「よろしい」といふので入場切符も何にもなく入場させる、第一、入場切符といふやうなものを賣つてる人間は間誤ついて居ないといふも過言ではあるまい、日本で入場切符賣出しの元祖は山陽鐵道であつた、其時分餘り田舍の人が澤山プラットフオームに入込むので、之が防止手段として、入場料を徵收することになつた、其頃の思想としては入場料をとるといふのが世間體がどうかといふ懸念から料金の半分を慈善團體に寄附するといふ名目の下に入場料を徵したのが抑濫觴である、其後國有になつて入場料徵收は當り前といふやうに思はれて値上げまでするやうになつたが、寧ろ此際震後の稅制整理の一端に附け加へて停車場の入場料も思ひ切つ

て一圓位に値上げをしたならば、つまらぬ時間潰しの弊習も餘程減退して、プラットフームの整理なども都合よくなるであらう。

紐育と東京

日本と亞米利加、即ち東京(震災後は別として)と紐育は、人情風俗其他百般の事柄が何んなに違つてゐるか比較して見るのも興味あることだ、紐育と東京は、恐く何んでも反對だと思へば間違ひない、先づ國體からいつても、亞米利加は共和國で、日本は帝國、白人種に對して黄色人種、亞米利加は國が大きくて國產が豊であるのに、日本は國は小さくて貧乏、亞米利加人は大きくて日本人は小さい、向ふは洋服で此方は着物、靴に對する下駄、英語と日本語、一方は左から右へ書くのに、一方は上から下へ、個人主義に家族主義、平等主義と階級制度、亞米利加では「ミスター」一字で濟むのに、日本は閣下、貴殿、君、貴樣、貴公などと頗る複雜だ、亞米利加の建物は大きくて高く、日本は小さくて低い、建築をするのに紐育

は地下の岩層をダイナマイトで打壞して居るのに、日本では松丸太を打ち込んでゐる、西洋の大工は鉋を手許から先へ押出すのに、日本の大工は先の方から反對に引いてくる。日本では屋根を先きへ葺くが、亞米利加は土臺の建築が先きで屋根は後廻し、日本の左側通行に對して右側通行、米食に肉食、斯ういふふうに百般の事柄を擧げ來ると、何一ッ反對にならないものはない、けれども唯一つ同一のものがある、之れは何か「道德」である、人に親切にしてやれば人も亦親切にしてくれる、默つて他人の頰を毆れば他人は必ず怒る、日本人も亞米利加人も之には相違がない。

紐育の地下鐵道

紐育に於ける印象はと聞かれたなら、兩方の耳を塞いでゴーッと響く地下鐵道の騷々しい雜音と答へやう、何となくざわついて道行く人もソハ〳〵と忙しさうな紐育では、地下鐵道が亞米利加氣質を代表してゐるやうだ、機械萬能で人力の節約をしてゐる亞米利加では地下

鐵道の停車場に白銅貨の交換をしてくれる番人が僅かに一人居るだけで、驛員も居なければ其他に係員は一人も居ない、改札口に自働車のハンドルの輪のついて居ないやうな仕組へ、自動開閉器が取附てあつて、プラットフォームから出る時には一人々々がチヤンチヤンと自由に出られるが、入場する場合には五錢の白銅を入れないと、其枠が廻らない仕掛になつてゐる、强て下から潜つて入れば、入れないことはないが、そんな不正をするものは一人もない、誰れも見てゐなくとも五錢の白銅を入れて入場する、ボギーの大きな車を六臺ぐらゐ連結した客車には車掌が只一人、此車掌が中央の車に陣取つて喇叭を吹いて次の驛を知らせると、電氣仕掛の蓄音機で連結された各車に大きな喇叭から同じやうに次のステーションの名前を降車客に知らせる仕組になつてゐる、巴里も倫敦も紐育も地下鐵道が驛に止まれば、客車出入口が開扉され、發車すれば自然に閉る自動開閉式は、何處までも人手の入らない工風である。

禁酒國の裏面

兎に角偉いなんのかのと批評はしても、國を擧げて、ドライにした勇氣と斷行力には敬服する、元來此禁酒案は、二十年も以前に一度ならず再三問題になつたが、容易に實現するに至らなかつたのが歐洲大戰を機會に、禁酒黨が非常な勢ひで擡頭すると同時に、砂糖會社或はキャンヂー製造組合等の運動が、異常な努力で終に全米を擧げて、禁酒斷行といふ段取に急轉直下した譯である、若しあの際酒屋組合がモウ少し早く五百萬弗も運動費を使つて先手を打つてしまへば、禁酒案は不成功になつてしまつたやらうといふことである、禁酒國の裏面を見ると面白いことがある、金持は自由に酒が飲めて、貧乏人は容易に酒が咽喉へ入らない、それで密かにメチールの入つた品なぞを飲む爲めに、眼病を患ふ者が多い、殊に勞働者に之れが多い、禁酒の結果國民保健上に就て、委しい統計上のことは知らないが、密造の盛んなことは事實であつて、寧ろ是を奬勵するやうな結果になつてしまつた、酒を賣ることは

禁じたが、醸造は禁じてないから自家用にはいくらでも造れる、ドラッグ、ストーアに行けば、ビールの原料を賣つてくれるばかりでなくビールの作り方まで教へてある、ビールは何處でも飲める、只美味くないだけだ、醫師の證明を得れば藥屋でウヰスキーが自由に買へる醫者は一弗か二弗でウ井スキーを賣るのと同じ理窟になる、各州からワシントンの中央政府へ毎週木曜日に汽車で屆くオフヒシアル、メールの卅五個の郵便物の中眞正のメールは僅に五個で、殘りの三十個は皆ウ井スキーの變態物だと聞いては一寸呆れる、又斯んな話があるワシントンから十哩ばかり離れた村から巡査となつたものが二人あつて、ワシントンの警察署に勤めて居た、或日その巡査が久しぶりに其村へ歸つたところ、巡査の親達が大變喜んで息子は嘸ワシントンで嚴格な警察の仕事をして居つて美味い酒の一杯も飲むことは出來まいまあ折角歸宅したのだから充分飲んでくれと、親爺が自慢の手製のウ井スキーを侑めたところ息子の巡査も驚いたが、親爺の方も亦驚いたといふのは、息子の方はワシントンで毎日厭きるほど自由に酒が飲めるし、父親の方は其村内切つての一番の大密造家であつたといふ、

其村は戸數二十四戸位の小村で二人の巡査の家が村内で一番密造高が多いといふことであつた。禁酒の可否は別として、兎に角善かれ惡かれ輿論で定まると、直に斷行する亞米利加の團結力は恐るべきものである。私が紐育へ著いた時分にはウニット派とドライ派が紐育タイムスの紙上で盛んに禁酒問題で論戰して居る時分で、紐育へ出入する外國船まで取締を及ぼさうといふ事で、佛蘭西船との間に問題まで惹き起して居つた、佛蘭西の法律に依ると船員には船が港に滯泊中は、一人につき一日必ず一升の葡萄酒を給與することが法律によつて定められてゐる、是は亞米利加の禁酒國の港と自國の港との如何を問はないといふので、船員が承知しない、佛國政府からも抗議が出て居るやうな事が其當時新聞紙上にも見ゐた、加奈陀太平洋汽船が晩香坡を出帆すると、間もなく私はバー、ルームへ入つてボーイに酒を命じたボーイが笑ひながら「暫らく御辛棒を願ひます、此船は今晩の十二時頃ヴ井クトリアへ入港しまして、二十哩沖合へ出ますと、早速差上げますからどうぞそれまでお待ち下さい、もう直きです」に私も苦笑した。

エレヴエーターと脫帽

亞米利加は紐育のウールウオースの五十六階の魔天樓のやうな建物を筆頭に、無彌味に背の高い建物が多く、隨つて昇降機も汽車のやうに普通(ローカル)と急行(エキスプレス)とに分ち、乘客を區分して居るなどは面白い、亞米利加で閉口するのはエレヴエーターへ乘つた時、婦人が入つてくれば男子が皆脫帽して敬意を表することだ、女尊男卑、常にレデース、フアーストの國で、是も國の風俗と思へば仕方がないと諦めもつくが、ホテルなどで、つい先刻まで部屋の掃除をして居つた女中が夕刻退出時間になつて歸る場合に偶然エレヴエーターなどへ乘り會すと、矢張り脫帽の禮をしなければならない、何だが馬鹿々々しい感がある、然しダウンタウンの會社銀行の在るビルヂング等のエレヴエーターでは脫帽しなくてもよいことになつてゐる、此の解釋が面白い、ホテルは一軒の家と見做して居るが、ビルヂングの中は多數の家が隣合つて居るやうなもので、言はゞ、街に家が軒毎に立並んでゐるのと同じたといふのである、大變

困苦しいことを云つて居るかと思ふと、ひよつと融通の道をつけるところに亞米利加の常識に依る良い結果が現はれてくる。では亞米利加の男が此脫帽を喜んでゐるかと云ふに決してさうぢやない、皆迷惑想に仕方なく帽子を脫ぐやうだ、女に生れたら亞米利加に住むことだ

米人氣質

一口に亞米利加と稱して總ての事を判斷して了うと、大きな間違ひを生ずる、亞米利加は國が大きいだけに、土地柄によつて餘程異つた空氣が漂つて居るのだ、先づ紐育に着いて見ると、第一に金だ、幾何儲けた(How much money have you got?)お前は金持(ハブユーゴット)になつたか、但しはまだか、とスタンダートを成金になつたか否かに於て人の成否を判斷する傾きがある、それであるから話は先づ金だ、先立つものは金だと下世話に云ふ通り、紐育は金を標準にして掛る。紐育を去つて東の方、ボストン方面へ行くと、此處では教育の盛んなだけに、人の智識(ノレッヂ)を問ふ(How do you Know?)お前は何を知つてゐるか、教育はどれだけ受けたか、パチエ

ラーかマスター　オブ　アーツかと、相手方の智識の有無を尋ねる、次に南方のワシントンへ行けば、今度は家柄を聞く、お前は何處から來たか(Where do you come from ?)お前の御父さんの職業は何だ、州の知事か、法律家か乃至上院議員か、先祖はどうか、とフアミリーの事を尋ねる、最後に西のシカゴ方面では、人の手腕を問ふ、お前は何々が出來るか(What can you do ?)一人前働けるか、腕に覺えがあるかと、其人の伎倆を要求する。

亞米利加の青年

屈託のない亞米利加の青年の顏を見ると、如何にもノンビリとした風が見える、亞米利加の勞働運動の惡化しない理由も此ノンビリした氣分が國中に漲つて居るからだ、何故、そんなにノンビリして居るかと云へば、働きさへすれば誰れでも喰へるからだ、又勉强しさへすればいつ成功するかも知れないといふ心持ちが何人の頭にも浮んで居るから、人の成功したのを見ても餘りくよ〳〵もしなければ羨ましがりもしない、自分もいつか機會を得れば成功する

ものと考へてゐる、或人が亞米利加人を評して、亞米利加人は人生をゲームか何んぞして居るやうに考へてゐる、と云つた、人が金を儲けたのも、ボーカーで儲けたぐらゐにしか考へず、又失敗しても直にボーカーで取り戻すやうに、金持になるものと思つてゐるのだから亞米利加人の顏は活き〳〵として、日本人の顏は澁面作つた感がある、亞米利加人から云はせると日本人の顏はポーカー、フエースだといふ、ポーカーをやるとき、手が好いと濟して、反對に手が惡いと無理に笑顏を作る、つまりポーカーをやるときの顏だといふが是は傳來の苦樂色に現はさずといふ日本特有の遺物であることは亞米利加人の知らない爲めである。

亞米利加の青年殊に亞米利加の學生ぐらゐ世界に幸福なものはあるまい、衞生設備から校舍の建築、殆ど完備した教育法によつて體育、智育、德育を完全に敎へられるやうにしてあつて、金にあかせて教育する爲めに學生が如何にも潑剌として苗木のよい杉の木がズン〳〵眞直に伸びて行くやうな有樣だ、日本の盆栽畫一教育と違つて卒業後に棟梁の材になるのも無理のないことだと首肯かれる。

亞米利加の學生に就て最近の一挿話がある、ボストン市で百萬長者の某が死期が近づいた時に、法律家に遺言狀を託して永眠した、それは今より凡そ數年前の事である、其遺言狀には此金持の二人の子息(ハーバード大學在學中)が丁年に達したならば二人の子息に各百五十萬弗づゝと未亡人には二百萬弗を遺産分配してくれと認めてあつた、恰度今年の四月が此二人の子息が、ハーバードを卒業して丁年にも達したので、右の法律家は遺言を執行する爲めに、二人の子息を呼んで預つて居つた遺産の分配をするからといふことを告げた、すると其二人の者は、之に對して拒絶をした。誠に御厚意は有り難い、が然し我々は二人とも今年大學を出ると或る會社に就職して各自一週十弗づゝ自分の力で得た金で衣食してゐるから、今更親の遺産などを貰うことは思はない、學校を出るまで教育されただけで自分達は充分だから其三百萬弗はお母さんに差上げて貰ひたい、と答へた、處が母親も二百萬弗の遺産を分けて貰つたので、それ以上もう必要かないといふ、結局其金は慈善團體に寄附するといふことになつたといふが、日本の金持の息子に是だけの意氣と獨立心を持つ者が果して幾人あるだら

うか。彼と是とを比較して見ると思ひ半に過ぎるものがあらう、社會の缺點か或は教育の方針が惡いのか大に考究すべき問題だ、働かざるものは喰ふべからず、と露西西のレーニンはうまいことを言つた。

ペンシルベニアホテル

紐育のペンシルベニア停車場の地下道を向側へ抜けると、ペンシルベニア、ホテルのメーン、フラワーへ出る、(斷つて置くことは歐米共に日本の一階と稱するのがメーン、フラワーで二階をフアーストフラワーと呼んでゐる)さて、此ホテルは亞米利加での最新ホテルで、又民衆的なホテルだ、所有者はスタットラー氏で、デトロイトバッフアロー、クリブランド及セントルイスに支店を有して、今米國のホテル界を風靡する勢ひで繁昌してゐる、此ホテルは、モットーとして我々はサービスを賣るのだと公言してゐる、成程實に行屆いたもので、何の仕事でも此ホテルのやうな經營法を以てしたならは恐らく成功しないものはあるまい。

The Pennsylvania Register

Thursday, June 7, 1923

AMERICAN STORES LEAD WORLD IN EFFICIENCY

Jepanese Visits Many Lands Collecting
Progressive Ideas for Store in
Tokio : Makes Comparisons

A novel mission is that of mr. T, Ishiwatari of Tokio, Japan, a recent guest of Hotel Pennsylvania who is on his way back to the Flowery Kingdom after circling the grobe "sightseeing for department stores" On the course of his travels Mr. Ishiwatari has visited practically civilized country in the world looking for ideas to be incorporated in the store of Shirokiya & company of Tokyo.

Store buildings, methods of window display, arrangement of floor space and special servces to patrons have interested Mr. Ishiwatari

wherever he has gone. He reports that in general he finds the stores of France most similar to those of Japan, but the Americans alone have the idea of conservation of space worked out efficiently, this last is of particular importance in Japan where space is paecious.

"German and French stores are bad from a merchants points of view because space is wasted. American department stores are the most progressive in the world" says Mr. Ishiwatari, but French specialty shops lead in their line. Parisian window displays are also particularly fine from an artistic and selling point of view.

" It is surprising to learn that Germany has the largest department store in the world. Berlin has a store twice as large as that of the largest store in New-York.

" In Italy the newer department stores are housed in beautifully constructed and decorated buildings. In Vienna there are striking displaps of leather work, but the store buildings are old and dark. English stores are compact but confusing to one not used to their arrangement."

紐育のペンシルバニア、ホテルは室數凡そ二千を算し、十九階の建物で、從業員が二千人ばかり居る、若し此設備で日本で之を經營するこなれば、從業員の數も五千人ぐらゐ要るだらう、ナイフやフォークの類から銀器類が金額にして、邦價の五百萬圓所有して居るさうだ地下室には洗濯機械だけ五十位あり、パン燒設備があつて其當時ロールパンを一日に一萬六千個燒いて居つた、地下室の倉庫には食料品罐詰が山こ積まれて居つて、食鹽なごはセメント樽のやうに大きな樽詰めが澤山積まれて在る、圖書館あり、喫煙室あり、ホール、大宴會場、舞踏室、讀書室さては講演室から、商人が取引先この商談に必要な見本品閲覽室迄備へられてある、食堂はメーン　ダイニング　ルーム、カフエールーム、ソーダフアウンテンルーム、グリル　ルームが在り其外に床屋、郵便局、電信局、旅行案内所、藥屋、屋上食堂、洋物屋、寶石商、煙草屋、書籍屋等殆ご此ホテルで用の辨じないこはないくらゐ萬事が一所に揃羅されてるから頗る便利である。

元來紐育のホテルは停車場の待合室のやうな役目をして居るし、共同便所のない紐育は大

抵ホテルの便所で用を足すこになつてゐる、此ホテルはホテルだけの新聞を發行して居つて、日曜日以外は毎日午後の四時頃になるこ各部屋へ一枚づゝ配付してゆく、此ホテルの新聞の編輯人兼記者は妙齢の婦人が擔當してゐる、此ホテルの内部の組織や其他の設備を見物したいこ事務所に申込むこ心よく引受けてくれて、案内者を附けてくれるが流石にホテルの方も拔目がない、案内する前に一寸應接室に待たせて置く、其間に前の二十二三歳の婦人の記者が來て記事になりさうな種をこつてゆく、その機敏なのに感服する、各階の十字路に婦人の監督が晝夜交代で一人づゝ各階を受持て居つて、部屋女中を監督してゐる、部屋女中は一人の受持が晝間が十部屋、夜間は十六部屋を分擔してゐる、部屋代は一人室なれば、湯殿付大概五弗、二人室で八弗から十弗ぐらゐで、部屋の内部は、華美でなく實質的に氣持よく出來て居る、風呂場の洗面器の上のボタンを三樣に分つて熱湯、冷水、氷水こ晝夜を分たず出るやうにしてあるから夜中の一時でも二時でもアイス、ウオーターが自由に飲めるわけである、部屋の机の上には封筒、繪葉書、用紙、ペン、インク、吸取紙こシヤツ、洋服のボタ

ンに黑白の絲と針が置いてあつて、毎朝客が起きて階下の食堂へ出たあとでは、車のついた籠を廊下を押しながら、女中が受持の部屋を掃除して寢臺の敷布を取り換へ、風呂の跡始末から前記の細かい品々の補充をして置く、一寸部屋を明けると直ぐ女中が後へ廻つて部屋の取片付から室内萬端始終整頓してあるから、客自身で身體さへ動かせば何でも要は辨じるわけである。

部屋の入口の戸をセルビドールと稱して、太鼓腹に内外兩面に鍵で開くやうにしてあつて客が靴磨きや洗濯物があると、洗濯物のリストへ自分で員數品名を記入し洗濯袋へ入れて、此セルビドールへ吊して、電話を監督へ掛けて置けば、朝出した洗濯物は夕方出來上つてくる、洋服のプレッス等、今晩の宴會に必要だから何時に屆けろといふことを書いてセルビドールへ入れて置くと、時間迄にはチャンと出來上つて持つてくる、寢臺の頭の上に電氣が取付けてあつて、寢ながら書物でも讀み疲勞れてきたとき鎖を引けば寢たまゝ消燈し起き上る必要もない、食事は强ちメーンダイニングルームへ入らなくともカフエールームかフアウン

テレルームで一弗か一弗二三十仙で充分濟むし、もつと簡單に安くあけやうと思へば地下室のグリルルームへ行けば、銀行の帳面付をするやうな椅子で五十仙内外で一食一品で濟ます ことが出來るから誠に便利で且つ安い。

醫務室が十階にあつて無料で診察してくれる、投藥の必要があれば醫者が處方箋を書いて階下の藥屋へ渡すと藥屋から部屋へ直に屆けて置いてくれる、咽喉が乾けばソーダフワウンテンで種々の飲料が飲める、食堂へ出るのが大儀ならば部屋へ自由に運んでくれる、疲勞すれば土耳其風呂もあり、踊りを踊りたければ屋上のレストラントで毎日六時からダンスを夜の十二時までは開いてゐる、エレヴエーターは兩側に五箇所向合つてエキスプレッス、ローカルと分けて十階まではローカルの方を使用し、エキスプレッスの方は十階までは停止せず素通りで昇降しやうといふのだ、兎に角徹頭徹尾宿泊者の便利を計つてチップや餘計な金を使はないやうにして、而もホテルは引合ふ範圍の、モデレートの値段で經營をしやうといふ積りなのだらう、何れにしても大規模にして、忙しい亞米利加に相應しいホテル設備である

と思つた。要するに客自身で無精さへせずに手足を動かせば、設備は完全にして置いて、出來得るだけ經濟的に簡單に宿泊させやうといふのだ。

ジャヅバンヅとカクテール

亞米利加はどう見ても矢張りジャヅバンヅの國だ、亞米利加の音樂の賑やかな音調が、恰度亞米利加の國民性を代表してゐる、そして此ジャヅバンヅが世界を風靡する勢ひで擴まつてゐるのが、ダンスの流行を見るに至つた原因であるといふくらゐ世界的になつた、亞米利加のバーとカクテールが世界に行渡つたのと、ジャヅ音樂の流行とは亞米利加の勢力の一端を語るものである、ウアーと云つて騷ぐと、善かれ惡かれ立ごころに團結する、先年シャトルで電車賃値上の運動が起つて、忽ち値上實行となつたが、直ぐ又永續不可能となつて撤回した、流行でも何でも此調子で移り變りが激しい、デー、ライト、セービング、タイムといふことは、實は英吉利から始まつて、之を主張したのは英吉利である、然るに其實本家の英

吉利は一向實施もしようとしないのに早呑込の亞米利加は各地で實行した、但しワシントンだけは實行して居らない、旅行者にとつて之ほど不便な間違ひ易いことはない、汽車の時間のスタンダード　タイムを除いてホテルから會社まで、皆デー、ライト、セービング、タイムを實行してゐる、尤も此時間の早繰りは會社銀行員にとつては早出の早退けで都合がよいが、是とて全國凡て一樣にやるならよいが、或る處はやり、或る處はやらぬでは、誠に以て迷惑千萬で、恐らく亞米利加もソロ〳〵面倒になつて來たに違ひない、が併しウアーと云つて皆總立ちになる處が亞米利加の亞米利加たる處で、其處に好いところもあれば惡いところもある。

亞米利加の代表酒にカクテールがあり、食物にもカクテールがある、之も亦亞米利加式だカクテールといふ酒の出來た謂れを知るものは尠いだらうから一寸說明を加へる、昔亞米利加の田舍で百姓が或る日、減茶苦茶に喜ばしいことばかり重なつて來て、それこそ手の舞ひ足の踏むところを知らずといふ有樣、餘りの嬉しまぎれに酒場に飛　で行き、手當り次第德